

令和5年度 北見医師会看護専門学校

看護学科 3年課程

授業計画書（シラバス）

授業科目とその概要【1・2年生（新カリキュラム）】

頁	分野	科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	授業科目概要	講師	
1	基礎	論 理 学	1	1	15	-	文と文との関係性をとらえ、根拠と結論をつなぐ論証を読み解くことにより、論理的な表現力を身につける。	桜井 謙一	
2		文 章 表 現 法	1	1	30	-	看護において、論理的に考え、客観的事実や自分の考えを正確に伝えることは、対象の安全を守り、医療チームの任務遂行の上で基本的かつ重要なことである。日本語の文章表現法を学び、適切な文章表現方法を身につけ、レポートや看護記録における文章表現能力向上と実践の場での伝達能力を養う。	桜井 謙一	
3		情 報 科 学 I	1	1	15	-	コンピューターの基礎的知識と基本操作を身につけ、医療現場で普及している電子化に対応するための能力を身につける。高度情報社会における情報管理方法や倫理について理解を深める。	太田 敏彰 有田 健一	
4		看 護 物 理 学	1	1	15	-	看護技術の基礎となる物理学の原理・原則を知り、根拠を持った看護技術を実践するための基礎的知識を学ぶ。	後藤 重孝	
5	分野	生活のなりたち	1	1	15	-	衣食住・経済・冠婚葬祭など暮らしの中の基本的な知識と現代社会の多様な生き方、家族のあり方について考え生活体験の少ない若者の視野を広げる。自らのいろいろなライフステージを想定し、ライフプランを考える。看護者として患者の多様な生き方を受容できる知識を得る。	夏井 留美子	
6		心 理 学	1	1	15	-	看護の対象である人間のこころと行動を理解するための基本となる心理学の基礎について学び、人間の行動を規定するこころについての理解と関心、自己洞察を深め、人間に対する幅広い視点を育て養う。	中野 武房	
7		宗 教 文 化 学	2	1	15	-	患者理解のためには、その背景にある文化を知ることが必要である。日本の宗教文化についての基本的知識を身につけ、グローバルな視点での宗教文化に関する基本的な知識を養い、様々な習慣や考え方、価値観があることを理解する。	森下 一彦 白崎 隆徳 長谷川 英樹	
8		保 健 体 育 I	1	1	15	-	スポーツ・レクリエーションの理論と実践を通して、生涯にわたる自己の健康・体力の維持増進を図る。また、スポーツを通して学生間の交流を深め、集団としての協調性を養う。	奥津 建志	
9		ホスピタリティ論	1	1	15	-	ホスピタリティは「思いやり」「心からのおもてなし」と訳される。良好な人間関係の構築と維持、相手の立場に立って心から相手のことを考えて行動することを目指す。その基本精神である「ホスピタリティ・マインド」について学び、実践できる基礎能力を養う。	夏井 留美子	
10	専門	解 剖 生 理 学 I	1	1	30	-	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのかを理解する。ここでは内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。	村林 宏 橋詰 良一	
11		解 剖 生 理 学 II	1	1	30	-		村林 宏 橋詰 良一	
12		解 剖 生 理 学 III	1	1	30	-		鈴木 望	
13		解 剖 生 理 学 IV	1	1	15	-		村林 宏 橋詰 良一	
14		生 化 学	1	1	30	-		人間の体がどのような物質から成り立っているのか、それらの物質がどのように作られ、分解され、調節されて生命を維持しているかを学ぶ	花田 政宏 安藤 寿典
15		栄 養 学	2	1	15	-		人間に必要な栄養素の種類や働き、食物の吸収・代謝、栄養のマネジメント、栄養評価やライフステージ別に必要な栄養などの基礎的知識と各種疾患患者に必要な栄養管理・食事療法について学ぶ。	井田 亜希子
16	基礎	病 態 治 療 学 I	1	1	30	-	病理学：病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響を知り、それぞれの病気について本質を理解する。 血液・造血管疾患の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。	藤木 佑斗 伊藤 善也	
17		病 態 治 療 学 II	1	1	30	-	呼吸器疾患、循環器疾患、眼科、乳腺疾患の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	小笠 壽之 斉藤 高彦 石羽澤 明弘 三宅 毅	
18		病 態 治 療 学 III	1	1	30	-	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	上林 実 西谷 篤史 根岸 秀明	
19		病 態 治 療 学 IV	1	1	30	-	脳神経疾患、免疫疾患・感染症、皮膚疾患の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	高杉 和雄 森本 一郎 菊地 惠孝 小林 孝弘	
20		病 態 治 療 学 V	1	1	30	-	腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	谷口 治 小野寺 栄司 鈴木 豊典 村田 保博	

頁	分野	科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	授業科目概要	講師	
21	基礎	復の促進 病態治療学Ⅵ	1	1	30	-	外科的療法：外科的治療を受ける患者に共通する麻酔法、手術手技、疼痛管理、手術体位などの基礎的な知識を理解する リハビリテーション療法：各器官の疾患に伴う障害とリハビリテーションを理解し、日常生活行動の再獲得のための支援を学ぶ	荒川 穰二 田中 聡美 阿部 智充 日谷 正希 赤間 太太 伊林 大恵 庄司 寛 小野 直和 羽石 圭佑	
22			薬理学	1	1	30	-	種々の薬物が生体に及ぼす影響を理解し、薬理学の基礎的知識と薬物療法、薬理作用・副作用について、また看護上の注意点についても学ぶ。	横堀 友記 千葉 真人 佐藤 友昭
23			微生物学	1	1	30	-	病因となる微生物の特徴と生体に及ぼす影響について学ぶ。感染や発症に対する生体防衛機構について理解する。感染予防と対処方法など、感染対策としての看護の基本的知識を養う。	増田 悦郎
24			臨床検査	2	1	15	-	各診療科で行われる主な検査と目的、流れと看護師の役割などの概要を学ぶ。ここでは、なぜこのような反応・数値が出るのか等も学び、病態と解剖生理の理解にもつなげる。	畑中 宗博
25	分野	健康支援と社会 保障制度	総合医療論	1	1	15	-	社会と共に医療のあり方が大きく変貌している。ここでは医の原点と変遷および現代の医療問題を理解し、「いのち」と「健康」の視点から医療のあり方や生命倫理および医療の中の看護の役割について、考察する能力を養う。	荒川 穰二
26			公衆衛生	1	1	30	-	看護の対象である個人および集団の生活と健康について、健康を取り巻く環境と関連付けて考え、生涯を通じて健康の維持・増進するための個人・集団・地域への働きかけとしての保健活動について、基礎的知識を学ぶ。	三浦 寛高 浅利 卓実 北山 明子 玉置 真一
27			臨床心理学	2	1	30	-	心理学で学習した基礎知識をふまえ、人間の心理的発達を知り、人間の行動とこころの関連を理解する。演習や事例を通じて、面接やカウンセリングの基本的技法を習得し、自己理解や他者理解を深め、自己の成長や人格形成を図る。また実践において対象の心理を理解した援助・教育ができる能力を養う。	白川 純子
28			社会福祉学	2	1	30	-	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向をふまえ、医療保障、介護保障、所得保障、公的扶助など社会保障制度の全体像を把握しつつ、医療・看護領域と社会福祉の連携について理解を深める。	武田 学 金田 さくら 小椋 弘子 山田 宗治 山崎 章
29	専	基礎 看護	概論	1	1	30	○	看護学全般の概念をとらえ、看護の概念と機能を理解する。ここでは保健医療福祉の中での看護の位置づけや倫理について基本的なことを学ぶ。	畠山 克子
30			看護倫理	2	1	15	○	倫理学の基本的な考えを学び、生命倫理、医療倫理、看護倫理の基礎、倫理的問題への実践的なアプローチ、事例分析など自分の問題として考えられるよう取り組む。	秋山 聡美
31			人間関係形成技術	1	1	30	○	看護の対象となる人々の健康上のニーズを的確に把握し看護実践につなげるための、コミュニケーション技術、健康支援技術、および看護記録の基礎について演習を通して習得する。看護職者としての人間関係形成のための基本的態度・技術を学ぶ。	南 里江子 小山田 理恵
32			フィジカルアセスメント	1	1	30	-	アセスメントの根拠となる対象の身体状況全体を客観的かつ系統的に把握する方法を学習し、看護実践できる基礎的能力を養う。	八重樫 明子 山口 佳子
33			看護過程	1	1	30	○	看護の目的を達成するための基礎的理論（ヘンダーソンの理論）を学び、対象を見る視点を養う。また、人に正しく状況を伝えるための表現や記載について学ぶ。ここでは事例を通して看護実践のための思考過程を学習し、具体的な援助を考える一連の過程を学ぶ。	小山田 理恵
34			清潔衣生活援助技術	1	1	30	○	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために日常生活援助の清潔・衣生活を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。	硯見 由江
35			活動休息・環境・食事援助技術	1	1	30	○	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために生活環境・療養環境・日常生活援助の食事・活動と休息を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。	畠山 克子 硯見 由江 奥泉 輝朗
36			感染防止・排泄援助技術	1	1	30	○	健康の維持・回復のために感染防止と排泄を整える看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。	南 里江子 松野 絢
37			生体維持援助技術	2	1	30	-	健康の維持・回復のために呼吸・循環を整える必要性、創傷の管理について、救命救急の処置技術について理解し、看護の役割を学ぶ。	羽場 尚也 硯見 由江 加藤 あずさ
38			与薬援助技術	2	1	30	○	健康の回復のために必要な与薬の援助が安全・安楽・正確に実践できる知識と技術を学ぶ。ここでは、安全の確保についても学び、医療事故を起こさないための知識を身につける。	小山田 理恵 奥泉 輝朗

頁	分野	科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	授業科目概要	講師	
39	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論Ⅰ	1	1	15	-	地域・在宅看護論を学ぶ意義を知る。地域で暮らす人々とその環境を理解し、暮らしが健康に与える影響を学ぶ。地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを支援するための看護の基盤を理解する。	奥泉 輝朗 江頭 真由美	
40		地域・在宅看護論概論Ⅱ	2	1	15	○	地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。	秋山 聡美	
41		地域・在宅看護論概論Ⅲ	2	1	30	-	地域包括ケアシステムの意義と概念、基盤となる法・制度・施策とともに、制度や法律が社会的背景の変化に伴い、改正されていることを理解する。地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。	小滝 由香 保川 香奈 阿部 久美子	
42		地域・在宅看護論援助論Ⅰ	2	1	30	-	「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションから始まり、対象者の希望する暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護に必要な看護技術、安全対策、事故防止の知識などを学ぶ。	奥泉 輝朗 佐藤 真由美	
43		地域・在宅看護論援助論Ⅱ	2	1	30	-	外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を学ぶ。	硯見 由江 田中 千鶴 澁谷 順子	
44		成人看護学	概 論	1	1	30	○	成人期の成長発達の特徴や健康問題について理解する。対象の援助に必要な概念・理論について学習し、成人期にある人々を統合的に理解できる基礎的能力を養う。	加藤 あずさ
45	がん看護・緩和ケア		2	1	30	-	終末期にある対象と家族について理解し、がん看護、緩和ケアに関する基本的知識を身につけ、看護展開を学ぶ。また、慢性期にあるがん患者と家族について理解する。	吉田 千治 安藤 恵美 中村 由美 渡 明美 津田 真弓 國井 みすず 赤川 舞子 須藤 祐子 加藤 あずさ	
46	急性期看護		2	1	30	-	大腸がんの患者の特徴とその看護について学び、看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、救急看護、周手術期の看護について学ぶ。	轟 竜也 目黒 舞子 好井 厚子 小山田 理恵 増田 さおり	
47	疾患別看護Ⅰ		1	1	30	-	心身機能・構造になんらかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援する看護や脳神経機能障害・感覚機能障害の疾患看護を学習する。	田中 千鶴 秋山 聡美 村上 毅 窪之内 麻未 三島 愛	
48	疾患別看護Ⅱ		2	1	30	-	消化機能、血液・造血器、内分泌代謝、アレルギー・膠原病・感染症の疾患看護を学習する。	安達 恵美 住田 真弓 長野 彩香 納藤 織江	
49	疾患別看護Ⅲ		2	1	30	-	循環機能障害・呼吸機能障害・腎機能障害、性・生殖器の疾患看護を学習する。	大藤 美和 宮田 理香 樽見 亜希 安藤 恵美	
50	老年看護学		概 論	1	1	30	○	高齢者の身体的、精神的、社会的特徴や健康問題について理解する。高齢者をとりまく文化・社会背景を学び、保健医療福祉の現状と課題について理解する。	狩野 智子
51			援助論Ⅰ	1	1	30	-	高齢者の基本的活動、食生活、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション等の特徴を学び、QOLを高めるために必要な看護について理解する。	渋谷 順子 脇本 奈緒子 狩野 智子
52		援助論Ⅱ	2	1	30	-	高齢者に特徴的な症状と看護、特徴的な疾患と看護について理解する。	小野寺 和江 井上 幸美 青野 裕太 狩野 智子	
53		援助論Ⅲ	2	1	15	○	事例を通して、高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開する能力を養う。	狩野 智子	
54		概 論	2	1	30	-	新生児期から思春期までの身体的、精神的、社会的発達を段階的に学習し、小児期の成長・発達の特徴を理解する。また、小児が影響をうける環境を理解し、小児看護の課題や問題について学ぶ。	松野 絢 田中 千鶴	

頁	分野	科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	授業科目概要	講師
55	小児看護学	援助論Ⅰ	2	1	15	-	小児特有の疾患の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。	伊藤 善也 加藤 晶 安藤 明子 菅沼 隆
56		援助論Ⅱ	2	1	30	-	小児の健康が小児及び家族に及ぼす影響をとらえ、様々な状況にある小児と家族の看護を症状・疾患別に分けて学習する。	田中 千鶴 竹内 亜希子 小林 さつき 米野 隆晶
57		援助論Ⅲ	2	1	30	○	小児看護において必要な基本的看護技術を習得する。また、事例を通して、小児の特徴をふまえ、看護過程を展開する能力を養う。	秋山 聡美 松野 絢
58	母性看護学	概論	2	1	30	-	母性看護学の対象は妊産褥婦を中心に胎児期から老年期までの幅広い年代の女性とその家族である。ここでは対象の理解と母性看護学の基盤になる概念を理解し、母性看護の課題や問題について学ぶ。また、女性生殖器の疾患をもつ患者の看護についても学習する。	八重樫 明子 廣田 のぞみ 田邑 泰子 安藤 恵美
59		援助論Ⅰ	2	1	30	-	母性看護学概論の学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする妊娠・分娩期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。また、近年増加している遺伝相談・不妊治療に関する看護を学ぶ。	山本 清美 吉本 恵 鈴木 優美
60		援助論Ⅱ	2	1	30	-	母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰの学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする産褥期・新生児期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。	佐藤 奈美 水嶋 美佐子 鹿又 亜由紀 西村 さつき
61		援助論Ⅲ	2	1	15	○	紙上事例により、1人の女性の妊娠期・分娩期・産褥期の情報を段階的に提供し、各時期の状態を分析解釈し、看護過程を学習する。また、その事例の新生児の情報から状態を分析・解釈し、必要な看護を考える。身体的側面だけでなく、新生児の誕生と母子相互作用、家族の発達について考える。	八重樫 明子
62	精神看護学	概論	2	1	30	-	ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について学び、精神障害の基本的な考え方と理解を深め、精神看護や保健活動についての基礎的知識の基盤をつくる。	南 里江子 佐々木 諭
63		援助論Ⅰ	2	1	15	-	精神障害の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。	嶋田 進一郎 早坂 郁 大江 開 古俣 皓涼
64		援助論Ⅱ	2	1	30	-	精神障害をもつ対象に主要症状、疾患、治療処置別の看護の方法および、地域における看護について学ぶ。	武田 美恵子 澤野 留美子 保科 幸広 金山 幾代 新村 はるか 吉田 小百合 武藤 健大
65		援助論Ⅲ	2	1	30	○	人間関係形成技術を基盤とし、精神的支援が必要な対象者に必要な看護援助技術を学ぶ。看護師のメンタルヘルスの維持について学ぶ。事例を通して看護過程を展開する能力を養う。	南 里江子
66	看護と実践の統合	看護研究	2	1	30	○	看護研究の基礎的知識と看護専門職者としての研究的視点を学び、看護研究の意義を理解し、生涯にわたり学習する姿勢を身につける。2年次の臨地実習体験をケースレポートとしてまとめる。	八重樫 明子
67	臨	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	45	○	基礎看護学実習Ⅰは、学生が初めて病院施設に行き、患者と出会う実習である。学生は看護学校に入学してから人間や看護についての学習を行い、3か月が経過している。この実習では、病院施設とそこで働く様々な職種、患者の療養の場である入院環境、看護師の業務に触れ、自己の看護師像を育む第一歩となる実習となる。看護への関心を高め今後の学習の動機付けとなるようにする。 実習方法としては病院施設全体のオリエンテーションを通し病院施設を知り、療養の場である入院環境を知る。患者をひとり受持ち、生活者としての対象の環境を考える。さらに受持ち患者との関りを通し人間関係構築に必要なコミュニケーション技術について学ぶ。 実習前に事前学習として実習目的を理解・整理し、実習に臨む。また、この実習では「看護学生として必要な態度」を考え、自己の傾向を理解する第一段階とする。実習最終日にグループ発表を行い、様々な疾患・年齢の患者を受け持った他学生の体験を聞くことで学びを共有する。	小山田 理恵

頁	分野	科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	授業科目概要	講師
68	地 実 野 習	基礎看護学実習Ⅱ	1	2	90	○	基礎看護学実習Ⅱでは、観察技術を活用しアセスメントに必要な情報を意図的に収集し、得られた情報の整理を行う。そこから対象に必要な日常生活援助について考え、援助計画を立案し、実施するという看護の一連のプロセスを学ぶ。看護援助は、患者の安全・安楽に留意しながら、バイタルサイン測定や日常生活援助を行う。また、実施する看護援助の説明を受け持ち患者に行い看護実践者としての自覚を育む機会とする。この実習ではベア実習を行うことによって、自分ひとりで考え悩むだけでなく、視点を変えることの大切さや、違う意見を聞くことで深く対象を理解することにつながる、協力して様々な問題を解決する課程等学ぶ。そして1年生最後の実習ということで、改めて看護師に必要な知識・技術・態度を考え、自己の傾向や課題を認識する。	小山田 理恵
69		基礎看護学実習Ⅲ	2	2	90	○	基礎看護学実習Ⅱでは、受持ち患者の意図的な情報収集の必要性について理解した。基礎看護学実習Ⅲでは、受持ち患者の病情的状態や常在条件を意識して意図的な情報収集を行い、健康障害により変化した生活を、根拠をもって理解し、生活上の問題を明確化し、看護計画の立案により、看護過程の一連を学ぶ。また、対象を中心とした看護を提供するため、人間関係形成のためのコミュニケーション能力や、看護師の責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護実践の基礎的能力を養う。	小山田 理恵
70		地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	1	45	○	地域・在宅看護論実習Ⅰは、1年次の地域・在宅看護論Ⅰが終了した後に位置付けた。地域・在宅看護論Ⅰでは地域で暮らす人々とその環境を理解し、暮らしが健康に与える影響、フィールドワークを通し人々の生活の基盤となる身近な環境について学んでいる。地域・在宅看護論Ⅰで学んだ知識をもとに小児期・青年期・成人期・老年期の各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、コミュニケーションや活動への参加を通し、地域の暮らしの実際を理解する。家族のつながりや健康と生活との関連（誰がどうやって健康を管理しているか、セルフケアの状態等含む）、働く意味や生きがい、余暇活動の意味を学び、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ機会とする。	硯見 由江
71		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	1	45	○	地域・在宅看護論実習Ⅰでは、各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、地域の暮らしの実際、家族のつながりや健康と生活との関連、人々が支え合って生きることの重要性を学んだ。地域・在宅看護論Ⅱでは、現在、在院日数の短縮化により、家庭での治療・処置を継続するケースも多く、対象者のみならず家族を支援していくこと、外来・病棟、多職種との連携が重要となっていることを受け、外来の機能と役割、外来看護の役割を学ぶ。そして、地域で暮らしながら病気を発症し、必要な治療を受け、病気とともに暮らす人々や病気に罹患することなく地域で暮らす人々への看護の実際を学ぶ機会とする。	硯見 由江
72		成人・老年看護論実習Ⅰ	2	2	90	○	成人・老年看護学実習Ⅰは、基礎看護学実習Ⅲ終了後の実習となる。基礎看護学実習Ⅲでは対象の情報収集から看護計画立案までの看護過程の一連の流れについて学習してきた。そのため、対象の身体的・心理的・社会的特徴について捉え、病気をもつ対象を統合的に理解して、その人らしい生活が送れるような病期にあった看護を考え根拠に基づく援助が行えるようにする。また、家族内で中心的役割を果たす成人期や、人生の最終段階にある老年期の対象の発達課題と役割を理解し、入院によってどのように役割が変化しているのかということも考えられるようにする。さらに、看護師になる上での自己の課題を具体的に考える機会とする。	狩野 智子
73	小児看護論実習Ⅰ	2	1	45	○	小児看護学実習Ⅰは、2年次の小児看護学概論が終了した後に位置付けた。小児看護学概論では成長発達の基本的知識や小児各期の成長発達、健康、家族、看護、小児と家族を取り巻く環境について学んでいる。幼稚園実習では小児看護学概論で学んだ知識をもとに幼稚園で健康な小児との交流を通し、小児の成長発達や基本的生活習慣の獲得を促す関わりと学生の背景として出生率の低下や核家族化により小児と接する機会が少なくなっているため、小児との接し方を学ぶ。	松野 絢	

授業科目とその概要【3年生（旧カリキュラム）】

頁	分野	科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	授業科目概要	講師	
74	基礎分野	人間と人間生活 保健体育Ⅱ	3	1	15	-	スポーツやレクリエーションが、健康・体力の維持増進につながっていることを身を持って理解し、無理なく実践を行う。	石田 和輝	
75	専門基礎	疾病の成り立ちと回復の促進 病態治療学Ⅵ	3	1	30	-	放射線療法 ：医療は日々発展をとげており、治療内容についても変化し続けている。ここでは、放射線療法について系統的に学び、患者の状態を正しく把握する基礎的知識を養う。 東洋医学論 ：東洋医学の基本的概念と知識を学び、患者を診る視点を広げ、日常生活援助の中で活用できる基礎的知識を養う。 医療機器 ：医療機器を安全に使用するための環境や管理、原則や実際を知る。	長島 正直 伊藤 卓也 松岡 慶太 好井 透	
76	基礎分野	健康支援と社会保障制度 地域保健論	3	1	15	-	地域の生活環境について考察する。北見市の現状と課題、災害対策やボランティア、地域の保健の現状等を理解する。	北見市ミント宅 急便派遣講師	
77		看護関係法令	3	1	15	-	法の基礎知識と保健医療福祉に関する諸制度の概要と規定する諸法令を理解する。ここでは、保健師助産師看護師法を基礎として、医療者として業務責任についても自覚する機会とする。	保川 香奈	
78	専門分野Ⅱ	臨地実習	成人看護学実習Ⅲ	3	2	90	○	急性期・手術療法を受ける対象を統合的に理解し、回復促進・セルフケア能力を高めるために必要な看護援助を学ぶ。	加藤 あずさ
79			老年看護学実習Ⅱ	3	2	90	○	老年期にある対象を統合的に理解し、健康障害のある高齢者と家族に応じた看護援助を学ぶ。	狩野 智子
80			小児看護学実習	3	2	90	○	1: 幼稚園実習；健康な幼児期にある小児の成長発達について理解し、成長発達を促す援助について考える。 2: 病院実習；小児期にある対象とその家族の健康状態を理解し、個別性に合わせた生活支援、健康の回復・維持・増進を図るための看護の実際を学ぶ。	松野 絢
81			母性看護学実習	3	2	90	○	1: 外来実習；妊娠期にある対象を統合的に理解し、健全な出産に向けセルフケアを中心とした看護援助を学ぶ。 2: 産褥期実習；産褥期にある対象を統合的に理解し、正常に経過するために必要な看護援助を学ぶ。 3: 新生児実習；新生児期にある対象を統合的に理解し、正常に経過するために必要な看護援助を学ぶ。	八重樫 明子
82			精神看護学実習	3	2	90	○	1: 地域実習；地域施設を利用して生活している精神障害者を統合的に理解し、ノーマライゼーションの理念に基づいた保健医療福祉を考える。 2: 病院実習；精神に障害を持つ人を統合的に理解し、対人関係構築を意識した関わりを通して生活援助、精神の健康回復を促進する看護援助を学ぶ。	南 里江子
83	統	在宅看護論 援助論Ⅱ	3	1	15	○	在宅看護過程の考え方・対象の捉え方・すすめ方を学び、事例を通して在宅看護の特徴をふまえた看護過程を進める。訪問前の準備・マナーを学び、訪問中止事例についてグループワークを行い原因と対策を考える。初回訪問時のロールプレイを行い訪問看護時の状況をイメージし、自己の課題を考える。	奥泉 輝朗	
84	総合分野	看護の統合と実践	医療安全	3	1	30	-	安全で質の高い看護を実践するため、医療事故防止・回避に必要な知識・技術・態度を習得する。	吉田 千亜紀
85			看護マネジメント	3	1	15	-	看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療および他職種との連携・協働を円滑に行えるよう、看護管理の目的と機能について学ぶ。組織の一員としてリーダーシップ・メンバーシップを発揮できる基礎的能力を養う。ここでは組織運営の視点を含めたマネジメント方法及び管理的思考についても学習する。	古田 英子
86			統合演習	3	1	30	○	看護実践能力を高めるために、これまで学んできた知識を統合し、対象の状態に応じた安全・安楽な看護を提供する能力を養う。	加藤 あずさ
87			災害・国際看護	3	1	15	-	現在、災害が日本だけでなく世界各国で頻発しており、災害看護の需要が高まっている。災害に対する備えや発災後の対応、心のケアなどの基礎的知識を学ぶ。また、人種や国籍をこえた普遍性のもつ看護の役割について国際看護の視点を学ぶ。	尾山 とし子
88	専門分野	臨地実習	在宅看護論実習	3	2	90	○	1: 地域実習；地域における社会福祉の実際を知る。 2: 訪問看護ステーション実習；疾患や障害を持ちながら在宅で療養している対象とその家族の生活の実際を理解し、健康状態や生活状態に応じた生活支援の在り方や必要な看護援助を学ぶ。在宅看護を必要とする対象を支援する社会資源を知り、他職種との連携の必要性を学ぶ。	奥泉 輝朗
89			統合実習	3	2	90	○	複数の対象を受け持ち、それぞれの対象を統合的に理解し、優先順位を考えた看護援助を学ぶ。師長業務を通して、看護管理について学ぶ。リーダー業務を通して、リーダーの役割を学ぶ。	加藤 あずさ

基礎分野	授業科目	論 理 学	開講時期	1年前期	単 位	1	時間数	15
担当講師	桜井 謙一							
授業概要	文と文との関係性をとらえ、根拠と結論をつなぐ論証を読み解くことにより、論理的な表現力を身につける。							
ねらい	1. 文と文との接続関係をとらえ、論理的に考えることができる。 2. 論証を図で示すことにより、論証の構造を理解することができる。							
時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当	
1	1. 論理・論証とは何か/ 論理学の概要が理解できる	(1) 論理				講義/演習	桜井	
2	2. 演繹法/ 演繹について理解できる	(2) 論証 (1) 前提と結論 (2) 導出						
3	3. 接続表現/ 文と文との関係性について理解できる	(1) 様々な接続詞 (2) 接続関係						
4	4. 論理的に考える/ 帰納的論証について理解できる	(1) 根拠と結論 (2) 飛躍						
5	5. 論証を図で示す/ 論証のタイプを理解できる	(1) 論証のタイプ						
6	6. 論証間について理解できる	(2) 論証間の関係						
7	7. 論証図を書くことができる	(3) 論証図						
8	6. 論理的に書く/ 一文一義について理解できる	(1) 論理的関係 (2) 接続詞の選択						
9	7. パラグラフ パラグラフ構造を理解できる	(1) パラグラフの構造 (2) レポート構成の基礎						
10	8. パラグラフ間の論理的関係性を理解 できる	(1) 移行の合図 (2) レポート構成の基礎						
11	8. 論理的に読む/ 論理的に読むことができる	(1) 4つのステップ (2) 5つのポイント						
12								
13	9. 実際に書く/ 論理的に表現することができる	(1) 論文を書く						
14	10. 文章を見直すことができる	(2) 推敲						
15	課題レポート作成							
計	15							
評価方法・配点	課題レポート100点							
テキスト	看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル（福澤 一吉）					医学書院	¥4,840	
備考								

基礎分野	授業科目	文章表現法	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30	
担当講師	桜井 謙一								
授業概要	看護において、論理的に考え、客観的事実や自分の考えを正確に伝えることは、対象の安全を守り、医療チームの任務遂行の上で基本的かつ重要なことである。日本語の文章表現法を学び、適切な文章表現方法を身につけ、レポートや看護記録における文章表現能力向上と実践の場での伝達能力を養う。								
ねらい	1. 日本語表現の基本的知識を理解し、表記ルールに則った文章表現能力を身につける。 2. 不適切な表記によるコミュニケーションエラー予防の必要性が理解できる。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 日本語表記の基本的知識/	(1) 三分節			講義/演習			
	2	日本語における基本的な文章表現方法が	(2) 文体						
	3	理解できる	(3) 原稿用紙の使い方						
	4		(4) 段落構成						
	5		(5) 結論						
	6								
	7								
	8								
	9	2. 論文の構成/	(1) 文章を書くまでの準備			講義/演習			
	10	論文がどのように構成されているかわかり	(2) 読点						
	11	論理的思考について理解できる	(3) 構想・構成・アウトライン						
	12								
	13								
	14								
	15								
	16								
	17	3. 論文の資料/	(1) 参考文献の利用			講義	桜井		
	18	論文の考えの根拠となる資料の必要性和 利用について理解できる	①文献を用いる意義 ②引用と要約						
	19	4. 小論文作成/	(2) 資料を調べる			演習			
	20	自分の思考や行動を認識し、文章で表現	①調査・収集・整理・分析						
	21	することを通して、事実や意思を他者に	(1) 小論文作成演習						
	22	伝える重要性が理解でき、実践できる	①レポートの書き方						
	23		②事実と自分の考えの区別						
	24		③推敲の仕方						
	25								
	26								
	27								
	28								
	29								
	30	試験							
評価方法・配点	筆記試験50点 レポート課題50点								
テキスト	看護学生のためのレポート・論文の書き方（高谷修著）						金芳堂	¥2,200	
備考									

基礎分野	授業科目	情報科学 I	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	15
担当講師	有田 健一 ・ 太田 敏彰							
授業概要	コンピューターの基礎的知識と基本操作を身につけ、医療現場で普及している電子化に対応するための能力を身につける。高度情報社会における情報管理方法や倫理について理解を深める							
ねらい	1. 情報についての基本的知識を身につける。 2. コンピューターによる基本操作を知り情報処理方法を理解する。							
月日	時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当
	1	1. 情報とは何か/ 情報の特性、認知について理解できる	(1)情報の特性 (2)情報の認知と意思決定				講義	
	2	2. コンピュータリテラシーと情報活用能力/ コンピュータを使用するための地域と技術を学び、情報活用能力を養うことができる	(1)コンピュータリテラシー ・コンピュータの基本構成 ・データの保存 ・インターネットに関するポイント ・電子メールに関するポイント				講義/演習	
	3							
	4							
	5							
	6		(2)情報リテラシー					
	7		(3)情報セキュリティー					
	8		(4)情報発信について					
	9		3. 情報倫理と法/ 高度情報化社会における情報へのモラル、法についての理解を深める	(1)情報倫理とは				
	10	(2)プライバシーと守秘義務						
	11	(3)個人情報保護に関する法律						
	12	(4)臨地実習における患者情報の取り扱い						
	13	(5)実技演習				演習		
	14							
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	実技試験100点							
テキスト	エッセンシャル看護情報学						医歯薬出版	¥2,750
備考								

基礎分野	授業科目	看護物理学	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	15
担当講師	後藤 重孝							
授業概要	看護技術の基礎となる物理学の原理・原則を知り、根拠を持った看護技術を実践するための基礎的知識を学ぶ。							
ねらい	1. 身体・身体ケアに関する基礎的な物理学の知識を身につけ、根拠に基づいたケアができる。 2. 検査・治療・処置に関する基礎的な物理学の知識を身につけ、根拠に基づいたケアができる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 身体・身体ケアに関する物理学/ 身体・身体ケアに関する基礎的な物理学 の知識が理解できる 2. 検査・治療・処置に関する物理学/ 検査・治療・処置に関する基礎的な物理学 の知識が理解できる	(1) 移動動作に必要な力			講義/演習	後藤	
	2		(2) 体位変換に役立つトルクの知識					
	3		(3) 安定・不安定					
	4		(4) 撃力と骨折					
	5		(5) 作用・反作用					
	6		(6) 人体に適応する力学					
	7		(7) 感覚と温度					
	8		(8) 冷罨法・温罨法					
	9		(9) 体熱の産生と喪失のバランス					
	10		(10) 胃洗浄とサイフォン					
	11		(1) 圧力の基礎知識					
	12		(2) 動圧と側圧の関係性					
	13		(3) 血圧に関する知識					
	14		(4) 低圧持続吸引装置の原理					
	15	(5) 酸素と圧力の関係及びその性質						
		(6) 圧力によって生じる疾患						
		(7) 点滴や輸血等の落下速度						
		(8) 比重計						
		(9) 水銀の膨張現象と遠心力						
		(10) 加熱蒸気滅菌装置のしくみ						
		(11) 酸・アルカリとpH						
		(12) 濃度の表し方と物質の溶け方						
		(13) 浸透圧の知識						
		(14) 物が見えるしくみ						
		(15) 紫外線と赤外線						
		(16) 放射線のもつ特性と基礎知識						
		(17) 音波						
	計 15	試験						
評価方法・配点	筆記試験 100点							
テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する					学研	¥3,080	
備考								

基礎分野	授業科目	生活のなりたち	開講時期	1年	単位	1	時間数	15
担当講師	夏井 留美子							
授業概要	衣食住・経済・冠婚葬祭など暮らしの中の基本的な知識と現代社会の多様な生き方、家族のあり方について考え生活体験の少ない若者の視野を広げる。自らのいろいろなライフステージを想定し、ライフプランを考える。看護者として患者の多様な生き方を受容できる知識を得る。							
ねらい	自身を取り巻く社会の仕組みを知り、社会人としての必要最低限のルールを学び、心豊かに健康で自分らしい生き方ができるようにする。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	I 暮らしを取りまく環境 / ・住生活、被服、食生活など自分の生活を振り返る。	住生活、被服、食生活とは			講義	夏井	
	2	II 暮らしを支える経済/ ・自立した生活を送るために必要なお金について考えることができる	収入・支出その他について考える					
	3	III 消費者として/ ・多様化する消費生活を考えることができる	北見消費者協会セミナー			講習	消費者協会	
	4	・賢い消費者として、消費者トラブルの被害にあわないようために						
	5	IV 基本のき・暮らしの知恵と知識/ ・社会人として必要最低限知っておきたいあれこれ	住生活、被服、食生活の決まりごとやマナーを知る			講義	夏井	
		V お付き合いの基本・マナー/ 冠婚葬祭にまつわるエチケットの心得						
	6	VI 暮らしの中の歳時記、人生の節目/ ・1年を通じての季節の移り変わり、人生での節目を知ることができる	二四節期、ライフイベントなどを知る 心豊かな暮らしをおくる					
	7	VII ライフサイクルと家族/ ・生まれてから死ぬまで、家族とどのように係っているか、自身の家族の中での役割を考えることができる	家族の構築 変化していく家族・家庭			講義		
	8	VIII ワークライフバランス/ ・家庭と仕事の両立、働き続けていくための社会環境、家庭環境、自分自身のことを考えることができる	ワークライフバランスとは ジェンダーとは					
	9	IX 多様化する社会/さまざまなライフステージ ・多様な生き方について考える ・人生の最後の迎え方を考える	SDGs/LGBT 「エンディングノート」 「未来ノート」			講義		
	10							
	11	X 映画鑑賞	家族のあり方を考える			鑑賞		
	12							
	13							
	14	感想文	映画を観ての感想を書く					
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	筆記試験70点 感想文30点							
テキスト	なし							
備考								

基礎分野	授業科目	心 理 学	開講時期	1年前期	単 位	1	時間数	15
担当講師	中野 武房							
授業概要	看護の対象である人間のこころと行動を理解するための基本となる心理学の基礎について学び、人間の行動を規定するところについての理解と関心、自己洞察を深め、人間に対する幅広い視点を育て養う。							
ねらい	人間の多様な心理や行動を理解するための基本的知識や方法を理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 心理学とは/	(1)心とは、科学としての心理学			講義/演習	中野	
	2	心理学とは何か概要が理解し、心理学を学ぶ意義がわかる	(2)心理学の歴史 (3)心理学研究法 (4)心身医学					
	3	2. 感覚・知覚の心理/	(1)感覚・知覚の意味			講義/演習		
	4	視覚や聴覚、形や運動の知覚などの基礎的知識が理解できる	(2)感覚・知覚様相の特徴 (3)感覚・知覚と日常生活 (4)脳と知覚、情報処理と知覚 (5)欲求・興味・感情に従う知覚					
	5	3. 記憶の心理/	(1)記憶の過程と記憶の種類			講義/演習		
	6	記憶のしくみについて理解できる	(2)感覚記憶 短期・長期記憶 (3)記憶の構造 (4)記憶の忘却と障害					
	7	4. 感情と動機の心理/	(1)感情・情緒			講義/演習		
	8	感情と動機について理解できる	(2)動機・欲求					
	9	5. 性格・知能の心理/	(1)性格に関する概念と用語			講義/演習		
	10	性格・知能について理解できる	(2)性格研究の方法と理論					
	11		①クレッチマー					
	12		②フロイト ③ユング ④特性論的性格理論					
	13	6. 社会・集団の心理/	(3)パーソナリティ障害と成熟					
	14	社会・集団について理解できる	(4)知的機能と創造性 ①知能テスト			講義/演習		
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	筆記試験 50点 レポート50点							
テキスト	看護学生のための心理学					医学書院	¥2,640	
備考								

基礎分野	授業科目	宗 教 文 化 学	開講時期	2年前期	単 位	1	時間数	15
担当講師	森下 一彦・白崎 隆徳・長谷川 英樹							
授業概要	患者理解のためには、その背景にある文化を知ることが必要である。日本の宗教文化についての基本的知識を身につけ、グローバルな視点での宗教文化に関する基本的な知識を養い、様々な習慣や考え方、価値観があることを理解する。							
ねらい	1. 日本の宗教文化についての基本的知識を身につける。 2. 様々な宗教の考え方が習慣があることが理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 宗教とは何か/	(1) 宗教の定義			講義	白崎	
	2	宗教とは何か、人間とは・人間の権利について理解し、宗教文化についての基本的な知識がわかる 世界の宗教の起源と分類の概要が理解できる	・人間とは・人間の権利とは (2) 宗教の起源と進化 (3) 宗教の分類 (4) 世界の8大宗教 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、儒教、道教、神道					
	3	2. キリスト教/	(1) キリスト教の誕生			講義	森下	
	4	キリスト教の概要、特徴が理解できる	(2) キリスト教の特徴 戒律と儀礼、教典 三位一体、終末、教会、修道院 年中行事					
	5							
	6							
	7	3. 神道/	(1) 神道の誕生			講義	長谷川	
	8	神道の概要、特徴が理解できる	(2) 神道の特徴 自然崇拜、ミソギ、ハラエ、 神社、神職、神棚					
	9		(3) 神仏習合					
	10							
	11	4. 仏教/	(1) 仏教の誕生			講義	白崎	
	12	仏教の概要、特徴が理解できる	(2) 仏教の分類 天台宗系、真言宗系、浄土宗系 禅宗系、日蓮宗系など					
	13		(3) 仏教の特徴 戒律と儀礼、教典 年中行事（冠婚葬祭等） 寺、檀家制度、仏壇、位牌					
	14							
	15	試験				白崎・森下・長谷川		
計	15							
評価方法・配点	筆記試験100点（宗教とは何か10点、キリスト教30点、神道30点、仏教30点）							
テキスト								
備考								

基礎分野	授業科目	保健体育 I	開講時期	1年	単位	1	時間数	15
担当講師	奥津 建志							
授業概要	スポーツ・レクリエーションの理論と実践を通して、生涯にわたる自己の健康・体力の維持増進を図る。また、スポーツを通して学生間の交流を深め、集団としての協調性を養う。							
ねらい	1. 自己の心身活動と休息のバランスをはかり、運動習慣を身につけ自己の健康管理の必要性を理解する。 2. 学生間のコミュニケーションをとり、交流を深める。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 運動と健康/ 健康な生活を送る上で、身体運動のメカニズムやスポーツの意義を理解でき、身をもって体験できる	(1)体を動かすしくみ (2)科学的根拠に基づいた運動処方 (3)ストレッチ体操			講義/実技	奥津	
	2							
	3	2. スポーツ活動/ スポーツを実践し、運動の必要性や楽しさを実感しながら心身の健康を維持増進できる	スポーツ用具の使用、実技を行う (1)卓球			実技		
	4		技能を習熟し、練習方法、ルール、試合の運営などを学び実践する					
	5							
	6							
	7		(2)バドミントン					
	8		技能を習熟し、練習方法、ルール、試合の運営などを学び実践する					
	9							
	10							
	11		(3)ミニバレー					
	12		技能を習熟し、練習方法、ルール、試合の運営などを学び実践する					
	13							
	14							
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	筆記試験50点 実技試験50点							
テキスト	資料随時配布							
備考								

基礎分野	授業科目	ホスピタリティ論	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	15		
担当講師	夏井 留美子									
授業概要	ホスピタリティは「思いやり」「心からのおもてなし」と訳される。良好な人間関係の構築と維持、相手の立場に立って心から相手のことを考えて行動することを目指す。その基本精神である「ホスピタリティ・マインド」について学び、実践できる基礎能力を養う。									
ねらい	1. ホスピタリティの基本が理解でき、看護サービスに活かせる素地を養う。 2. 自分の傾向を分析し、良好な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を養う。									
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当			
	1 2	1. ホスピタリティの基本/ ホスピタリティの基本的な考え方が理解できる	(1)ホスピタリティとは (2)ホスピタリティ・マインド (3)ホスピタリティ・アクション (4)ホスピタリティ実践による効果 (5)自己のマインド・アクションの確認			講義+演習	夏井			
	3 4	2. 自分を知る「EQ」と「TA」/ 自分のことを様々な視点から分析できる	(1)EQ(感情知能指数)とは (2)EQチェック (3)EQを高める (4)TA(交流分析)とは (5)エゴグラム作成 (6)心の状態を高める			講義+演習				
	5 6 7 8	人を不快にさせないだけでなく、人間関係をよりよい方向に導くホスピタリティを活かしたマナーが理解できる	(1)ホスピタリティ・マナー (2)ホスピタリティ・マナーの6つの要素 ①挨拶 ②笑顔 ③返事 ④態度 ⑤身嗜み ⑥言葉使い (3)公共の場でのホスピタリティ・マナー			講義+演習				
	9 10 11 12	4. コミュニケーション/ 相手の立場に配慮し、伝え方の工夫が必要だということが理解できる	(1)コミュニケーションとホスピタリティの関係 (2)積極的な聴き方 (3)効果的な話し方 (4)適切な言葉使い			講義+演習				
	13 14	5. 看護サービスとホスピタリティ/ ホスピタリティを看護サービスにどのように活かしていくべきか理解できる	(1)患者の心理 (2)顧客満足 (3)ホスピタリティを活かしたクレーム対応 (4)看護サービスの中で生きるホスピタリティ			講義+演習				
	15	試験								
計	15									
評価方法・配点	筆記テスト100点									
テキスト	実践！ホスピタリティ基本コース					一般社団法人 ホスピタリ ティ機構			¥2,750	
備考										

専門基礎分野	授業科目	解剖生理学 I	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	30
担当講師	村林 宏 ・ 橋詰 良一							
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。							
ねらい	1. 細胞の一般的な構造や器官を構成する各組織の特徴について理解できる。 2. 骨格系、筋肉系、循環器系の系統別の構造、名称、位置、作用について理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 総論/ 細胞の一般的な構造や器官を構成する各	(1)人体とは			講義	橋詰	
	2	組織の特徴について理解できる	(2)細胞・組織					
	3		(3)構造と機能					
	4							
	5							
	6	2. 骨格系/ 骨の構造と機能、成長について、各骨の	(1)骨の構造と機能			講義	村林	
	7	形態と連結について理解できる	(2)骨の成長					
	8		(3)各骨の連結					
	9							
	10	3. 筋肉系/ 主な筋の構造と各筋肉の名称と位置、	(1)主な筋の構造			講義	村林	
	11	作用について理解できる	(2)各筋肉の名称と位置					
	12		(3)筋肉の作用について					
	13		(4)骨格筋収縮のメカニズム					
	14	4. 演習/ 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的	(1)スケッチ演習			演習	村林	
	15	に理解し、説明できる						
	16							
	17							
	18	5. 循環器系 I / 心臓の構造、心臓に分布する血管、	(1)循環器系の構成			講義	村林	
	19	全身に分布する動・静脈、リンパ管	(2)心臓の構造					
	20	について理解できる	(3)末梢循環器系の構造					
	21		(4)リンパとリンパ管					
	22	6. 循環器系 II / 心臓の拍出機能、血液の循環の調節に	(1)心臓の拍出機能			講義	村林	
	23	について理解できる	(2)血液の循環器系の調節					
	24							
	25							
	26	7. 演習/ 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的	(1)スケッチ演習			演習	村林	
	27	に理解し、説明できる						
	28							
	29							
	30	試験					橋詰・村林	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験 100点 (橋詰15点 村林85点)							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学					医学書院	¥4,180	
	看護師国家試験 解剖生理学クリアブック					医学書院	¥2,200	
備考								

専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	30
担当講師	村林 宏 ・ 橋詰 良一							
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。							
ねらい	1. 皮膚・生体の防御機構、消化器系、呼吸器系の系統別の構造、名称、位置、機能、作用、メカニズムについて理解できる。 2. 体温とその調節のメカニズムについて理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1 2 3 4	1. 血液、皮膚・防御/ 血液、間質液、リンパ液などの性状と作用、皮膚の構造と機能、生体防御機構について理解できる	(1) 血液 ①血液の組成と機能 ②赤血球 ③白血球 ④血小板 ⑤血漿タンパク質と赤血球沈降 ⑥血液の凝固と線維素溶解 ⑦血液型 (2) 皮膚の構造と機能 (3) 生体の防御機構			講義	橋詰	
	1 2 3 4 5 6 7 8	2. 呼吸器系/ 肺、気管、気管支、喉頭などの呼吸器の構造と機能について理解できる 呼吸の生理（呼吸の調節、呼吸の運動、ガス交換、血液ガス、血液の酸塩基平衡について理解できる 3. 演習/ 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる	(1) 呼吸器の構造 (2) 呼吸 ①内呼吸・外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸器量 ④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節 (1) スケッチ演習			講義 演習	村林	
	9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	4. 消化器系Ⅰ/ 口腔から肛門までの消化管、肝臓・膵臓の構造について理解できる	(1) 口・咽頭・食道の構造 (2) 腹部消化管の構造 ①胃 ②小腸 ③大腸 (3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造 ①膵臓 ②肝臓 ③胆嚢 (4) 腹膜			講義	村林	
	15 16 17 18 19 20	5. 消化器系Ⅱ/ 口腔から肛門までの消化管、肝臓・膵臓の機能について理解できる 口腔～大腸、膵臓、肝臓の消化作用について理解できる	(1) 口・咽頭・食道の機能 (2) 腹部消化管の機能 ①胃 ②小腸 ③大腸 (3) 膵臓・肝臓・胆嚢の機能 ①膵臓 ②肝臓 ③胆嚢			講義	村林	
	21 22 23 24 25 30	6. 栄養と代謝、体温とその調節/ 栄養素の消化・吸収、代謝過程が理解できる 体熱産生のメカニズムが理解できる 体温調節について理解できる 7. 演習/ 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる	(1) 栄養素の消化・吸収 (2) 代謝過程 (3) 熱の出納 (4) 体温の分布と測定 (5) 体温調節 (6) 発熱 (1) スケッチ演習				村林	
	30	試験					橋詰・村林	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験100点（橋詰15点 村林85点）							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能（1）解剖生理学					医学書院	¥4,180	
	看護師国家試験 解剖生理学クリアブック					医学書院	¥2,200	
備考								

専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	鈴木 望							
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。							
ねらい	1. 腎・泌尿器、生殖器系、内分泌系、脳および脊髄の構造、名称、位置、機能、作用、メカニズムについて理解できる。 2. 人体の発生、成長と老化について理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容	授業形態	担当			
	1 2	1. 腎臓と尿路・体液と電解質/ 腎臓における尿の生成と排尿について理解できる 体液中の性状と電解質のバランスについて理解できる	(1) 腎臓 ①腎臓の構造と機能 ②糸球体の構造と機能 ③尿細管の構造と機能 ④傍糸球体装置 ⑤クリアランスと糸球体濾過量 ⑥腎臓から分泌される物質	講義	鈴木			
	3 4		(2) 尿路 ①尿路の構造 ②尿の貯蔵と排尿 (3) 水の出納、脱水、電解質の異常 酸塩基平衡					
	5 6	2. 生殖器系/ 男性生殖器の構造と機能について理解できる 女性生殖器の構造と機能について理解できる	(1) 男性生殖器 ①精巣 ②精路と付属生殖腺 ③男性の外陰部 ④男性の生殖機能 (2) 女性生殖器 ①卵巣 ②卵管・子宮・膣 ③女性の外陰部と会陰 ④乳腺 ⑤女性の生殖機能	講義				
	7 8							
	9 10 11 12	3. 演習/ 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる	(1) スケッチ演習	演習				
	13 14 15 16	4. 人体の発生・成長と老化/ 生殖細胞の発生、受精から着床、胎児形成、分娩までの過程について理解できる 成長と老化のメカニズムについて理解できる	(1) 生殖細胞と受精 (2) 初期発生と着床 (3) 胎児と胎盤 (4) 小児期の成長 (5) 老化	講義				
	17 18 19 20	5. 内分泌系/ 各内分泌腺の構造、ホルモンの産生とその機能について理解できる 各内分泌腺の相互関係、ホルモンの分泌構造について理解できる	(1) 全身の内分泌腺と細胞 ①視床下部一下垂体系 ②甲状腺と副甲状腺 ③膵臓 ④副腎 ⑤性腺 ⑥その他の内分泌腺 (2) 内分泌系による調節 (3) ホルモン分泌の調節	講義				
	21 22 23 24	6. 神経系Ⅰ/ 脳と脊髄の構成について理解できる 中枢神経の各部位の働きについて理解できる	(1) 神経系の構造と機能 (2) 脊髄と脳 (3) 脳の高次機能	講義				
	25 26 27	7. 演習/ 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる	(1) スケッチ演習	演習				
	28 29	8. 演習 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる	(1) スケッチ演習	演習				
	30	試験						
計	30							
評価方法・配点	筆記試験100点							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学						医学書院	¥4,180
	看護師国家試験 解剖生理学クリアブック						医学書院	¥2,200
備考								

専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅳ	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	15
担当講師	村林 宏 ・ 橋詰 良一							
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。							
ねらい	1. 末梢神経系、感覚器系の系統別の構造、名称、位置、機能、作用、メカニズムについて理解できる 2. 人体模型での総合演習を通し人体の立体構成がわかる							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 神経系Ⅱ/ 脳神経、脊髄神経、自律神経の構造と機能が理解できる	(1) 脊髄神経と脳神経 (2) 運動機能と下行伝導路 (3) 自律神経による調節 ①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神経伝達物質と受容体			講義	村林	
	2							
	3							
	4							
	5	2. 感覚器系/ 一般知覚、視覚、聴覚・平衡覚、味覚、嗅覚の構造と機能について理解できる	(1) 感覚機能と上行伝導路 (2) 目の構造と視覚 (3) 耳の構造と聴覚・平衡覚 (4) 味覚と嗅覚			講義	橋詰	
	6							
	7							
	8							
	9	3. 演習/ 神経系、感覚器の構造と機能の理解と説明ができる	(1) スケッチ演習			演習	村林	
	10							
	11	4. 総合演習/ 演習を通し、各器管の働きと構造、人間の身体について理解を深める	(1) 演習			演習	村林	
	12							
	13							
	14							
	15	試験					橋詰・村林	
計	15							
評価方法・配点	筆記試験100点（橋詰25点 村林75点）							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能（1）解剖生理学					医学書院	¥4,180	
	看護師国家試験 解剖生理学クリアブック					医学書院	¥2,200	
備考								

専門基礎分野	授業科目	生 化 学	開講時期	1 年前期	単 位	1	時間数	30
担当講師	花田 政宏 ・ 安藤 寿典							
授業概要	人間の体がどのような物質から成り立っているか、それらの物質がどのように作られ、分解され、調節されて生命を維持しているかを学ぶ。							
ねらい	1. 生体の生命活動や健康との関連性を化学的側面から理解する。 2. 生体の恒常性維持システムの崩壊が疾病であることを理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当
	1	1. 代謝総論/ 生命活動に必要な代謝について理解できる	(1)代謝とは ①代謝 ②異化と同化 (2)代謝とその制御				講義	花田
	2	2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質/ 生命活動の場である細胞の基本的な構造と	(1)細胞 (2)糖類					
	3	機能を理解し、細胞小器官について理解できる	(3)脂質					
	4	栄養素としての糖質、脂質、タンパク質、	(4)アミノ酸とタンパク質					
	5	核酸、ビタミンの性質や、生命活動を支える	(5)核酸とヌクレオチド					
	6	物質について理解できる	(6)ビタミン					
	7	3. 酵素/ 代謝の流れをつくる酵素の働きが理解できる	(1)酵素の役割、性質、分類 (2)アイソザイム					
	8		(3)臨床診断と酵素					
	1						講義	安藤
	2							
	3	4. さまざまな代謝/ 各物質の種類と基本構造、役割、消化・吸収	(1)糖質代謝 ①糖質代謝の概要 ②解糖のしくみ ③グリコーゲン合成と分解 ④ペントースリン酸回路を経る代謝					
	4	の過程、代謝について理解できる	⑤糖新生 ⑥血糖の調節とホルモンの作用					
	9		(2)脂質代謝①脂質代謝の役割と概要 ②脂質の消化・吸収・貯蔵 ③脂肪酸の分解 ④ケトン体の代謝 ⑤脂肪酸と脂肪の合成				講義	花田
	10		⑥コレステロール代謝⑦リン脂質とエイコサノイド ⑧血中リポ タンパク質⑨脂質異常症(高脂血症)⑩脂肪細胞と生活習慣病					
	11		(3)タンパク質とアミノ酸の代謝①タンパク質・アミノ酸の役割と 概要 ②タンパク質の消化と吸収 ③アミノ酸の代謝 ④アミ ノ酸の使われ方 ⑤アミノ酸代謝・先天性代謝異常					
	12		⑥ヘム合成・ビリルビン代謝					
	13		(4)核酸・ヌクレオチドの代謝①ヌクレオチド代謝の役割と概要 ②ヌクレオチドの合成・分解 ③抗癌剤の作用					
	14							
	15	5. エネルギー代謝の統合と制御/ 生体で、糖質・脂質・タンパク質の代謝がどう 関連しているのか理解できる	(1)臓器間の代謝のつながり (2)代謝異常と疾患					
	16	6. 遺伝情報/ 遺伝情報について概要が理解できる	(1)DNAとは (2)DNAの複製 (3)DNAからRNAへの転写 (4)RNAからタンパク質への翻訳 (5)遺伝子の変化 (6)遺伝子診断・遺伝子治療と看護学的課題					
	17	7. 先天性代謝異常/ 遺伝子の障害により代謝の異常が起こることが 理解できる	(1)先天性代謝異常の概念 (2)酵素異常による発症のメカニズム (3)受容体の異常 (4)その他のタンパク質の異常					
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30	試験						
計	30							
評価方法・配点	筆記試験100点							
テキスト	系統看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学						医学書院	
備考								

専門基礎分野	授業科目	栄 養 学	開講時期	2年前期	単位	1	時間数	15	
担当講師	井田 亜希子								
授業概要	人間に必要な栄養素の種類や働き、食物の吸収・代謝、栄養のマネジメント、栄養評価やライフステージ別に必要な栄養などの基礎的知識と各種疾患患者に必要な栄養管理・食事療法について学ぶ。								
ねらい	1. 栄養素の種類と働き、食物の消化吸収代謝のしくみが理解できる。 2. 栄養状態の評価、臨床栄養の概要が理解できる。								
時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当		
1	1. 人間栄養学と看護/ 人間の栄養状態をみることと看護の役割が理解できる	(1) 栄養を学ぶということ (2) 保健・医療における栄養学 (3) 看護と栄養				講義	井田		
2	2. 栄養素の種類と働き/ 栄養素の種類と主な働きが理解できる	(1) 糖質 (2) 脂質 (3) タンパク質 (4) ビタミン (5) ミネラル (6) 食物繊維 (7) 水							
3	3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝/ 人体の消化・吸収・代謝のしくみが理解できる	(1) 食物の消化 (2) 栄養素の吸収 (3) 血漿成分と栄養素 (4) 栄養素の代謝 (5) 吸収・代謝産物の排泄							
4	4. エネルギー代謝/ エネルギー摂取量、エネルギー消費量、エネルギー代謝について概要が理解できる	(1) 食品のエネルギー (2) 体内のエネルギー (3) エネルギー代謝の測定 (4) エネルギー消費							
5	5. 食事と食品/ 日本人の食事摂取基準、食品群とその分類、調理法の特徴について理解できる	(1) 人間の食事と食文化 (2) 日本人の食事摂取基準 (3) 食品と栄養素 (4) 食品群とその分類法 (5) 食品の調理							
6	6. 栄養ケア・マネジメント/ 栄養ケア・マネジメントとサポートチーム (NST) の働きについて理解できる	(1) チームアプローチと栄養ケア・マネジメント (2) 栄養スクリーニング (3) 栄養アセスメント (4) 栄養ケア計画							
7	7. 栄養状態の評価・判定/ 人の身体から栄養状態を直接かつ総合的に評価・判定する方法を理解できる	(1) 栄養アセスメントとその歴史 (2) 栄養アセスメントの目的 (3) 栄養状態の評価・判定法							
8	8. ライフステージと栄養/ ライフステージごとに必要な栄養と適切な食生活について理解できる	ライフステージ各期の栄養 (1) 乳幼児 (2) 幼児期 (3) 学童期 (4) 思春期・青年期 (5) 成人期 (6) 妊娠期・授乳期 (7) 更年期 (8) 高齢期							
9	9. 臨床栄養/ 臨床栄養の基本となる栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際について理解できる	(1) チームで取り組む栄養管理 (2) 栄養補給法 ①経腸栄養法、②静脈栄養法 (3) 病院食 ①病院食の意義②病院食の種類 (4) 経腸栄養製品 経腸栄養製品の種類 使用時の注意点など (5) 静脈栄養剤 種類と合併症							
10		(6) 疾患・症状別食事療法の実際 ①循環器疾患②消化器疾患③栄養・代謝疾患 ④腎臓疾患⑤血液疾患⑥食物アレルギー (7) 場面別の栄養管理 治療を要する小児、術前・術後、在宅高齢者 (8) がんの食事療法							
11	10. 健康づくりと食生活/ 食生活改善について食生活指針、健康日本21などを基に理解できる	(1) 食生活の変遷と栄養の問題点 (2) 生活習慣病の予防 (3) 食生活の改善への施策 (4) 食の安全性と表示				GW 演習			
12	11. 調理実習/ 実際に事例にあった食事メニューを考え、作成することによって、実際を理解する	(1) 各グループに事例を配布、メニューを考える (2) グループ毎にメニューに合わせて調理実習実施 (3) レポート提出							
13									
14									
15	試験								
計	15								
評価方法・配点	筆記試験100点								
テキスト	系統看護学講座 栄養学						医学書院	¥2,200	
	七訂 食品80キロカロリーガイドブック						女子栄養大学出版部	¥1,650	
備考									

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅰ	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	藤木 佑斗 ・ 伊藤 善也							
授業概要	<p>病理学：病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響を知り、それぞれの病気について本質を理解する。 血液・造血器系疾患の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結びつけられるようにする。</p>							
ねらい	<p>1. 病気の原因、身体内での病的変化等を理解できる。 2. 血液・造血器疾患の病態、主要症状・検査・治療、代表的な疾患の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。</p>							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 病理学で学ぶこと/ 病気とは何か、病理学がどんな学問なのか理解できる	(1)看護と病理学 (3) 病気の分類と病理学の学び方			講義	藤木	
	2	2. 細胞・組織の障害と修復/ 細胞損傷の原因と機序、修復過程について理解できる	(2) 病気の原因 (1)細胞の損傷と適応 (2)組織の修復と創傷治癒					
	3	3. 循環障害/ 様々な循環による障害について理解できる	(1)循環系の概要 (6) 塞栓症					
	4		(2)浮腫(水腫) (7) 虚血と梗塞					
	5		(3)充血とうっ血 (8) 側副循環による障害					
	6		(4)出血 (9) ショック					
	7		(5)血栓症 (10) 高血圧症					
	8		(11) 播種性血管内凝固症候群(DIC)					
	9	4. 炎症と免疫、移植と再生医療/ 生体の防御反応としての炎症と免疫について理解できる	(1)炎症とその分類 (3) アレルギーと自己免疫疾患					
	10		(2)免疫と免疫不全 (4) 移植と再生医療					
	11	5. 感染症/ 感染症の一般的な特徴についてと代表的な病原体が理解できる	(1)感染と宿主の防御機構 (3) 感染症の治療と予防					
	12		(2)主な病原体と感染症					
	13	6. 代謝障害/ 代謝障害によって生じる疾患について理解できる	(1)脂質代謝障害/ (3) 糖尿病					
	14		(2)タンパク質代謝障害 (4) その他の代謝障害					
	15	7. 老化と死/ ヒトの老化と死について学び、終末期医療についても考える	(1)個体の老化と老年症候群 (3) 個体の死と終末期医療					
	16		(2)加齢に伴う諸臓器の変化					
	17	8. 先天異常と遺伝子異常/ 先天異常・遺伝子異常の原因、診断、治療について理解できる	(1)遺伝の生物学 (3) 遺伝子の異常と疾患					
	18		(2)先天異常 (4) 先天異常・遺伝子異常の診断と治療					
	19	9. 腫瘍/ 腫瘍とは何か、腫瘍の種類について等理解できる	(1)腫瘍の定義と分類 (3) 腫瘍の発生病理					
	20		(2)悪性腫瘍の広がりや影響 (4) 腫瘍の診断と治療					
	21							
	22							
	23	1. 血液の生理と造血のしくみ/ 2. 検査・診断と症候・病態生理/ 検査・診断症候等が理解できる	(1)血液の成分と機能 (2)造血のしくみ (1)病歴聴取と身体所見 (2)検査 (3)症候とその病態生理					
	24	3. 疾患と治療の理解/ 主要な疾患が理解できる	(1)赤血球の異常					
	25		(2)白血球系の異常					
	26		(3)造血器腫瘍					
	27		(4)出血性疾患					
	28		(5)疾患の理解 まとめの演習					
	29							
	30	試験					藤木・伊藤	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験 (病理学70点、血液・造血器30点)							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 (1) 病理学						医学書院	¥2,640
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学4血液・造血器						医学書院	¥1,760
備考								

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅱ	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	小笠 壽之 ・ 齊藤 高彦 ・ 石羽澤 明弘 ・ 三宅 毅							
授業概要	呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血管器疾患の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。							
ねらい	1.呼吸器疾患、循環器疾患、眼科疾患、乳腺疾患の病態、主要症状・検査・治療を理解できる。 2.呼吸器疾患、循環器疾患、眼科疾患、乳腺疾患の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1.呼吸器の構造と機能/ 呼吸器の構造と機能が理解できる 2.症状とその病態生理/ 症状とその病態生理が理解できる 3.検査と治療・処置/ 検査・治療が理解できる 4.疾患の理解/ 主要な疾患が理解できる	(1)呼吸器の構造 (2)呼吸の生理			講義	小笠	
	2		(1)自覚症状 ①喀痰 ②血痰・咯血③咳嗽 ④胸痛 ⑤呼吸困難 (2)他覚症状 ①チアノーゼ ②ばち指 ③発熱 ④呼吸の異常 ⑤声の異常 ⑥いびき ⑦意識障害					
	3		(1)診察と診断の流れ (3)治療・処置					
	4		(2)検査 (1)感染症					
	5		①かぜと急性気管支炎 ②インフルエ ③肺炎 ④結核					
	6		(2)間質性肺疾患 ①原因不明の間質性肺炎 ②サルコイドーシス ③好酸球性肺疾患 ④過敏性肺炎 ⑤塵肺 ⑥膠原病に伴う肺病変 ⑦薬剤性肺炎 ⑧放射線肺炎					
	7		(3)気道疾患 ①気管支喘息 ②気管支拡張症					
	8		③慢性閉塞性肺疾患(4)肺血栓塞栓症(5)呼吸不全					
	9		(6)呼吸調節に関する疾患(7)肺腫瘍 (8)肺・肺血管の形成異常					
	10		(9)胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 (10)肺移植 (11)胸部外傷					
	11		(12)疾患の理解 まとめの演習					
	12		1.循環器の構造と機能/ 循環器の構造と機能が理解できる 2.症状とその病態生理/ 症状とその病態生理が理解できる 3.検査と治療/ 検査・治療が理解できる 4.疾患の理解/ 主要な疾患が理解できる	(1)心臓の構造と機能 (2)血管の構造と機能 (3)循環の調節				
	13	(1)胸痛 (2)動悸 (3)呼吸困難 (4)浮腫(5)チアノーゼ (6)めまい・失神 (7)四肢の疼痛 (8)ショック						
	14	(1)診察と診断の流れ						
	15	(2)検査 ①心電図②胸部X線③心エコー④脳波検査 ⑤心臓カテーテル法 ⑥血行動態モニタリング ⑦心臓核医学検査 ⑧コンピューター断層撮影 (CT) ⑨磁気共鳴画像法 (MRI)						
	16	(3)治療						
	17	①内科的治療 ②外科的治療 ③補助循環装置						
	18	(1)虚血性心疾患						
	19	①安定冠動脈疾患②急性冠症候群 ③冠動脈硬化の危険因子						
	20	(2)心不全 (3)血圧異常 (4)不整脈						
	21	(5)弁膜症 (6)心膜炎 (7)心筋疾患 (8)肺性心						
	22	(9)先天性心疾患 (10)動脈系疾患						
	23	(11)静脈系疾患						
	24	(12)リンパ系疾患						
	25	(13)疾患の理解 まとめの演習			演習	石羽澤		
	26	1.眼の構造と機能/ 2.症状とその病態生理/ 3.検査と治療/ 4.疾患の理解/	(1)眼球 (2)視神経・視路(3)眼球付属器					講義
	27		(1)視機能に関連した症状(2)視機能に関連しない症状					
	28		(1)診察と診断の流れ(2)検査(3)治療方法					
	29	1.乳腺の構造と機能/2.症状とその病態生理 3.検査と治療/4.疾患の理解	(1)臓器別疾患-乳房の疾患			講義・演習	三宅	
	30		(2)疾患の理解 まとめの演習					
計	30				小笠・齊藤・石羽澤・三宅			
評価方法・配点	筆記試験(呼吸器疾患30点、循環器疾患40点、眼科15点、乳腺15点)							
テキスト	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学2呼吸器			医学書院	¥2,640	
	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学3循環器			医学書院	¥2,640	
	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学13眼科			医学書院	¥1,980	
	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学9女性生殖器			医学書院	¥2,530	
備考								

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅲ	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	上林 実 ・ 西谷 篤史 ・ 根岸 秀明							
授業概要	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。							
ねらい	1. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の病態、主要症状・検査・治療を理解できる。 2. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 消化器の構造と機能/ 消化器の構造と機能が理解できる	(1) 食道の構造と機能 (2) 胃・十二指腸の構造と機能 (3) 小腸・大腸の構造と機能 (4) 直腸・肛門の構造と機能 (5) 肝臓の構造と機能 (6) 胆道系の構造と機能 (7) 膵臓の構造と機能			講義	上林	
	2	2. 症状とその病態生理/ 症状とその病態生理が理解できる	(1) 嚥下困難 (2) おくび・胸やけ (3) 吐き気・嘔吐 (4) 腹痛 (5) 吐血・下血 (6) 下痢 (7) 便秘 (8) 腹部膨満 (9) 食欲不振と体重減少 (10) 腹水 (11) 黄疸 (12) 意識障害 (肝性脳症)					
	3	3. 検査と治療/ 検査と治療が理解できる	(1) 診察と診断の流れ (2) 検査 ①糞便検査②肝機能検査 ③栄養状態のアセスメント④膵外分泌機能検査⑤超音波検査 ⑥内視鏡検査⑦肝生検 ⑧放射線検査 ⑨CT ⑩MRI ⑪肝シンチ ⑫PET					
	4		(3) 治療 ①薬物療法②栄養・食事療法③手術療法④放射線療法					
	5	4. 疾患の理解/ 主要な疾患が理解できる	(1) 食道の疾患					
	6		(2) 胃・十二指腸疾患					
	7		(3) 腸および腹膜疾患					
	8		(4) 肝臓・胆嚢の疾患					
	9		(5) 膵臓の疾患					
	10		(6) 急性腹症 (7) 腹部外傷					
	11		(8) 疾患の理解 まとめの演習					
	12							
	13	1. 内分泌・代謝器官の構造と機能/ 内分泌・代謝器官の構造と機能が理解できる 2. 症状とその病態生理/ 症状とその病態生理が理解できる 3. 検査/ 検査について理解できる 4. 疾患の理解/ 主要な疾患が理解できる	(1) 内分泌器官の構造と機能 (2) 内分泌器官とホルモンの機能 (3) 代謝の概要と機能			講義	西谷	
	14		(1) 体重変化・身長異常 (2) 容貌変化 (3) 神経・筋症状 (4) 循環器症状 (5) 消化器症状 (6) 皮膚の変化 (7) 無月経					
	15		(1) 内分泌疾患の検査 (2) 代謝疾患の検査					
	16		(1) 内分泌疾患 ①視床下部-下垂体前葉系疾患 ②視床下部-下垂体後葉系疾患③甲状腺疾患④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患 ⑥性腺疾患 ⑦膵・消化管神経内分泌腫瘍 ⑧多発性内分泌腫瘍症 ⑨内分泌疾患の救急治療					
	17		(2) 代謝疾患 ①糖尿病 ②脂質異常症 ③肥満症とメタボ ④尿酸代謝異常					
	18		(3) 疾患の理解 まとめの演習					
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24	1. 女性生殖器の構造と機能/ 2. 症状とその病態生理/ 症状とその病態生理が理解できる 3. 診察・検査と治療・処置/ 診察・検査等について理解できる 4. 疾患の理解/ 主要な疾患が理解できる	(1) 女性生殖器の構造 (2) 女性生殖器の機能 ①ショック ②出血 ③帯下 ④疼痛 ⑤発熱 ⑥下腹部膨満・腫瘤感 ⑦外陰部掻痒⑧排尿障害 ⑨自律神経症状、不定愁訴 ⑩リンパ浮腫			講義	根岸	
	25		(1) 診察・検査 (2) 治療・処置					
	26		(1) 性分化疾患 (2) 臓器別疾患 (3) 機能的疾患 (4) 感染症 (5) 疾患の理解 まとめの演習					
	27							
	28							
	29							
	30	試験				上林・西谷・根岸		
計	30							
評価方法・配点	筆記試験 (消化器疾患40点、内分泌・代謝疾患40点、女性生殖器20点)							
テキスト	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学5消化器						医学書院	¥2,970
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学6内分泌代謝						医学書院	¥2,310
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学9女性生殖器						医学書院	¥2,530
備考								

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅳ	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	高杉 和雄 ・ 森本 一郎 ・ 菊地 憲孝 ・ 小林 孝弘							
授業概要	脳神経疾患、免疫・アレルギー・感染症疾患、皮膚疾患の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。							
ねらい	1. 脳神経疾患、免疫・アレルギー・感染症疾患、皮膚疾患の病態、主要症状・検査・治療を理解できる 2. 脳神経疾患、免疫・アレルギー・感染症疾患、皮膚疾患の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 脳神経系の構造と機能/ 脳神経系の構造と機能について理解できる 2. 症状とその病態生理/ 症状と病態生理について理解できる 3. 検査・診断と治療・処置/ 4. 疾患の理解/ 検査・診断・処置、主要な疾患について理解できる	(1)神経系の分類と機能 (2)中枢神経系(脳と脊髄) (3)末梢神経系 (4)脳・脊髄の保護構造と循環系 (5)運動機能と感覚機能			講義	高杉	
	2		(1)脳・神経障害とは (2)主な症状とその病態生理 ①意識障害 ②高次脳機能障害③運動機能障害④感覚機能障害					
	3		⑤反射性運動の障害 ⑥頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア					
	4		⑦バイタルサインの変化 ⑧髄膜刺激症状 ⑨頭痛					
	5		(1)診断と診療の流れ (2)検査 (3)治療・処置					
	6		(1)脳疾患					
	7		(2)脊髄疾患					
	8		(3)末梢神経障害					
	9		(4)神経・筋疾患					
	10		(5)脱髄・変性疾患					
	11		(6)脳・神経系の感染症					
	12		(7)中毒 (8)てんかん					
	13		(9)認知症 (10)内科疾患に伴う神経疾患					
	14		(11)疾患の理解 まとめの演習					
	1	1. 免疫のしくみとアレルギー/ 免疫のしくみが理解できる 2. 検査と治療/ 3. 症状と疾患の理解/ 検査・治療・症状・疾患について理解できる 4. 自己免疫疾患とその機序/ 5. 症状とその病態生理/ 自己免疫疾患と機序、症状と病態生理について理解できる 6. 検査と治療/ 7. 疾患の理解/ 検査と治療、主要な疾患について理解できる	(1)免疫反応と病気(2)アレルギーに関する免疫担当細胞と化学物質 (3)アレルギーのしくみ			講義	森本	
	2		(1)検査と診断 (2)治療					
	3		(1)気管支喘息(2)アレルギー性鼻炎(3)アトピー性皮膚炎(4)薬物アレルギー (5)アナフィラキシー(6)蕁麻疹(7)接触性皮膚炎(8)食物アレルギー					
	4		(1)免疫トレランス(免疫寛容) (2)自己免疫疾患の病態					
	5		(1)関節痛・関節炎 (2)レイノー現象 (3)皮膚・粘膜症状 (4)発熱 (5)タンパク尿 (6)筋力低下					
	6		(1)膠原病の診断までの流れ(2)検査 (3)治療方法 (1)関節リウマチ(2)全身性エリテマトーデス(3)全身性強皮症 (4)多発性筋炎、皮膚筋炎 (5)混合性結合組織病(6)血管炎症候群 (7)シェーグレン症候群 (8)ベーチェット病					
	1	8. 感染症とは/ 9. 感染症の検査・診断/ 10. 感染症の治療/ 11. 疾患の理解/ 感染症(赤字)の概要、検査・診断、治療について理解できる	(1)感染症の成立する条件 (2)感染症の病態生理 (3)症状			講義	菊地	
	2		(1)感染症診断の原則(2)検査・診断・治療の流れ(3)検査の実際					
	3		(1)感染症治療の原則(2)抗菌薬(3)その他の治療、一次予防、二次予防					
	4		(1)発熱・不明熱(2)上気道感染(3)下気道感染(4)心血管系感染症(5)消化管感染症 (6)胆道系感染症(肝臓病等)(7)尿路感染症(8)性感染症(9)皮膚軟部組織感染症 (10)眼の感染症(11)中枢神経感染(12)悪性腫瘍、造血幹細胞移植、固形臓器移植に伴 (13)菌血症・敗血症 (14)人動物咬傷 (15)真菌感染症 (16)寄生虫 (17)HIV (18)新興・再興感染症 (19)多剤耐性菌感染症 (20)疾患の理解 まとめの演習					
	5							
	1	1. 皮膚の構造と機能/ 2. 症状とその病態生理/ 3. 検査と治療・処置/ 4. 疾患の理解/ 皮膚の構造、機能、症状・病態生理、検査と治療等について理解できる	(1)皮膚の構造 (2)皮膚の機能			講義	小林	
	2		(1)発疹 (2)掻痒 (3)皮膚の老化					
	3		(1)診察と診断の流れ (2)検査 (3)治療・処置					
	4		(1)表在性皮膚疾患 (2)真皮・皮下脂肪織・皮膚付属器の疾患 (3)脈管系の異常による皮膚(4)物理・化学的皮膚傷害 (5)腫瘍及び色素異常症(6)感染症(7)内臓疾患に伴う皮膚病変					
	1	試験				高杉・森本・菊地・小林		
計	30							
評価方法・配点	筆記試験(脳神経系45点、免疫20点・感染症20点、皮膚15点)							
テキスト	系統看護学講座専門	専門分野	成人看護学7	脳神経	医学書院	¥2,640		
	系統看護学講座専門	専門分野	成人看護学11	アレルギー・膠原病	医学書院	¥2,420		
	系統看護学講座専門	専門分野	成人看護学12	皮膚	医学書院	¥2,090		
備考								

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅴ	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	谷口 治・小野寺 栄司・鈴木 豊典・村田 保博							
授業概要	腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。							
ねらい	1. 腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態、主要症状・検査・治療を理解できる 2. 腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	腎泌尿器 1. 腎泌尿器の構造と機能/ 腎泌尿器の構造と機能が理解できる 2. 腎臓病① 病態と分類、検査が理解できる 3. 腎臓病② 原因と治療について理解できる。 4. 腎代替療法 透析について理解できる。 5. 泌尿器疾患 病態と治療について理解できる。	(1)腎臓の構造と機能 (2)尿管の構造と機能 (3)膀胱の構造と機能 (4)尿道の構造と機能 (5)男性生殖器の構造と機能			講義	谷口	
	2		(1)尿の異常 (2)排尿に関連した症状 (3)浮腫 (4)脱水 (5)循環器系の異常 (6)血液の異常 (7)尿毒症 (8)疼痛 (9)腫脹・腫瘤 (10) 診察、検査、治療と処置、排尿管理					
	3		(1)腎不全と慢性腎臓病 (2)ネフローゼ症候群 (3)糸球体腎炎 (4)全身性疾患による腎障害 (5)尿細管間質性腎炎 (6)腎血管性病変 (7)妊娠高血圧症候群					
	4		(1)透析療法 ①血液透析 ②腹膜透析 (2)腎移植					
	5		(1)尿管機能異常 (3)尿路・性器の感染症 (3)尿路の通過障害と機能障害 (4)尿路損傷・異物 (5)尿路結石症 (6)尿路・性器の腫瘍 (15)男性不妊症、男性機能障害、その他男性生殖器疾患 (16)腎臓病・泌尿器疾患の理解 まとめ演習					
	6	運動器 1. 運動器の構造と機能/ 2. 症状とその病態/ 運動器の構造と機能、症状について理解できる 3. 診断・検査と治療・処置/ 診断・検査、治療・処置について理解できる 4. 疾患の理解/ 主要な疾患について理解できる	(1)骨 (2)関節 (3)神経と筋肉 (4)腱と靭帯 (1)疼痛 (2)形態の異常 (3)関節運動の異常 (4)神経の障害 (5)異常歩行または跛行 (6)筋肉の障害 (7)その他の障害			講義	小野寺	
	7		(1)診察・診断の流れ (2)検査 (3)治療・処置 ①保存療法 ②理学療法と作業療法 ③手術療法 ④義肢と装具					
	8		(1)外傷性の運動器疾患 ①骨折 ②脱臼 ③捻挫・打撲 ④神経の損傷 ⑤筋・腱・靭帯などの損傷					
	9		(2)内因性の運動器疾患 ①先天性疾患 ②骨・関節の炎症性疾患 ③骨腫瘍・軟部腫瘍 ④代謝性疾患 ⑤筋・腱の疾患 ⑥神経の疾患 ⑦上肢・上肢帯の疾患 ⑧脊椎の疾患 ⑨下肢・下肢帯の疾患 ⑩運動器不安定症					
	10		(3)疾患の理解 まとめ演習					
	11	歯・口腔 1. 歯・口腔の構造と機能/ 歯・口腔の構造について理解できる 2. 症状とその病態生理/ 3. 検査と治療・処置/ 4. 疾患の理解/ 症状と病態生理、検査・治療、主要な疾患について理解できる	(1)歯・歯周組織 (2)口唇・頬部 (3)口蓋 (4)舌 (5)口底・顎下部 (6)顎・顎関節 (7)口腔顎顔面の筋 (8)唾液腺 (1)口腔症状 (2)顎口腔機能障害 (1)診察と診断の流れ (2)検査 (3)治療・処置 (1)歯の異常と疾患 (2)歯周組織疾患 (3)齶触に続発する疾患 (4)口腔粘膜の疾患 (5)口腔領域の嚢胞 (6)口腔領域の腫瘍・類似疾患 (7)口腔領域の悪性腫瘍 (8)歯と顎骨の外傷 (9)口腔領域の先天異常・発育異常 (10)顎関節の疾患 (11)唾液腺の疾患 (12)神経の疾患			講義	鈴木	
	12		(1)耳 (2)鼻 (3)口腔と唾液腺 (4)咽頭 (5)喉頭 (6)気管・食道・甲状腺(頸部)					
	13		(1)耳に現れる症状とその病態生理 (2)鼻に現れる症状・病態生理 (3)口腔、唾液腺、咽頭に現れる症状・病態生理 (4)喉頭に現れる症状・病態生理					
	14		(1)診察と診断の流れ (2)検査 (3)治療 (1)耳疾患 (2)鼻疾患 (3)口腔・咽喉頭疾患 (4)気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害					
	15		試験					
	16	谷口・小野寺・鈴木・村田						
計	30							
評価方法・配点	筆記試験(腎泌尿器(秋山20点 小川(筆記・発言)20点)、運動器35点、歯・口腔10点、耳鼻科15点)							
テキスト	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学8腎泌尿器					医学書院	¥2,530	
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学10運動器					医学書院	¥2,640	
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学14耳鼻咽喉科					医学書院	¥1,980	
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学15歯・口腔					医学書院	¥2,090	
備考								

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅵ	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	荒川稜二・田中聡美・阿部智充・日谷正希・赤間大太・伊林恵美・庄司寛・小野直和・羽石圭佑							
授業概要	外科的療法：外科的治療を受ける患者に共通する麻酔法、手術手技、疼痛管理、手術体位などの基礎的な知識を理解する。リハビリテーション療法：各器官の疾患に伴う障害とリハビリテーションを理解し、日常生活行動の再獲得のための支援を学ぶ。							
ねらい	1. 麻酔や手術による生体反応について理解できる。 2. 各器官の疾患に伴う障害とリハビリテーションについて理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 外科患者の病態の基礎/ 外科的治療を受ける患者の病態の基礎的な知識が理解できる 2. 外科的治療を支える分野/ 外科的治療を行うための麻酔や身体管理について理解できる 緩和医療の基本的な考えが理解できる 3. 外科的治療の実際/ 外科的治療に必要な手技や治療の内容が理解できる 4. 救急看護の基礎/ 救急処置の原則・特徴が理解できる 5. 看護を取り巻く法的環境/ 看護を取り巻く法的門や倫理的問題が理解できる	(1)外科患者のアセスメント	(4)感染症	講義	荒川		
	2		(2)手術侵襲と生体の反応	(5)腫瘍				
	3		(3)炎症	(6)外傷とショック				
	4		(1)麻酔法					
	5		(2)呼吸管理					
	6		(3)体液・栄養管理					
	7		(4)輸血療法	(3)臓器移植				
	8		(5)緩和医療					
	9		(1)外科的基本手技					
	10		(2)低侵襲治療					
	11	1. 運動器系の障害とリハビリテーション看護/ 運動器の障害のメカニズム、治療、障害の評価、看護の手法について理解できる 2. 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護/ ・脳血管障害の代表的な症状のメカニズム、評価、治療・訓練、看護について理解できる ・パーキンソン病の代表的な症状のメカニズム、評価、治療・訓練、看護について理解できる ・脊髄損傷による麻痺患者に対し、代償動作の獲得、自助具の利用など必要な知識と技術を理解できる 3. 呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護/ ・慢性閉塞性肺疾患に必要な知識と患者の回復にそったADL拡大の援助について理解できる ・虚血性心疾患の概念、病態、危険因子等を理解し、段階的な運動負荷や再発予防について理解できる 4. 感覚器系の障害とリハビリテーション看護/ ・視覚障害を持ちながら患者が生活に適應し、QOL向上を目指した生活ができる援助方法を学ぶ ・聴覚障害に対する治療・リハビリテーションについて理解できる	(1)総論	(2)関節リウマ①病態 ②治療	講義 演習	田中		
	12		(3)リハビリプログラム ④障害と看護					
	13		(3)骨折 ①病態 ②治療過程と治療					
	14		(3)リハプログラム④障害と看護					
	15		(1)パーキンソン病					
	16		①病態 ②リハプログラム ③障害と看護					
	17		(2)体表解剖・形態計測 演習					
	18		(3)関節可動域の測定 自動・他動演習					
	19		(4)徒手筋力測定 演習					
	20		(5)脳血管障害					
	21	①病態 ②リハプログラム ③障害と看護						
	22	④再発作・転倒予防と管理						
	23	(6)摂食嚥下障害のリハビリ						
	24	(7)失語症・構音障害						
	25	(8)脊髄損傷						
	26	①病態 ②リハプログラム ③障害と看護						
	27	④合併症の予防と管理						
	28	(1)慢性閉塞性肺疾患						
	29	①病態 ②リハプログラム ③障害と看護						
	30	(2)虚血性心疾患 ①病態						
		②リハプログラム③障害と看護④合併症の予防と管理						
		(1)聴覚障害						
		①病態 ②リハプログラム ③障害と看護						
		(2)視覚障害						
		①病態 ②リハプログラム ③障害と看護						
計	30	試験				荒川・田中		
評価方法・配点	筆記試験（外科的療法40点、リハビリテーション60点）							
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論						医学書院	¥3,080
	系統看護学講座 別巻リハビリテーション看護						医学書院	¥2,750
備考								

専門基礎分野	授業科目	薬理学	開講時期	1年	単位	1	時間数	30			
担当講師	横堀 友記 ・ 千葉 真人 ・ 佐藤 友昭										
授業概要	種々の薬物が生体に及ぼす影響を理解し、薬理学の基礎的知識と薬物療法、薬理作用・副作用について、また看護上の注意点についても学ぶ。										
ねらい	1. 薬物と生体の相互作用の結果起こる現象、そのメカニズムが理解できる。 2. 薬物の特徴、副作用、注意点、薬物の管理について理解できる。										
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当				
	1	1. 薬理学総論/ 薬理作用の基本と有害作用の機序について理解できる	(1)薬の性質・目的・看護師の役割 (2)薬理作用 (4)薬効に影響する因子 (3)吸収・分布・代謝・排泄			講義	横堀				
	2	2. 免疫治療薬/ 免疫反応のしくみと薬の種類について理解できる	(1)免疫反応のしくみ (2)免疫抑制剤 (3)免疫増強剤 (4)予防接種薬								
	3	3. 末梢での神経活動に作用する薬物/ 末梢神経による情報伝達のしくみと薬物の種類、作用が理解できる	(1)神経による情報伝達 (2)自律神経系と薬の作 (4)副交感神経作用薬 (3)交感神経作用薬 (5)筋弛緩薬・局所麻酔								
	4	4. 皮膚科用薬・眼科用薬/ 皮膚科薬・眼科用薬の作用と特徴が理解できる	(1)皮膚に使用する薬物 (2)眼科外用薬								
	5	5. 中枢神経系に作用する薬物/ 中枢神経系のはたらきと薬物の種類、作用が理解できる	(1)中枢神経系の働きと薬物 (5)抗うつ薬 (2)全身麻酔薬 (6)パーキンソン症候群治 (3)催眠薬・抗不安薬 (7)抗てんかん薬 (4)抗精神病薬 (8)麻薬性鎮痛薬								
	6	6. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物/ 呼吸器・消化器・生殖に作用する薬物の種類と作用について理解できる	(1)呼吸器系に作用する薬物 (2)消化器系に作用する薬物 (3)生殖器系に作用する薬物						講義	千葉	
	7	7. 抗感染症薬/ 抗感染症薬の種類、作用、問題点について理解できる	(1)様々な抗菌薬 (2)特殊な感染症治療薬 (3)感染症治療の問題点								
	8	8. 消毒薬/ 消毒薬の特徴が理解できる	(1)消毒薬								
	9	9. 抗がん薬/ 抗がん作用の種類、しくみ、薬剤耐性について理解できる	(1)抗がん作用のしくみ、薬剤耐性 (2)様々な抗がん薬								
	10	10. 抗アレルギー薬・抗炎症薬/ 抗アレルギー薬・抗炎症薬の作用と種類について理解できる	(1)抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 (2)炎症と抗炎症薬 (4)痛風・抗尿酸血症治 (3)関節リウマチ治療薬 (5)片頭痛治療薬								
	11	11. 物質代謝に作用する薬物/ 糖尿病治療薬等物質代謝の薬物の作用について理解できる	(1)ホルモンおよびホルモン拮抗薬 (2)治療薬としてのビタミン								
	12	12. 心臓・血管系に作用する薬物/ 心臓・血管系に作用する薬物の種類と作用について理解できる	(1)抗高血圧薬 (4)抗不整脈薬 (2)狭心症治療薬 (5)利尿薬 (3)うっ血性心不全治療 (6)脂質異常症治療薬 (7)血液に作用する薬物								
	13	13. 救急の際に使用される薬物/ 救急時に使用する薬物の作用について理解できる	(1)救急時に用いられる薬物 (2)急性中毒に対する薬物治療								
	14	14. 漢方薬/漢方薬の特徴が理解できる	(1)漢方薬								
	15	15. 輸液剤・輸血剤/ 輸液・輸血の概要と種類が理解できる	(1)輸液 (2)輸血								
	16	試験									
計	30							横堀・千葉・佐藤			
評価方法・配点	筆記試験（横堀28点・千葉36点・佐藤36点）										
テキスト	系統看護学講座専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進（3）薬理学						医学書院	¥2,530			
備考											

専門基礎分野	授業科目	微生物学	開講時期	1年	単位	1	時間数	30			
担当講師	増田 悦郎										
授業概要	病因となる微生物の特徴と生体に及ぼす影響について学ぶ。感染や発症に対する生体防衛機構について理解する。感染予防と対処方法など、感染対策としての看護の基本的知識を養う。										
ねらい	1. 微生物の性質と生体に及ぼす影響について理解する。 2. 感染と免疫機序、感染予防について理解する。										
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当				
	1	1. 微生物と微生物学/ 微生物の性質、微生物学について概要が理解できる	(1) 微生物の性質	(2) 微生物と人間	(3) 微生物学の対象と目的	講義	増田				
	2	2. 細菌の性質/ 細菌の特徴について理解できる	(1) 細菌の形態と特徴	(2) 培養環境と栄養	(3) 細菌の遺伝・分類						
	3	3. ウィルスの性質/ ウィルスの特徴について理解できる	(1) ウィルスの特徴	(2) ウィルスの構造と各部分の機能	(3) ウィルスの増殖・分類						
	4	4. 真菌の性質/ 真菌の特徴について理解できる	(1) 真菌の形態と特徴	(2) 真菌の増殖	(3) 真菌の分類と命名法						
	5	5. 感染と感染症/ 様々な感染の機構について理解できる	(1) 微生物感染の機構	(2) 感染成立～発症・治癒	(3) ウィルス感染の機構						
	6	6. 感染に対する生体防御機構/ 免疫のしくみ、感染徴候について理解できる	(1) 免疫にかかわる細胞、組織	(2) 自然免疫のしくみ	(3) ウィルス感染のしくみ						
	7	7. 滅菌と消毒 バイオハザードとバイオセーフティ、	(1) 滅菌と消毒、除菌	(2) バイオハザードとバイオセーフティー	(3) 粘膜炎のしくみ						
	8	8. 感染症の検査と診断/ 感染症の検査と診断について理解できる	(1) 病原体を検出する方法	(2) 生体の反応から診断する方法	(4) 粘膜免疫のしくみ						
	9	9. 感染症の治療/ 感染症の治療について理解できる	(1) 抗菌薬	(2) 抗ウイルス薬	(5) 感染の徴候と症状						
	10	10. 感染症の現状と対策/ 感染症の変遷、現状と問題点が理解できる	(1) 感染症の変遷	(2) 感染症の現状と問題点、対策	(6) ウィルスの増殖・分類						
	11	11. 病原細菌と細菌感染症/ 病原細菌の種類と特徴が理解できる	(1) グラム陽性球菌	(2) グラム陰性球菌	(7) 抗酸菌と放線菌類						
	12		(3) グラム陰性好気性杆菌	(4) グラム陰性通性菌	(8) 嫌気性菌						
	13		(4) グラム陰性通性菌	(5) カンピロバクター属とヘリコバクター属	(9) スピロヘータ						
	14		(5) カンピロバクター属とヘリコバクター属	(6) グラム陽性杆菌	(10) マイコプラズマ						
	15		(6) グラム陽性杆菌	(7) DNAウイルス	(11) リケッチア目						
	16		(7) DNAウイルス	(8) RNAウイルス	(12) クラミジア科						
	17		(8) RNAウイルス	(1) 深在性真菌症をおこす真菌	(3) ウィルスの臨床的分類						
	18		(1) 深在性真菌症をおこす真菌	(2) 深部皮膚真菌症をおこす真菌							
	19		(2) 深部皮膚真菌症をおこす真菌	(3) 表在性真菌症をおこす真菌							
	20		(3) 表在性真菌症をおこす真菌	(1) 寄生虫学総論	(3) 蠕虫						
	21		(1) 寄生虫学総論	(2) 原虫							
	22		(2) 原虫								
	23	14. 寄生虫と衛生動物 寄生虫と衛生動物の種類と特徴がわかる									
	24	試験									
計	30										
評価方法・配点	筆記試験100点										
テキスト	系統看護学講座専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 (4) 微生物学								医学書院	¥2,420	
備考											

専門基礎分野	授業科目	臨床検査	開講時期	2年	単位	1	時間数	15			
担当講師	畑中 宗博										
授業概要	各診療科で行われる主な検査と目的、流れと看護師の役割などの概要を学ぶ。ここでは、なぜこのような反応・数値が出るのか等も学び、病態と解剖生理の理解にもつなげる。										
ねらい	1. 臨床検査の種類と意義、注意点が理解できる。 2. 看護師の役割が理解できる。										
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当				
	1	1. 臨床検査とその役割/ 臨床検査の種類や役割などが理解できる	(1) 診療における臨床検査の役割 (2) 臨床検査の種類 (3) 臨床検査の場面と目的 (4) 臨床検査の評価			講義	畑中				
	2	2. 臨床検査の流れと看護師の役割/ 臨床検査の流れと看護師の役割について理解できる	(1) 臨床検査の流れ(5) 検査に伴う危険と防止(針刺、感染) (2) 臨床検査の準備(6) 簡易迅速検査機器と検査の実際 (3) 検査を受ける患者の説明と注意(7) 生体検査とその介助 (4) 検体の採取方法、保存・移送方法(8) 検査結果の取り扱い(胸腔穿刺)								
	3	3. 一般検査/ 一般検査の種類、意義、注意点、 解釈等が理解できる	(1) 尿検査 (4) 脳脊髄液(髄液)検査 (2) 便検査 (5) 関節液検査 (3) 体腔内貯留液検査 (6) 消化液検査								
	5	4. 血液学的検査/ 血液学的検査の種類と意義、注意点 解釈等理解できる	(1) 赤血球沈降速度 (4) 溶血性貧血の検査 (2) 血球検査 (5) 骨髄検査 (3) 出血・凝固検査								
	7	5. 化学検査/ 化学検査の種類と意義、注意点が 理解できる	(1) 血清タンパク質の検査 (8) 腎機能検査 (2) 血清酵素の検査 (9) 水・電解質の検査 (3) 糖代謝の検査 (10) 血液ガス分析 (4) 脂質代謝の検査 (11) 鉄代謝関連検査 (5) 胆汁排泄関連物質の検査 (12) 銅代謝関連検査 (6) 窒素化合物(尿酸)の検査 (13) ビタミンの検査 (7) 骨代謝関連検査 (14) 血中薬物濃度の検査								
	9	6. 免疫・血清学検査/ 免疫・血清学検査の方法、意義、注意点 解釈等が理解できる	(1) 炎症マーカーの検査 (5) アレルギー検査 (2) 液性免疫の検査 (6) 免疫学的妊娠反応の検査 (3) 細胞性免疫検査：血球細胞表面マーカー(7) 腫瘍マーカー (4) 自己抗体の検査(8) 輸血に関する検査 (ABO式Rh式)								
	11	7. 内分泌学的検査/ ホルモンの検査の種類と意義、注意点が 理解できる	(1) 下垂体前葉ホルモン検査 (7) 男性性腺ホルモン検査 (2) 下垂体後葉ホルモン検査 (8) 女性性腺ホルモン検査 (3) 甲状腺ホルモン検査 (9) 膵臓ホルモン検査 (4) 副甲状腺ホルモン検査 (10) 消化管ホルモン検査 (5) 副腎皮質ホルモン検査 (11) その他のホルモン検査 (6) 副腎髄質ホルモン検査								
	12	8. 微生物学検査/ 微生物学検査と他の検査の違い、注意点が 理解できる	(1) 感染症の診断と検査 (2) 各種感染症と検査 (3) 各種病原体と検査								
	13	9. 病理検査/ 病理検査の種類、意義、注意点が理解できる	(1) 細胞診 (2) 病理組織検査 ①生検(肺生検、筋生検) ②術中迅速診断検査等								
	14	10. 生体検査/ 生体検査の種類と意義、注意点、 解釈等が理解できる	(1) 生理機能検査 ①循環機能検査(心電図) ②呼吸機能検査 ③神経機能検査(脳波検査) (2) 画像検査 ①超音波検査(心エコー) ②磁気共鳴(MRI)検査 ③サーモグラフィー (3) 内視鏡検査								
	15	試験									
計	15										
評価方法・配点	筆記試験100点										
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床検査								医学書院	¥2,420	
備考											

専門基礎分野	授業科目	総合医療論	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	15	
担当講師	荒川 穰二								
授業概要	社会と共に医療のあり方が大きく変貌している。ここでは医の原点と変遷および現代の医療問題を理解し、「いのち」と「健康」の視点から医療のあり方や生命倫理および医療の中の看護の役割について、考察する能力を養う。								
ねらい	1. 医学の本質を総論的・多面的にとらえ、現代医療の特性、医の倫理、生命の意義を理解する。 2. 医学がどのような社会的期待を担っているのか理解する。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 医療と看護の原点一病と癒し/	(1) 命について考える			講義	荒川		
	2	医療と看護の原点である命、健康、病、癒しについて考えることができる	(2) 健康とは (3) 病の体験 (4) 癒しの行為と癒しの知 (5) チーム医療とマネジメント						
	3	2. 医療の歩みと医療観の変遷/	(1) 現代医学の起源と変遷						
	4	医療、医療観の変遷について理解できる	(2) 20世紀の医療 (3) 医療観のうつりかわり						
	5	3. 私たちの生活と健康/	(1) 生活と環境衛生、医療・保健・福祉行						
	6	健康をとりまく生活環境について理解できる	(2) 疾病の一次予防と健康増進 (3) 少子高齢化社会 (4) ノーマライゼーション・インクルージ (5) 心の健康と精神医療						
	7	4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線 先端医療の現状について理解できる	(1) 科学技術の進歩と社会・生活の変化 (2) 現代医学と先端医療技術の最前線						
	8	5. 現代医療の新たな課題/	(1) 薬の副作用と手術偶発症						
	9	現代医療の課題について理解できる	(2) 医原病 (3) 生命倫理・臨床倫理 (4) 産業社会の発展と地球環境問題 (5) インフォームドコンセント (6) 救命救急処置（モデル人形で気道 確保・人工呼吸心マッサージ、AED）						
	10								演習
	11	6. 医療を見つめなおす新しい視点/	(1) 臨床疫学						
	12	臨床疫学、安全の考え方、システム、情報化と管理などの新しい考え方について理解できる	(2) 患者の安全 (3) 医療の管理と評価 (4) 先端医療開発 (5) 情報化社会と医療						
	13	7. 保健・医療・福祉の潮流/	(1) 医療変革						講義
	14	現代の保健医療福祉の潮流について概要が理解できる	(2) 新時代の保健・医療の担い手 (3) 総合医への期待 (4) 医療におけるケアの視点 (5) 保健・医療の国際化 (6) 地域包括医療システムと地域住民の役						
	15	試験							
計	15								
評価方法・配点	筆記試験100点								
テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論						医学書院	¥2,200	
備考									

専門基礎分野	授業科目	公衆衛生	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	三浦 寛高 ・ 浅利 卓実 ・ 北山 明子 ・ 玉置 真一							
授業概要	看護の対象である個人および集団の生活と健康について、健康を取り巻く環境と関連付けて考え、生涯を通じて健康の維持・増進するための個人・集団・地域への働きかけとしての保健活動について、基礎的知識を学ぶ。							
ねらい	1. 公衆衛生に関連する統計について理解する。 2. 公衆衛生に関連する組織的な保健活動について理解する。 3. オホーツク圏地域の特性について理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1 2	1. 公衆衛生を学ぶにあたって/ 看護学生が公衆衛生を学ぶ意義を理解する 2. 公衆衛生とは/ 公衆衛生のエッセンスを学び、定義、国の責務 活動対象、健康の捉え、歴史から公衆衛生の視点 について知るとともに国際協力活動の概要を 理解する	(1) 公衆衛生の考え方 (2) 公衆衛生の概念 (3) 健康とは (4) 公衆衛生の歴史			講義	三浦	
	3 4	3. 健康と環境、疫学的方法/ 環境と健康について学び、集団検診と疫学の 基本と技法を学ぶ	(1) 現代の健康影響の諸相 (2) 集団の特性 (3) 集団を扱う医学					
	5 6	4. 健康の指標/ 集団の健康水準を測定する尺度について学び、 我が国の健康水準について理解する	(1) 人口問題 (2) 人口動態計 (3) 健康状態と受療状況					
	7 8	5. 感染症とその予防/ 地域における感染症対策について理解する	(1) 感染症とその予防					
	9 10	6. 食品保健と栄養/ 我が国の食品衛生の制度を理解し、課題や 栄養問題について国民的立場から理解する	(1) 食品の安全 (2) 食中毒 (3) 食品衛生管理 (4) 国民の栄養			玉置		
	11 12	7. 生活環境の保全/ 環境と衛生、生活のつながりと環境保全の 大切さを学ぶ	(5) 生活環境の保全 ①いま、地球環境は ②日本の環境保全対策 ③生活環境の安全 ④ごみ・廃棄物の処理 ⑤その他の課題と対策					
	13 14	8. 医療・介護の保障制度/ 住民の健康を守る目的でつくられた様々な 法律、政策・事業・計画などの枠組みについて 学び、わが国の医療保障制度の特色とその仕組み から公衆衛生の仕組みについて理解する	(1) 医療保障 (2) 医療保険 (3) 高齢者医療制度 (4) 公費負担医療 (5) 診療報酬 (6) 国民医療費 (7) 介護保険					
	15 16	9. 地域保健活動（ヘルスサービスの構造）/ ヘルスサービスの構造を知り、看護職の公的 責任と役割、看護職の活動について理解できる また、災害保健について理解することができる	(1) 地域保健法の理念と指針 (2) 医療サービスの供給体制 (3) 保健・医療従事者 (4) 救急医療、災害医療 (5) ヘルスサービスの方向			北山		
	17 18	10. 母子保健/ 我が国の母子保健の現状と課題について 学ぶ	(1) 歴史的経過 (2) 統計からみた母子保健 (3) 母子保健サービスの現状 (4) 母子保健の新たな課題					
	19 20	11. 健康教育とヘルスプロモーション/ 健康教育とヘルスプロモーションの概念 やその取り組みを学ぶ	(1) 健康教育とヘルスプロモーションの定義 (2) ヘルスプロモーションの進め方 (3) 健康教育とヘルスプロモーションの具体例 (4) ヘルスプロモーションの今後の展開					
	21 22	12. 生活習慣病/ 生活習慣病が日本人の最大の死因であること 生活習慣病対策と課題を知る	(1) 生活習慣病の概念と現状 (2) 中・高齢者に多い疾患の予防 (3) 健康づくり施策 (4) 生活習慣改善と健康 (5) 老人保健のあゆみ			浅利		
	23 24	13. 精神保健福祉/ 精神保健福祉の施策やメンタルヘルス など精神保健の新たな課題を知る	(1) 精神医学の歴史 (2) 精神保健医療福祉の法制度の変遷 (3) 近年の精神保健福祉行政 (4) 精神障害者のリハビリテーション (5) 人間発達と精神保健 (6) 精神保健の新たな課題					
	25 26	14. 産業保健/ 働く人々に生じる健康問題と職場における 健康管理のしくみが理解できる	(1) 健康に影響を与える労働環境 (2) 労働による健康障害の状況 (3) 労働衛生管理のしくみ (4) 職業病とその対策 (5) 職業病以外の健康課題 (6) 労働者の健康を増進し、働きやすくする対策					
	27 28	15. 学校保健/ 学校保健の目的としくみが理解できる	(1) 学校保健制度の歩み (2) 学齢期の健康状態 (3) 関係法規と関係団体 (4) 学校保健の対象と 関係職員 (5) 保健教育 (6) 保健管理 (7) 学校における感染症予防 (8) 学校環境衛生 (9) 学校給食 (10) 学校 安全 (11) 要保護児童生徒の医療費補助 (12) 近年の重要施策			北山		
	29	16. 難病対策/ 難病の定義、難病対策を学び、難病法 成立による新たな課題を知る	(1) 対策の歴史 (2) 難病法成立後の基本理念 (3) 定義と指定難病 (4) 医療費助成制度 (5) 小児慢性特定疾病の助成制度 (6) 難病の医療制度 (7) 社会参加支援への施策 (8) 保健所を中心とした地域支援ネットワーク (9) 尊厳をもって生きられる共生社会の実現					
計	30	試験				三浦・北山・玉置・浅利		
評価方法・配点	筆記試験100点（三浦30点・北山45点・玉置15点・浅利10点）							
テキスト	わかりやすい公衆衛生 公衆衛生がみえる2022/2023					ヌーヴェルヒロカワ ¥2,420 メディックメディア ¥3,960		

専門基礎分野	授業科目	臨床心理学	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	白川 純子							
授業概要	心理学で学習した基礎知識をふまえ、人間の心理的発達を知り、人間の行動とところの関連を理解する。演習や事例を通じて、面接やカウンセリングの基本的技法を習得し、自己理解や他者理解を深め、自己の成長や人格形成を図る。また実践において対象の心理を理解した援助・教育ができる能力を養う。							
ねらい	1. 人間の心理や行動を理解し、自己理解・他者理解を深め、よりよい人間関係を作る能力を養う。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 発達/	(1)乳幼児期・児童期			講義/演習	白川	
	2	各発達段階の特徴と心理的発達課題・	(2)青年期					
	3	問題が理解できる	(3)成人期					
	4		(4)老年期					
	5	2. 患者の理解/	(1)行動と認知					
	6	人間の行動と心理に関する理論が理解で	(2)ストレス理論					
	7	きる	(3)主観的統制感と健康					
	8		①学習性無気力					
	9		②自己効力感					
	10		③統制の所在					
	11	3. 人間関係論/	(1)集団・社会・家族					
	12	人間関係構築のために必要な知識が理解	(2)社会的相互作用					
	13	できる	(3)人間関係向上の技術					
	14	4. 看護職者の心理/	(1)看護職者の心理					
	15	看護職者の心理が理解できる	①バーンアウト ②適応					
	16	5. 面接の技法/	(1)面接の目的					
	17	面接の技法の基礎知識を理解できる	(2)基本的技法					
	18		①関わり ②傾聴					
	19		③共感 ④探索					
	20	6. 心理療法/	(1)心理療法の種類と実際					
	21	医療における事例を通して患者の心理	①カウンセリングと心理療法					
	22	について理解できる	②援助のプロセス					
	23		③精神分析的心理療法					
	24		④クライアント中心療法					
	25		⑤行動療法					
	26		⑥交流分析					
			⑦グループアプローチ					
			⑧家族療法					
	27	7. 行動科学/	(1)行動とは何か					
	28	人間の行動変容に関連する基礎的理論が	(2)行動の原因					
	29	理解できる	(3)医療現場での実践					
	30	試験						
計	30							
評価方法・配点	筆記試験70点 講義レポート30点							
テキスト	看護学生のための心理学						医学書院	¥2,640
備考								

専門基礎分野	授業科目	社会福祉学	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	武田 学・金田 さくら・小椋 弘子・山田 宗治・山崎 章							
授業概要	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向をふまえ、医療保障、介護保障、所得保障、公的扶助など社会保障制度の全体像を把握しつつ、医療・看護領域と社会福祉の連携について理解を深める。							
ねらい	1. 社会福祉と医療・社会保障制度の関連、社会資源の活用法を理解する。 2. 社会福祉が生活問題に対応するための社会的施策であることを理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 社会保障制度と社会福祉/ 社会保障の概念や目的、しくみの概要が理解できる	(1) 社会保障制度			講義	武田	
	2		(2) 社会福祉の法制度					
	3	2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向/ 現代社会の変化とそれに伴う社会保障の動向が理解できる	(1) 現代社会の変化					
	4		(2) 社会保障・社会福祉の動向					
	5	3. 医療保障/ 医療保障制度の構造と体系が理解できる	(1) 医療保障制度の沿革				金田	
	6		(2) 医療保障制度の構造と体系					
	7	健康保険と高齢者医療制度、保険医療の仕組みが理解できる	(3) 健康保険と国民健康保険					
	8		(4) 高齢者医療制度					
	9		(5) 保健診療のしくみ				小椋	
	10	4. 介護保障/ 介護保険制度の概要と課題について理解できる	(1) 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史					
	11		(2) 介護保険制度の概要					
	12		(3) 介護保険制度の課題と展望					
	13	5. 所得保障/ 所得保障制度のしくみと種類、特徴が理解できる	(1) 所得保障制度のしくみ				山田	
	14		(2) 年金保険制度					
	15		(3) 社会手当					
	16		(4) 労働保険制度					
	17	6. 公的扶助/ 貧困・低所得問題、生活保護制度の仕組みが理解できる	(1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度				金田	
	18		(2) 生活保護制度のしくみ					
	19		(3) 低所得層対策					
	20		(4) 近年の動向					
	21	7. 社会福祉の分野とサービス/ 社会福祉の種類と施策について理解できる	(1) 高齢者福祉				山崎	
	22		(2) 障害者福祉					
	23		(3) 児童家庭福祉					
	24	8. 社会福祉実践と医療・看護/ 社会福祉援助と援助技術、連携の重要性について理解できる	(1) 社会福祉援助とは					
	25		(2) 個別援助技術（ケースワーク）					
	26		(3) 集団援助技術（グループワーク）					
	27		(4) 間接援助技術と関連援助技術					
	28		(5) 社会福祉援助の検討課題					
	29		(6) 社会福祉実践と医療・看護の連携					
	30	9. 社会福祉の歴史/ 社会福祉の歴史について理解できる	(1) 福祉史の枠組み				武田・山崎	
	31		(2) 福祉史の3段階					
	32		(3) 前近代・近代の救済の諸相					
	33		(4) 現代社会への構造変化と生活支援					
	34		(5) 戦後の社会福祉の再生					
計	30	試験						
評価方法・配点	筆記試験100点（武田60点・山崎40点）							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 健康支援と社会保障制度（3）社会保障・社会福祉 医学書院 ¥2,530 公衆衛生がみえる2022-2023 メディックメディア ¥3,960							
備考								

専門分野	授業科目	基礎看護学概論	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	30	
担当講師	畠山 克子								
授業概要	看護学全般の概念をとらえ、看護の概念と機能を理解する。ここでは保健医療福祉の中での看護の位置づけや倫理について等、基本的なことを学ぶ。								
ねらい	1. 看護の機能とその重要性を認識し、対象である人間を全体的統合体として理解する。 2. 看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を理解する。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 看護とは何か/ 看護の役割や本質について概要が 理解できる	(1) 看護の本質 看護理論・ヘンダーソンの理論			講義	畠山		
	2		(2) 看護の役割と機能						
	3		(3) 看護の連続性と連携						
	4								
	5	2. 看護の対象の理解/ 看護の対象である人間について 理解できる	(1) 人間の「こころ」と「からだ」を知る (2) 生涯発達し続ける存在としての人間の (3) 人間の「暮らし」「環境」の理解						
	6								
	7								
	8	3. 国民の健康状態と生活/ 健康のとらえ方、関連要因、日本国民の 統計的な状態などが理解できる	(1) 健康のとらえ方						
	9								
	10		(2) 国民の健康状態						
	11		(3) 国民のライフサイクル						
	12	4. 看護の提供者/ 看護職について教育、就業、 キャリア、課題が理解できる	(1) 職業としての看護 (2) 看護職の資格・養成制度・就業状 (3) 看護職者の継続教育とキャリア開 (4) 看護職の養成制度の課題						
	13								
	14								
	15	6. 看護の提供のしくみ/ 看護の提供のしくみが理解できる	(1) サービスとしての看護 (2) 看護サービス提供の場 (3) 看護をめぐる制度と政策 (4) 看護サービスの管理 (5) 医療安全と医療の質保障						
	16								
	17								
	18								
	19								
	20								
	21	7. 広がる看護の活動領域 看護の活動領域について理解できる	(1) 国際化と看護						
	22								
	23		(2) 災害時における看護						
	24								
	25	5. 看護における倫理/ 看護における倫理について整理できる	(1) 現代社会と倫理 (2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護 (3) 看護実践における倫理問題への取り組						
	26								
	27								
	28								
	29								
	30	試験							
計	30								
評価方法・配点	筆記試験 100点								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】看護学概論						医学書院	¥2,640	
	公衆衛生がみえる2022/2023						メディックメディア	¥3,960	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目								

専門分野	授業科目	看護倫理	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	15
担当講師	秋山 聡美							
授業概要	倫理学の基本的な考えを学び、生命倫理、医療倫理、看護倫理の基礎、倫理的問題への実践的なアプローチ、事例分析など自分の問題として考えられるよう取り組む。							
ねらい	1. 倫理に関する基本的な知識が身につく。 2. 倫理的看護実践ができるための素地を養う。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 倫理学の基本的な考え方/ 倫理を学ぶ意義、理論の概要について理解できる	(1)なぜ倫理を学ぶのか (2)倫理とは何か			講義	秋山	
	2	2. 生命倫理/ 生命倫理の指針、4原則、その他言葉の定義が理解できる	①生命倫理とは ②生命倫理の4原則 ③インフォームドコンセント ④守秘義務・個人情報保護					
	3	3. 生殖の生命倫理/ 優性思想、人工妊娠中絶等の生命倫理について理解できる	(1)優性思想 (2)人工妊娠中絶 (3)出生前診断 (4)生殖補助技術 (5)新生児医療			講義 演習		
	4							
	5	4. 死の生命倫理/ 死に関わる領域についての生命倫理について理解できる	(1)死の準備教育(2)終末期ケア (3)安楽死・尊厳死(4)脳死・移植医療			講義 演習		
	6							
	7	5. 先端医療と制度をめぐる生命倫理/ 遺伝子診断・遺伝子治療、医療資源の配分の生命倫理について理解できる	(1)遺伝子診断・治療 (2)医療資源の配分			講義 演習		
	8							
	9	6. 看護倫理とは何か/ 看護実践における重要な倫理的概念が理解できる	(1)看護倫理の意義・歴史(2)看護の倫理原則 (3)看護実践上の倫理的概念(4)看護実践と倫理			講義 演習		
	10							
	11	7. 専門職の倫理/ 専門職になぜ倫理が求められるのか考えることができる	(1)社会からみた看護(2)専門職に求められる (3)専門職の倫理綱領(4)看護業務基準、保助看法			講義 演習		
	12							
	13	8. 倫理的問題へのアプローチ/ 看護実践における倫理的問題の特徴が理解できる	(1)看護実践における倫理的問題の特徴 (2)倫理的問題へのアプローチ			講義 演習		
	14	倫理的問題を議論するための基本ルールが理解できる 倫理問題に対するアプローチ方法について理解できる	①倫理的問題を議論するための基本ルール ②倫理的問題へのアプローチ法					
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	筆記試験70点+グループワーク記録30点							
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理					医学書院	¥1,980	
	よくわかる看護者の倫理綱領					照林社	¥880	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野	授業科目	人間関係形成技術	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	南 里江子 ・ 小山田 理恵							
授業概要	看護の対象となる人々の健康上のニーズを的確に把握し看護実践につなげるための、コミュニケーション技術、健康支援技術、および看護記録の基礎について演習を通して習得する。看護職者としての人間関係形成のための基本的態度・技術を学ぶ。							
ねらい	1. コミュニケーションの概念と意義を理解し、人間関係成立の基本的技法を習得する。 2. 看護の対象者への学習支援の意義と方法を理解する。 3. 看護における記録と報告の意義を理解し、基礎的知識を習得する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 看護技術を学ぶにあたって/ 看護技術の特徴と修得の必要性を理解できる	(1)技術とは何か			講義・演習	南	
	2		(2)看護技術の特徴と範囲 (3)看護技術実践のための要素 (4)看護技術の発展と修得のために					
	3	2. 人間関係を成立・発展させるための技術/ 医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、コミュニケーションの基本的な方法を身につける	(1)コミュニケーションの意義と目的			講義・演習		
	4		①コミュニケーションとは					
	5		②医療におけるコミュニケーション					
	6		(2)コミュニケーションの構成要素と成立過程					
	7		①コミュニケーション手段					
	8		②構成要素と成立過程					
	9		(3)関係構築のためのコミュニケーションの基本					
	10		①接近的行動と非接近的行動					
	11		(4)効果的なコミュニケーションの実際					
	12		①傾聴②情報収集③説明					
	13	④アサーティブネス						
	14	(5)プロセスレコード						
	15	①再構成する場面の決定						
	16	②場面の再構成 ③行動の分析・考察						
	17	3. コミュニケーション障害のある人への対応/ 各障害の特徴的な対応の方法を理解する	④演習 ・ 質問 ・ プロセスレコード					
	18		①コミュニケーションに障害がある人の特徴と身体機能 ②障害別対応					
	19	4. 看護記録・報告 看護記録の意義と基礎知識、観察・報告を学習し、実践のための基礎を身につける	(1)看護記録とは			講義・演習	小山田	
	20		(2)記載・管理における留意点					
	21		(3)看護記録の構成					
	22		(4)観察・報告の意義と方法					
	23		(5)個人情報保護					
	24		(6)SOAP					
	25		SOAPの記載方法					
	26							
	27		(7)サマリー					
	28		サマリーの記載方法					
	29							
	30	試験			南・小山田			
計	30							
評価方法・配点	南 60点/小山田40点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I						¥2,970	
	仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス						¥3,080	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野	授業科目	フィジカルアセスメント	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	八重樫 明子・山口 佳子							
授業概要	アセスメントの根拠となる対象の身体状況全体を客観的かつ系統的に把握する方法を学習し、看護実践できる基礎的能力を養う。							
ねらい	1. ヘルスアセスメントの目的を理解し、対象の全体をみるための方法がわかる。 2. フィジカルアセスメントの基本的技術を用いて器官別・系統別アセスメントができる。 3. 解剖生理の知識をふまえ、根拠をもったフィジカルアセスメントがわかる。 4. 対象の安全・安楽・自立性をふまえ、対象を尊重しプライバシーを配慮した援助の方法がわかる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. ヘルスアセスメントの意義と目的/ 看護におけるヘルスアセスメントの目的、 意義、必要とされる技術を理解できる	(1) ヘルスアセスメントの意義 と目的			講義	八重樫	
	2		(2) フィジカルアセスメントとは (3) ヘルスアセスメントに必要な 技術 ・フィジカルイグザミネーション 技術 (4) フィジカルイグザミネーション 技術の演習					
	3	2. 全体の概観/ 対象の全体をみるための視点がわかり、 方法を習得することができる	(1) 全身状態・全体印象の把握			講義	八重樫	
	4		(2) 健康歴の聴取					
	5		(3) バイタルサインの観察と アセスメント					
	6		(4) 計測の意義と目的・方法、 評価方法					
	7		(5) 小演習（呼吸・脈拍・血圧・ 経皮的動脈血酸素飽和度）					
	8		(6) 技術試験：バイタルサイン測定 ・体温・脈拍・呼吸・血圧					
	9	3. 器官系別・系統別アセスメント/ フィジカルアセスメントの基本的技術と 器官系別・系統別のアセスメントのため に必要な知識・技術を習得することがで きる	(1) 呼吸器系のフィジカル アセスメント			講義	山口	
	10		・呼吸器系のフィジカル イグザミネーション			演習		
	11		(2) 心臓・循環器系のフィジ カルアセスメント			講義		
	12		・心臓・循環器系のフィジ カルイグザミネーション			演習		
	13		(3) リンパ系・外皮系のフィジ カルアセスメント			講義		
	14		・リンパ系・外皮系のフィジ カルイグザミネーション			演習		
	15		(4) 腹部・消化器系のフィジ カルアセスメント			講義		
	16		・腹部・消化器系のフィジ カルイグザミネーション			演習		
	17		(5) 神経系・感覚・知覚機能 のフィジカルアセスメント			講義		
	18		・筋・骨格系・神経系・感覚 知覚機能のフィジカルイグ ザミネーション			講義		
	19					演習		
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27	4. 事例患者のフィジカルアセスメント/ 事例患者について推論し、状況判断に必要 なフィジカルイグザミネーションを考 えることができる	(6) まとめのGW演習			GW	八重樫	
	28		・大腸がん術後、再入院の患者 へのフィジカルアセスメント					
	29							
	30	試験					山口・八重樫	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験50点／技術試験50点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ vol.1基礎看護技術：根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術/照林社 <新体系看護学全書>準拠 基礎看護学まとめノート 第2巻 基礎看護技術Ⅰ/メヂカルフレンド社							医学書院 ¥2,970
備考								

分野	専門分野					
授業科目	看護過程					
時期・単位	学年（開講時期）	1年（期）	単位（時間数）	1（30）		
担当講師	小山田 理恵					
授業概要	看護の目的を達成するための基礎的理論（ヘンダーソンの理論）を学び、対象を視る視点を養う。また、人に正しく状況を伝えるための表現や記載について学ぶ。ここでは事例を通して看護実践のための思考過程を学習し、具体的な援助を考える一連の過程を学ぶ。					
到達目標	1. 看護実践のための思考過程が理解できる。 2. 具体的な援助を考えるためのツールについて理解できる。					
授業計画	時間	学習内容	提出レポート	形態		担当
	1. 2	1. 看護過程の概念及び定義	問題解決過程レポート：5点	講義		小山田
	3. 4	2. 思考の訓練 自分自身の日常生活の場面の記載	思考訓練レポ：5点	講義/ 演習		
	5. 6	グループワーク		講義/ 演習		
	7. 8	3. ヘンダーソンの看護過程の構成要素		講義/ 演習		
	9. 10	ヘンダーソンの14項目について	自己の14項目：15点	講義/ 演習		
	11. 12	4. 紙上事例の展開 (1) 事例紹介 (2) 病理的状態の学習の仕方について	病理的状態10点	講義/ 演習		
	13. 14	(3) 常在条件の考え方について	全体像：10点	講義/ 演習		
	15. 16	(4) 基本的欲求14項目情報の整理	常在条件：5点	講義/ 演習		
	17. 18	(5) 基本的欲求14項目の充足未充足の考え方	基本的欲求アセス：14点	講義/ 演習		
	19. 20	(6) 行動計画立案	行動計画：10点	講義/ 演習		
	21. 22	(7) 基本的欲求14項目のアセスメント		講義/ 演習		
	23. 24	(8) 病理的状態フィードバック		講義/ 演習		
	25. 26	(9) リストアップ		講義/ 演習		
	27. 28	5. 実習での受持ち患者 リストアップ	リストアップ10点	講義/ 演習		
	29. 30	看護計画	看護計画：10点 関連図：6点	講義/ 演習		
試験	/					
評価方法・配点	演習レポート100点					
テキスト	看護の基本となるもの 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 第4版 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント		日本看護協会出版会 医学書院 ヌーヴェルヒロカワ ヌーヴェルヒロカワ 学研	¥1,200 ¥2,970 ¥2,200 ¥1,100 ¥5,060		
備考	※実務経験のある教員等による授業科目					

専門分野	授業科目	清潔衣生活援助技術	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	30	
担当講師	硯見 由江								
授業概要	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために日常生活援助の清潔・整容・衣生活を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。								
ねらい	1. 療養生活時の清潔と整容・衣生活援助について理解できる。								
時間数	単元名/単元目標	学習内容	授業形態	担当					
1	1. 清潔・衣生活援助技術/	(1) 清潔の援助	講義	硯見					
2	皮膚粘膜の構造と機能、清潔援助の効果と全身への影響が理解できる	①清潔の援助の基礎知識（皮膚粘膜構造、清潔援助効果等） ②清潔の援助の実際（入浴・シャワー浴、全身清拭、洗髪等）	演習						
3	清潔援助の方法選択の視点を理解し、基礎知識と実際が理解できる	(2) 病床での衣生活の援助							
4	病床での衣生活の基礎知識、援助の実際が理解できる	①援助の基礎知識（衣服の意義、熱産生と熱放散） ②援助の実際（病衣の選び方、病衣の交換）							
5	患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	(3) 演習 19歳女性骨折患者の事例による演習							
6	清拭援助を通して患者の観察ができる	・全身清拭							
7	洗髪援助を通して患者の観察ができる	・洗髪、整容							
8	口腔ケアを通して患者の観察ができる	・陰部洗浄・おむつ交換							
9	意識障害のない患者の口腔ケアができる	・口腔ケア、患者の病態・機能に合わせた口腔ケア							
10	患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	・ひげそり・爪切りのケアについて							
11	患者が身嗜みを整えるための援助ができる	・シャワー浴・入浴のケア							
12	臥床患者の寝衣交換・リネン交換・清拭・洗髪ができる	・手浴・足浴							
13	患者が身嗜みを整えるための援助ができる								
14	臥床患者の寝衣交換・リネン交換・清拭・洗髪ができる	・臥床、輸液ラインの入った患者の寝衣交換・清拭・洗髪							
15	持続静脈内点滴実施中の患者の寝衣交換ができる								
16	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中								
17	後の観察ができる・入浴の介助ができる								
18	陰部の清潔保持の援助ができる								
19	臥床患者の寝衣交換・リネン交換・清拭・洗髪								
20	持続静脈内点滴実施中の患者の寝衣交換								
21									
22									
23		(4) 技術試験							
24		・清拭、洗髪、口腔ケア、陰部洗浄、おむつ交換、寝衣交換、整容							
25									
26									
27									
28									
29									
30	試験（筆記試験）								
計	30								
評価方法・配点	筆記・小テスト50点／技術・演習レポート（50点）								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護学技術Ⅱ							医学書院	¥3,190
	vol.1 基礎看護技術：根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術/照林社								
	<新体系看護学全書> 準拠 基礎看護学まとめノート 第3巻 基礎看護技術Ⅱ/メヂカルフレンド社								
備考	※実務経験のある教員等による授業科目								

専門分野	授業科目	活動休息-環境-食事援助技術	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	島山 克子 ・ 硯見 由江 ・ 奥泉 輝朗							
授業概要	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために生活環境・療養環境・日常生活の食事・活動と休息を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。							
ねらい	1. 療養生活の環境調整について理解できる 2. 人間にとっての「栄養と食事」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。 3. 人間にとっての「活動・休息」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 環境調整技術/ 療養生活の環境を構成する要素が理解できる	(1) 援助の基礎知識 ①療養生活 ②病室の環境のアセスメントと調整			講義	硯見	
	2		(2) 援助の実際 ①ベッド周囲の環境整備②病床を整える			演習		
	3		③事例を用いた療養環境のアセスメント					
	4		(3) 演習					
	5	患者にとって快適な病床環境をつくることができる	ベッド周囲の環境整備、患者の機能行動特性に合わせた療養環境、ベッドメーカー、臥床患者のリネン交換					
	6	基本的なベッドメーカー						
	7							
	8							
	9	1. 食事援助技術/ 人間にとっての栄養の意義がわかる 栄養に対する援助に必要なアセスメントがわかる	(1) 食事の意義 (生物学・精神・社会・文化的意義) (2) 栄養と食における看護の役割 (3) 食事の基礎知識				講義	奥泉
	10	対象に応じた栄養の基本的援助を根拠に基づいてわかる	①栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメント (水分・電解質バランス、食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント含む) ②医療施設で提供される食事			演習		
	11	食事に対する援助を安全・安楽に配慮し実施できる	(4) 食事介助①援助の基礎知識②援助の実際					
	12	栄養に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気づき、	(5) 演習 セッティング、食事姿勢を整える、補助具や自助具の使用、食事動作、食事介助、食事指導					
	13	自尊心を傷つけない援助について考えることができる						
	14							
	15							
	16	1. 活動・休息援助技術	A. 基本活動の援助				講義	
	17	(1) 健康の充実・維持増進のために「活動・休息」の必要性や意義がわかる	1. 基本活動の基礎知識				演習	島山
	18		(1) 良い姿勢 (2) ボディメカニクス					
	19	(2) 安全・安楽な体位変換や安静保持の援助方法がわかる	2. 体位・体位保持ポジショニング					
	20		3. 移動 (体位変換・歩行・移乗・移送)					
	21	(3) 体位変換や安静保持のための援助を安全・安楽に配慮して行うことができる	(1) 体位変換 (2) 歩行 (3) 移乗・移送					
	22		(4) ストレッチャー移送					
	23	(4) 安全・安楽な移動の援助方法がわかる	4. 演習					
	24	(5) 移動の援助を安全・安楽に配慮して行うことができる	(1) 体位変換 (2) 歩行 (3) 移乗・移送					
	25		(4) ストレッチャー移送					
	26	(6) 睡眠と睡眠障害について理解し睡眠に	B. 睡眠・休息の援助			講義		
	27	障害をもつ患者への具体的な援助を学ぶ	1. 援助の基礎知識 2. 睡眠・休息の援助					
	28	2. 苦痛の緩和・安楽確保の技術	1. 苦痛緩和・精神的安寧のケア			講義 演習		
	29	(1) 身体ケアを通じてもたらさせる安楽	2. リラクゼーション法、熱布バックケア					
	30	試験				島山・硯見・奥泉		
計	30							
評価方法・配点	島山 (筆記25点・レポート25点)、硯見 (筆記15点・技術15点)、奥泉 (筆記10点・演習10点)							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ						医学書院	¥2,970
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ						医学書院	¥3,190
	vol.1 基礎看護技術：根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術/照林社							
	<新体系看護学全書> 準拠 基礎看護学まとめノート 第3巻 基礎看護技術Ⅱ/メヂカルフレンド社							
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野	授業科目	感染防止・排泄援助技術	開講時期	1年	単位	1	時間数	30	
担当講師	南 里江子 ・ 松野 絢								
授業概要	健康の維持・回復のために感染防止についてと排泄を整える看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。								
ねらい	1. 感染防止の援助について理解できる。 2. 人間にとっての「排泄」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 感染防止の技術/ スタンダードプリコーションに基づく手洗いが実施できる 無菌操作が確実にできる 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン）の装着ができる 使用した器具の感染防止の取り扱いができる 感染性廃棄物の取り扱いができる	(1) 感染防止の基礎知識			講義	南		
	2		(2) 標準予防策（スタンダードプリコーション） 手指衛生の演習			演習			
	3		(2) 標準予防策（スタンダードプリコーション） 個人防護用具 マスク・ガウン・手袋			講義			
	4		(3) 感染経路別予防策			演習			
	5		(4) 洗浄・消毒・滅菌			講義			
	6		(5) 無菌操作			演習			
	7		技術試験 ・手洗い、防護用具の装着 ・無菌操作 ・感染性廃棄物の取り扱い			試験			
	8								
	9					(6) 感染性廃棄物の取り扱い (7) 針刺し事故防止 (8) 医療施設による感染管理			講義
	1	2. 排泄援助技術/ 人間にとっての排泄の意義がわかる 排泄の援助に必要なアセスメントがわかる 対象に応じた排泄の基本的援助を根拠に基づいてわかる 排泄に対する援助を安全・安楽に配慮して実施できる 排泄に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気づき、自尊心を傷つけない援助について考えることができる	(1) 自然排尿及び自然排便の介助 ①基礎知識			講義	松野		
	2					講義			
	3					講義			
	4					講義			
	5					講義			
	6		②介助の実際 ・（ポータブル）トイレ ・床上 ・おむつ			講義・演習			
	7					講義・演習			
	8					講義・演習			
	9					講義・演習			
	10					講義・演習			
	11		(2) 導尿			講義・演習			
	12		①一時的導尿			講義			
	13		②持続的導尿			演習			
	14				講義・演習				
	15	(3) 排便を促す援助			講義				
	16	①浣腸			演習				
	17	②摘便			講義・演習				
	18				講義				
	19	(4) 実技試験：床上排泄			技術試験				
	20				技術試験				
	30	試験（筆記試験）				南・松野			
計	30								
評価方法・配点	筆記50点／技術50点 ： 感染40点（技術20点+筆記20点）、排泄60点（技術30点+筆記30点）								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ					医学書院	¥2,970		
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ					医学書院	¥3,190		
	vol.1基礎看護技術：根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術/照林社								
	<新体系看護学全書>準拠 基礎看護学まとめノート 第3巻 基礎看護技術Ⅱ/メヂカルフレンド社								
備考	※実務経験のある教員等による授業科目								

専門分野	授業科目	生体維持援助技術	開講時期	2年前期	単位	1	時間数	30
担当講師	羽場 尚也・硯見 由江・加藤 あずさ							
授業概要	健康の維持・回復のために呼吸・循環を整える必要性、創傷の管理について、救命救急の処置技術について理解し、看護の役割を学ぶ。							
ねらい	1.呼吸と循環を整える目的や方法が理解できる。 2.創傷管理の概要が理解できる。 3.心肺蘇生など急変時の救急対応が理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1.呼吸・循環を整える技術/ 酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる 酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる モデル人形で口腔内・鼻腔内・気管内吸引が実施できる・気管内吸引時の観察点がわかる 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる 人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる 循環機能のアセスメントの視点や末梢循環促進についてわかる 酸素吸入療法が実施できる 気道内加温ができる モデル人形または学生間で体位ドレナージを理解できる 酸素ポンベの操作ができる	(1)酸素吸入療法 (2)吸引 (3)排痰ケア (4)吸入 (5)人工呼吸療法 (6)体温管理の技術 (7)低圧持続吸引器 (8)循環機能のアセスメント・末梢循環促進ケア (9)体位ドレナージ・排痰ケア (10)演習 ・酸素ポンベ操作・酸素吸入・気道内加温 ネブライザー ・モデル人形での口腔内・鼻腔内・気管内吸引 ・末梢循環促進のケア、マッサージ ・体温調節の援助			講義	加藤	
	2							
	3							
	4							
	5							
	6					演習		
	7							
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16	2.創傷管理技術/ 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる 患者の創傷の観察ができる 創傷処置のための無菌操作ができる (ドレイン類の挿入部の処置を含む) 学生間で基本的な包帯法が実施できる	(1)創傷のある患者への看護技術 ①創傷管理の基礎知識 ②創洗浄、創保護 ④包帯法 ③無菌操作による創処置 ④ドレイン類の挿入部の処置			講義	硯見	
	17					演習		
	18							
	19							
	20					演習		
	21							
	22	3.救命救急処置技術/ 救急対応の考え方、急変時における初期対応の流れ、 トリアージについて理解できる 患者の意識状態を観察できる・意識レベルの把握方法がわかる モデル人形で気道確保・人工呼吸・閉鎖式心マッサージが正しく理解できる 除細動の原理がわかり、モデル人形にAEDについて理解できる 止血法の原理がわかる 急性中毒・熱中症・感染症への対処や外傷・熱傷 骨折の救急処置がわかる 緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	(1)救命救急処置の基礎知識 ①救急対応の考え方 ②急変時における 初期対応 ③トリアージ (2)心肺蘇生法 ・気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED (3)止血法 (4)急性中毒・熱中症・感染症への対処 (5)外傷・熱傷・凍傷・骨折の救急処置 (6)院内急変時の対応 ・気づき、臨床判断のポイント			講義	羽場	
	23							
	24							
	25							
	26					演習		
	27							
	28							
	29							
	30							
	計	29				羽場・硯見・加藤		
評価方法・配点	呼吸50点（演習記録10点・筆記40点）		創傷30点	救急20点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ					医学書院	¥3,190	
	新訂版写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス					インターメディカ	¥4,290	
備考								

専門分野	授業科目	与薬援助技術	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	小山田 理恵 ・ 奥泉 輝朗							
授業概要	健康の回復のために必要な与薬の援助が安全・安楽・正確に実践できる知識と技術を学ぶ。ここでは、安全の確保についても学び、医療事故を起こさないための知識を身につける。							
ねらい	1. 与薬の援助に必要な知識を理解し、安全・安楽・正確な与薬の技術を習得できる。 2. 与薬における患者の安全確保の知識・技術、看護師の抗がん剤曝露防止の知識が理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当
	1	1. 与薬の基礎知識/ 薬物の剤形と特徴、管理方法、与薬における看護師の役割を理解できる	(1) 薬物の剤形と吸収経路 (2) 看護師の役割				講義	小山田
	2	2. 与薬の援助/ 安全・安楽・正確な与薬の援助に必要な知識・技術を習得する	(1) 経口与薬・吸入・点眼の基礎知識 ①技術の概要 ②目的・適応・禁忌				講義	
	3		(2) 援助の実際 ①実施前評価 ②必要物品・患者への説明 ③実施方法 ④実施後の評価				講義	
	4	5 6	(3) 点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の基礎知識 ①技術の概要 ②目的・適応・禁忌				講義	
	5		(4) 援助の実際 ①実施前評価 ②必要物品・患者への説明 ③実施方法 ④実施後の評価				講義	
	6	7 8 9 10	(5) 演習 ①経口与薬・吸入・点眼・経皮的与薬・直腸内与薬				演習	
	7		11 12 13 14 15 16 17 18 19	(6) 注射 ①注射の基礎知識 ②注射の実施法 ③輸血管理 ④薬剤等の管理・曝露予防対策 ⑤針刺し事故の防止と事故後の対処 ⑥患者誤認 ⑦カテーテル関連血流感染				
	8	20 21 22 23		(7) 演習 ①皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射（点滴静脈内注射） 三方活栓				
	9		24 25 26 27	(9) 経管栄養法の基礎知識、援助方法 援助後の評価 (10) 経管栄養法の演習 (脳梗塞の患者の事例による演習) モデル人形で経鼻胃管挿入・確認 ・流動食の注入・管理				
	10	28 29 30		試験				
計	30							
評価方法・配点	筆記試験100点(奥泉20点、小山田80点)							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ						医学書院	¥3,190
	新訂版写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス						インターメディカ	¥4,290
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

分野	専門分野					
授業科目	地域・在宅看護論概論Ⅰ					
時期・単位	学年（開講時期）	1年（前期）	単位（時間数）	1（15）		
担当講師	奥泉 輝朗・江頭 真由美					
授業概要	看護の対象について日々暮らしを営んでいる生活者として理解し、暮らしと健康の関係について学ぶ。 人々の暮らしを多角的・学問的に理解し、そのうえで地域・在宅看護の意味、地域在宅看護が重視される社会的背景、地域在宅看護とはどんなことか、役割を理解する。					
到達目標	1. 暮らしと健康の関係について理解できる。 2. 地域の特性について整理し、「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」の具体的なイメージがもてる。 3. 看護の対象者の各ライフステージの特徴や多様性、さまざまな健康レベルにあることが理解できる。					
授業計画			学習内容	形態	担当	
	1		序章：地域の中での暮らしと健康・看護	講義	奥泉	
	2		第1章：人々の暮らしと地域・在宅看護 A 人々の暮らしの理解、B 在宅看護の役割	講義		
	3.4		演習）暮らしを理解する	講義		
	5.6		第2章：暮らしの基盤としての地域の理解 A 暮らしと地域、B 暮らしと地域を理解するための考え方	講義	江頭	
	7.8		C 地域包括ケアシステムと地域共生社会 地域を理解するフィールドワークについて	講義		
	9		グループワーク、まとめ、発表	GW		
	10		第3章：地域・在宅看護の対象 A 地域・在宅看護の対象者	講義		
	11		B 家族の理解	講義		
	12		C 地域に暮らす対象者の理解と看護	講義		
	13.14		演習）家族を理解する	演習		
試験	15		筆記試験		奥泉・江頭	
評価方法・配点	筆記試験 50点 演習レポート 50点					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院 ¥2,200					
備考						

分野	専門分野				
授業科目	地域・在宅看護論概論Ⅱ				
時期・単位	学年（開講時期）	2年（前期）	単位（時間数）	1（15）	
担当講師	秋山 聡美				
授業概要	地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズ、各ライフステージにある人々の特徴、ライフステージに応じた看護の役割が理解できる。 2. 暮らしの中のリスク、災害対策について理解できる。 				
授業計画	時間		学習内容	形態	担当
	1.2		第4章：地域における暮らしを支える看護 A 暮らしを支える地域・在宅看護 グループワーク		秋山
	3.4		B 暮らしの環境を整える看護 グループワーク		
	5.6		C 広がる看護の対象と提供方法 グループワーク		
	7.8		D 地域における家族への看護 グループワーク		
	9.10		E 地域におけるライフステージに応じた看護 グループワーク		
	11.12		F 地域での暮らしにおけるリスクの理解 グループワーク		
	13.14		G 地域での暮らしにおける災害対策、グループワーク		
試験	15		筆記試験		秋山
評価方法・配点	グループワーク 50%+筆記試験 50%				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤			医学書院 ¥2,200	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目				

分野	専門分野				
授業科目	地域・在宅看護論概論Ⅲ				
時期・単位	学年（開講時期）	2年（期）	単位（時間数）	1（30）	
担当講師	小滝 由香・保川 香奈・阿部 久美子				
授業概要	地域包括ケアシステムの意義と概念、基盤となる法・制度・施策とともに、制度や法律が社会的背景の変化に伴い、改正されていることを理解する。地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズ、各ライフステージにある人々の特徴、ライフステージに応じた看護の役割が理解できる。 2. 暮らしの中のリスク、災害対策、地域在宅看護の実践の場と連携について理解できる。 3. 地域・在宅看護過程の特徴、各段階におけるポイントが理解できる。 				
授業計画	時間	学習内容		形態	担当
	1. 2	地域在宅看護の基盤；第5章：地域在宅看護実践の場と連携 A 様々な場、様々な職種で支える地域での暮らし B おもな地域在宅看護実践の			小滝
3. 4	1 住まいで提供される看護、2 通所サービス、3 短期入所サービス 4 通所・短期入所・訪問看護の組み合わせ、5. 施設サービス				
5. 6	6. 医療機関で提供される看護① 外来患者の看護 、②入院患者、③療養の場の移行期、7. 地域の中で提供される看護				
7. 8	C 地域・在宅看護における多職種連携 グループワーク：多職種との連携・協働を考える			保川	
9. 10	第6章：地域在宅看護にかかわる制度とその活用 A 介護保険・医療保険制度、B 地域・在宅看護の医療提供体制				
11. 12	C 訪問看護の制度				
13-14	D 地域保健にかかわる法制度 E 高齢者に関する法制度				
15	F 障害者・難病に関する法制度 G 公費負担医療に関する法制度 H 権利保障に関連する制度 国家試験対策			阿部	
16. 17	地域・在宅看護の実践 序章 A 療養者と家族の想いから始まる看護 B 様々な人たちが力を合わせる C 長期的なかかわりが必要になる				
18. 19	グループワーク				
20. 21	第1章：地域・在宅看護の展開 A 地域・在宅看護における看護過程 1 看護過程とその意義、2 地域在宅看護における看護過程の基本				
22. 23	3 地域・在宅看護における看護過程の展開				
24. 25	B 地域・在宅看護過程の展開方法 1 地域・在宅看護過程の特徴 2 情報収集とアセスメント				
26. 27	3 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画、4 実施と評価、5 看護を発展させる視点、6 地域在宅の標準化にむけた取り組み				
28. 29	まとめ				
試験	30	筆記試験			
評価方法・配点	小滝先生 25点+保川先生 25点+阿部先生 50点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ		医学書院 ¥2,200 医学書院 ¥2,970		
備考					

分野	専門分野				
授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅰ				
時期・単位	学年（開講時期）	2年（後期）	単位（時間数）	1（30）	
担当講師	奥泉 輝朗・佐藤 真由美				
授業概要	「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションから始まり、対象者の希望する暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護に必要な看護技術、安全対策、事故防止の知識などを学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションについて理解できる。 「暮らしの場」で看護を行うために必要な安全対策・事故防止・看護技術について理解できる。 				
授業計画	時間	学習内容	形態	担当	
	1. 2	地域・在宅看護の実践 第2章暮らしを支える看護技術 A 暮らしの場で看護をするための心構え		奥泉	
	3. 4	B セルフケアを支える対話・コミュニケーション C 地域・在宅看護における家族を支える看護			
	5-7	D 地域・在宅看護における安全を守る看護 1 暮らしを取り巻くリスクと安全対策、2 リスクマネジメント、3 看護師への暴力ハラスメント		佐藤	
	8. 9	E 地域における暮らしを支える看護実践 1 療養環境調整		奥泉	
	10. 11	2 活動・休息			
	12. 13	3 食生活・嚥下 経口摂取		佐藤	
	14. 15	経管栄養・在宅中心静脈栄養法（HPN）			
	16. 17	4 排泄			
	18. 19				
	20. 21	5 清潔・衣生活			
	22. 23	6 苦痛緩和・安楽確保 7 呼吸・循環			
	24. 25	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者への援助			
	26. 27	8 創傷管理			
	28. 29	9 与薬		奥泉	
試験	30	1	筆記試験		奥泉、佐藤
評価方法・配点	奥泉 35点+佐藤 65点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕	地域・在宅看護の基盤	医学書院	¥2,200	
	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕	地域・在宅看護の実践	医学書院	¥2,750	
備考					

分野	専門分野				
授業科目	53. 地域・在宅看護論援助論Ⅱ				
時期・単位	学年（開講時期）	2年（期）	単位（時間数）	1（30）	
担当講師	硯見 由江・田中 千鶴・澁谷 順子				
授業概要	外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を学ぶ。				
到達目標	1. 外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までの様々な時期の地域・在宅看護について理解できる。 2. 地域・在宅看護がロングタームケアであることを理解できる。 3. グループワークで事例展開をすることにより、具体的にポイントが理解できる。				
授業計画			学習内容	形態	担当
	1. 2		基礎看護学技術Ⅰ 第6章：学習支援 A 看護における学習支援 B 健康に生きることを支える学習支援 C 健康状態の変化に伴う学習支援		硯見
	3. 4		D 学習支援の実際 グループワーク：集団学習支援（糖尿病教室、喘息…）		
	5. 6		グループワーク発表		
	7. 8		地域在宅看護の実践 第3章：地域・在宅における時期別の看護 A 健康な時期の看護、B 外来受診期における看護、C 入院時の看護		澁谷
	9. 10		D 在宅療養準備期（退院前）の看護、E 在宅療養移行期の看護 F 在宅療養安定期、G 急性増悪期、H 終末期、I 在宅療養終了期		
	11. 12		第4章：地域・在宅看護の事例展開 A 事例を学ぶにあたって		
	13. 14		B 医療的ケア児	演習	田中
	15. 16		C 脳卒中療養者	演習	澁谷
	17. 18		D 慢性閉塞性肺疾患	演習	
	19. 20		E 筋委縮性側索硬化症	演習	
	21. 22		F パーキンソン病	演習	田中
	23. 24		G 統合失調症	演習	
	25. 26		H 認知症	演習	
	27. 28		I がん終末期	演習	澁谷
	29		まとめ		
試験	30		筆記試験		
評価方法・配点	筆記試験 100点（硯見 20点 +澁谷 65点 +田中 15点）				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		医学書院 ￥2,700 医学書院 ￥2,200 医学書院 ￥2,750		
備考					

分野	専門分野			
授業科目	成人看護学概論			
時期・単位	学年（開講時期）	1年（期）	単位（時間数）	1（30）
担当講師	加藤 あずさ			
授業概要	成人期の成長発達の特徴や健康問題について理解する。対象の援助に必要な概念・理論について学習し、成人期にある人々を統合的に理解できる基礎的能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の概念とその対象について統合的に理解できる。 2. 成人期にある対象を取り巻く環境と保健医療福祉政策について理解できる。 3. 成人期にある対象の健康と健康課題を学び、さまざまな健康状態に応じた看護の役割を理解する。 4. 経過別看護の概要が理解できる。 			
授業計画		学習内容	形態	担当
	1. 2	1. 成人と生活 1) 対象の理解: 生涯発達、各発達段階の特徴 2) 対象の生活	講義	加藤
	3. 4	2. 生活と健康 1) 成人を取り巻く環境 2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義	
	5. 6	2-3) 成人の生活と健康についてグループワーク ※青年期・壮年期・向老期の特徴・発達課題・生活・健康	GW	
	7. 8	3 成人への看護アプローチの基本 1) 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 症状マネジメント 3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 4) 集団における調和や変化を促す看護アプローチ	講義	
	9. 10	3-5) チームアプローチ 6) 看護におけるマネジメント 7) 看護実践における倫理的判断 8) 意思決定支援 9) 家族支援	講義	
	11. 12	4. ヘルスプロモーションと看護 5. 健康をおびやかす要因と看護 6. 経過別看護：健康状態の経過に基づく看護 1) 健康状態と看護 2) 健康の維持・増進を目指す時期の看護	講義	
	13. 14	7. 経過別看護/各期の特徴と看護について演習 1) グループワーク 1 回目	GW	
	15. 16	2) グループワーク 2 回目	GW	
	17. 18	3) 発表 1 回目	GW	
	19. 20	4) 発表 2 回目	GW	
	21. 22	8. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ー急性期ー 1) 健康の急激な破綻 2) 急性期にある人への看護	講義	
	23. 24	9. 慢性病とともに生きる人を支える看護 ー慢性期ー 1) 慢性病とともに生きる人を理解する 2) 慢性期にある人への看護	講義	
	25. 26	10. 障害がある人の生活とリハビリテーション ーリハビリテーション期ー 1) リハビリテーション期にある人への看護	講義	
	27. 28	11. 人生の最期のときを支える看護 ー終末期ー 1) 人生の最期のときにおける医療の現状 2) 終末期にある人への看護	講義	
	29	12. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 13. 新たな治療法・先端医療と看護	講義	
試験	30	筆記試験		/
評価方法・配点	筆記試験 90 点 グループワーク（経過別看護）10 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論		医学書院 医学書院	¥2,530 ¥2,750
備考	※実務経験のある教員等による授業科目			

専門分野	授業科目	がん看護・緩和ケア	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	吉田千治・安藤恵美・中村由美・渡明美・住田真弓・國井みすず・赤川舞子・須藤祐子・加藤あずさ							
授業概要	終末期にある対象と家族について理解し、がん看護、緩和ケアに関する基本的知識を身につけ、看護展開を学ぶ。また、慢性期にあるがん患者と家族について理解する。							
ねらい	1. 終末期にある対象と家族の特徴が理解できる。 2. 終末期にある対象への看護援助が修得できる。 3. 慢性期にあるがん患者と家族について理解する。 4. がんに関する基本的知識を理解し、必要な看護援助について理解できる。 5. 緩和ケアに関する基本的知識を理解し、緩和ケアの概要について理解できる。 6. 看取りの援助を習得することができる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 慢性期にある患者への看護/ 慢性期にある対象の特徴を捉え、 看護の概要を理解することができる	(1)慢性期の特徴 ①慢性期とは ②慢性期治療の特徴 ③慢性期をとらえる視点 (2)慢性期の患者のニーズ ①セルフケア ②疾病受容 (2)セルフマネジメントを推進する看護方法・評価の仕方 (3)セルフケア継続に向けた患者-医療者関係の構築			講義・ 演習	吉田千治	
	2	2. 終末期の対象の理解/ 死に関する基本的知識が理解できる 終末期にある対象と家族の特徴が理解できる	(1)ターミナルケア・緩和ケア・ホスピスケア (2)死にまつわる文化 (3)終末期にある人の療養の場 (4)死をめぐる倫理的問い (5)対象と家族 (6)看護援助 (7)終末期対象理解の演習 (8)緩和ケアと生命倫理			講義	中村	
	3		3. 死の看取り援助/ 看取りのケアを習得できる			講義	須藤	
	4		(1)死亡の動向と場所 (2)死にゆく人と周囲の人々へのケア (3)臨死期のケア (4)わが国の風習に根づく死後の処置のあり方 (5)死後の処置			演習	加藤	
	5	4. がん看護/ がんの病態・診断・治療、身体的・精神的・ 社会的苦痛等の概要が理解できる 必要な看護援助について理解できる	(1)がん医療の現在 (2)がん治療の場と看護 (3)薬物療法・放射線療法における看護 (4)がん患者の看護 (5)がん治療における看護の重要性 (6)がんの病態と臨床経過 (7)造血幹細胞移植と看護 (8)がん手術療法における看護			講義	國井	
	6		(1)緩和ケア概論 (2)非がん疾患の緩和ケア (3)疼痛のある患者に対する治療・看護 (4)精神症状とその治療・看護 不安・抑うつ・せん妄				渡	
	7		(5)社会的ケア (6)スピリチュアルケア (7)身体症状とその治療・看護 全身倦怠感・消化器症状・呼吸困難・リンパ浮腫				住田	
	8		(8)在宅緩和ケア (9)意思決定とコミュニケーション コミュニケーション・意思決定・悪い知らせ (10)家族ケア				中村	
	9	5. 緩和ケア/ 緩和ケアに関する基本的知識が理解できる 緩和ケアをうける対象の 身体的精神的社会的特徴が理解できる 緩和ケアの具体的な内容が理解できる					赤川	
	10						安藤	
	11						小室	
	12							
	13	試験					赤川・吉田・須藤・加藤	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験100点（慢性期15点、がん・緩和70点、死の看取り15点（加藤5点・須藤10点））							
テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護学		医学書院			¥2,530		
	ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦緩和ケア		メディカ出版			¥3,520		
	ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論		メディカ出版			¥3,520		
	ナーシンググラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得		メディカ出版			¥3,960		
	ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント		メディカ出版			¥3,300		
備考								

専門分野	授業科目	急性期看護	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	轟 竜也・目黒 舞子・好井 厚子・小山田 理恵・増田 さおり							
授業概要	大腸がんの患者の特徴とその看護について学び、看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、救急看護、周手術期の看護について学ぶ。							
ねらい	1. 救急看護、周手術期看護の特徴を理解することができる。 2. 大腸がんの患者の特徴と看護を理解することができる。 3. 大腸がんの術後患者の看護過程を展開することができる。 4. ストーマケアの基本的な技術を習得することができる。							
時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
1	1. 救急看護/	1. 急性・重症患者の特徴			講義	轟		
2	(1)緊急性と重症度のアセスメントが	2. 急性・重症患者の家族の特徴						
3	理解できる	3. 危機的状態への精神的支援						
4	(2)救急看護の概要について理解することができる	4. 代理意思決定支援						
5	2. 周手術期看護/	1. 疾患をもつ患者の看護			講義	目黒		
6	(1)周手術期にある対象の特徴を捉え、	【胃切除術を受ける患者の看護】						
7	看護の概要を理解することができる	(1)手術の意思決定への援助						
8		(2)術後合併症のリスクアセスメント						
9		(3)術後指導・不安のアセスメントと援助						
10		(4)手術体位とその影響						
11		(5)手術・麻酔方法による影響と援助						
11		(6)術中の安全管理						
12	3. 急性期にある患者への看護展開/	1. 大腸がん患者の看護			講義	好井		
13	(1)消化機能障害をもつ対象の	(1)症状とその看護						
14	特徴とその看護を理解する	(2)検査を受ける患者の看護 (3)治療・処置を受ける患者の看護						
15	(2)急性期にある患者に関する紙上事	2. 看護過程の展開			講義	小山田		
16	例を基に看護過程が展開できる	(1)緊急性と重症度のアセスメント						
17		(2)壮年期の事例展開						
18		人工肛門増設術を受ける患者の看護						
19		ストーマケア（援助の基礎知識、						
20		援助、演習）						
21								
22								
23								
24								
25								
26	(3)ストーマケアの基本的な技術を	1. ストーマケアの基礎知識と実際			講義 演習	増田		
27	習得できる。							
28								
29								
30	試験				轟・目黒・好井・小山田・増田			
計	30							
評価方法・配点	救急20点 周手術期20点 急性期20点(疾患10・ストマ10) 看護過程・課題レポート40点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学【4】臨床看護総論					医学書院	¥2,750	
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論					医学書院	¥3,080	
	系統看護学講座 別巻 臨床外科各論					医学書院	¥3,520	
	系統看護学講座 別巻 救急看護学					医学書院	¥2,750	
備考								

専門分野	授業科目	疾患別看護 I	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	田中 千鶴 ・ 秋山 聡美 ・ 村上 毅 ・ 窪之内 麻未 ・ 三島 愛							
授業概要	心身機能・構造になんらかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援する看護や脳神経機能障害・感覚機能障害の疾患看護を学習する							
ねらい	1. リハビリテーション看護の基本的な知識が理解できる 2. 脳神経機能障害・感覚機能障害をもつ患者の特徴と生活への影響を理解する 3. 脳神経機能障害・感覚機能障害をもつ患者の看護を理解する							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. リハビリテーション概論/ リハビリテーション、障害等の言葉の定義、 リハビリテーションの分野等の基本的な概念が理解できる 2. リハビリテーション看護概論/ 対象の心理・社会的体験やリハビリテーションに共通する評価や援助の在り方を理解する 3. 回復過程にある対象の理解/ 回復過程に向けて自立に向けた支援のあり方について考え、理解する	(1) リハビリテーションの定義と理念 (2) リハビリテーションの対象と制度 (3) 疾病・障害・生活機能の分類 (4) リハビリテーションの分野 (5) リハビリテーション医療の提供 (1) リハビリテーション看護の定義と専門化 (2) リハビリテーション看護の対象 (3) リハビリテーション看護の方法 (4) 多職種との連携			講義	田中	
	2							
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8	病期的状態と看護援助について概要を説明 看護過程の事例（心不全）から情報収集と整理を行う。 病期的状態の考え方、フローシート記載、検査と考え方の説明 病期的状態の個人ワーク課題 病期と看護、全体像について説明 常在条件の考え方説明、全体像記載課題 疾患の説明 急性期と回復期の看護の違いについてグループワーク	演習			秋山		
	9							
	10							
	11							
	12	2. 脳神経機能障害をもつ患者の看護/ 脳神経機能障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 脳神経機能障害のある患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【脳血管障害患者の看護】 (1) 症状とその看護：①生命維持活動調節機能障害②運動・感覚機能障害③言語機能障害④高次脳機能障害 (2) 検査を受ける患者の看護：①髄液検査②脳血管造影 (3) 治療とその看護：①血管バイパス術②血管内治療（血栓溶解療法・動脈瘤塞栓術）③脳室ドレナージ④脳室-腹腔（v-pシャント）⑤開頭術 3. その他：脳波検査・低体温療法・脳腫瘍・小脳疾患 頭部外傷・脳死状態・クロイツフェルトヤコブ病・穿頭術 対象理解演習			講義	村上	
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23	3. 感覚機能障害をもつ患者の看護/ 感覚機能障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	【中途視覚障害のある患者の看護】 (1) 症状とその看護：①視覚障害による症状 (2) 検査を受ける患者の看護：①眼底検査②眼底光凝固療法 (3) 治療とその看護：①網膜剥離治療②人工眼内レンズ挿入 【耳鼻咽喉科疾患をもつ患者の看護】 (1) 症状とその看護：①聴覚・嗅覚・味覚障害の症状 (2) 検査を受ける患者の看護：①オージオメーター検査②鼻腔内視鏡検査 る紙ディスク法 (3) 治療を受ける患者の看護：①鼓膜形成術②鼻腔内手術 ③舌癌治療 (4) 疾患をもつ患者の看護：①突発性難聴②メニエール病その他対象理解演習 【歯・口腔疾患をもつ患者の看護】 (1) 症状に対する看護：口腔症状・顎口腔機能障害 (2) 治療、処置を受ける患者の看護：齲蝕・歯周病・外科的処置・歯科矯正 (3) 疾患をもつ患者の看護：口腔癌、顎変形症、唇顎口蓋裂、顎嚢胞疾患			講義	窪之内	
	24							
	25							
	26							
	27	耳鼻咽喉科	演習			三島		
	28							
	29							
	30	試験				秋山・三島・田中・村上・窪之内		
計	30							
評価方法・配点	秋山：30点 田中：15点 村上：30点 窪之内：10点 三島：15点							
テキスト	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学【7】 脳神経		医学書院		¥2,640	
	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学【13】 眼科		医学書院		¥1,980	
	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学【14】 耳鼻咽喉		医学書院		¥1,980	
	系統看護学講座専門 専門分野		成人看護学【15】 歯・口腔		医学書院		¥2,090	
備考								

専門分野	授業科目	疾患別看護Ⅱ	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	安達 恵美・住田真弓・長野 彩香・納藤 織江							
授業概要	消化機能、血液・造血器、内分泌代謝、アレルギー・膠原病・感染症の疾患看護を学習する。							
ねらい	1. 消化機能、血液・造血器、内分泌・代謝障害、アレルギー・膠原病・感染症をもつ患者の特徴と生活への影響を理解する。 2. 消化機能、血液・造血器、内分泌・代謝障害、アレルギー・膠原病・感染症をもつ患者の看護を理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	1. 消化機能障害をもつ患者の看護/ (1)消化機能障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 消化・吸収機能障害の患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【胃・十二指腸潰瘍】 (1)症状とその看護(2)検査を受ける患者の看護： ①上部・下部消化管内視鏡検査 ②大腸内視鏡検査 (3)治療を受ける患者の看護：①中心静脈栄養法 【肝炎・肝硬変・肝がんをもつ患者の看護】(1)症状とその看護： ①胆汁分泌障害②肝性脳症③食道静脈瘤④浮腫・腹水⑤倦怠感 ⑥黄疸 ⑦出血傾向 (2)検査を受ける患者の看護：①肝生検 (3)治療を受ける患者の看護：①肝庇護療法 ②インターフェロン療法 ③食道静脈硬化療法 ④肝動脈塞栓術 ⑤胆道・胆嚢ドレーン挿入 ⑥肝生検 ⑦肝切除術 【膵炎】 (1)症状とその看護：①膵液分泌障害 (2)検査を受ける患者の看護：①内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (3)治療を受ける患者の看護 3. その他：潰瘍性大腸炎・クローン病の生活指導・対象理解演習			講義	安達	
	1 2 3 4 5 6	2. 血液・造血器障害をもつ患者の看護/ (1)血液・造血器の障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 患者の特徴と看護の役割 (1)貧血患者 (2)造血器腫瘍患者 (3)家族への支援 2. 患者の看護 (1)経過別に見た看護 (2)主要症状を有する患者の看護①貧血②出血③白血球減少 (3)検査を受ける患者の看護 (4)造血器腫瘍患者の看護【悪性リンパ腫・白血病】(5)血友病患者の看護			講義	住田	
	1 2 3 4 5 6 7 8	3. 内分泌・代謝障害をもつ患者の看護/ (1)内分泌・代謝障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 内分泌・代謝・血糖調節機能障害をもつ患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【1型・2型糖尿病】 (1)症状とその看護 (2)検査を受ける患者の看護：①血糖自己測定 (SMBG)②糖負荷試験 (OGTT) (3)治療を受ける患者の看護：①インスリン補充療法 ②インクレチン関連薬 ③糖尿病治療内服薬 ④食事指導 【甲状腺機能障害】 (1)症状とその看護 (2)検査を受ける患者の看護： ①ホルモン血中・尿中濃度測定検査 ②ホルモン負荷試験 (3)治療を受ける患者の看護：①甲状腺ホルモン療法②甲状腺切除術 3. その他：副腎機能障害・下垂体機能障害・肥満・るい瘦・痛風発作 ・高尿酸血症・高脂血症・対象理解演習			講義	長野	
	1 2 3 4 5	4. アレルギー・膠原病・感染症をもつ患者の看護/ (1)アレルギー・膠原病・感染症をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. アレルギー・膠原病・感染症をもつ患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【アレルギー疾患】(1)症状とその看護：①鼻出血 ②出血傾向③アレルギー反応 (2)検査を受ける患者の看護：①スキントテスト②減感作療法 (3)治療を受ける患者の看護：①抗アレルギー薬 【HIV】(1)症状とその看護(2)検査を受ける患者の看護 (3)治療を受ける患者の看護：①抗HIV療法 【膠原病】 (1)症状とその看護 (2)検査を受ける患者の看護 (3)治療を受ける患者の看護：①免疫抑制剤②ステロイド療法 その他・対象理解演習			講義	納藤	
	1	試験					安達・住田・長野・納藤	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験（消化器35点・血液、造血器20点・内分泌、代謝25点・アレルギー、膠原病20点）							
テキスト	系統別看護学講座専門	専門分野	成人看護学【4】	血液・造血器	医学書院	¥1,760		
	系統別看護学講座専門	専門分野	成人看護学【5】	消化器	医学書院	¥2,970		
	系統別看護学講座専門	専門分野	成人看護学【6】	内分泌・代謝	医学書院	¥2,310		
	系統別看護学講座専門	専門分野	成人看護学【11】	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院	¥2,420		
備考								

専門分野	授業科目	疾患別看護Ⅲ	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	大藤 美和 ・ 宮田 理香 ・ 樽見 亜希 ・ 安藤 恵美							
授業概要	循環機能障害・呼吸機能障害・腎機能障害、性・生殖器の疾患看護を学習する。							
ねらい	1. 循環器障害、呼吸機能障害、腎機能障害をもつ患者の特徴と生活への影響を理解する。 2. 循環器障害、呼吸機能障害、腎機能障害をもつ患者の看護を理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	1. 循環機能障害をもつ対象の看護/ (1)循環機能障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 循環器系の疾患をもつ患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【心不全】 (1)症状とその看護：①ポンプ機能障害 ②輸送還流障害 ③刺激伝導障害 (2)検査を受ける患者の看護：①心電図 ②心エコー (3)治療を受ける患者の看護：①大動脈バルーンパンピング ②ペースメーカー ③植え込み型除細動器 【虚血性心疾患】 (1)症状とその看護：①不整脈 (2)検査を受ける患者の看護：①心臓カテーテル②心血管造影 (3)治療を受ける患者の看護：①経皮的冠動脈形成術 ②冠動脈バイパス術③血栓溶解療法・血栓除去術 3. その他：下肢動脈閉塞症・弁置換術・対象理解演習				講義	大藤
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	2. 呼吸機能障害をもつ対象の看護/ (1)呼吸機能障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 呼吸器系の疾患をもつ患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【慢性閉塞性呼吸器疾患】 (1)症状とその看護：①換気障害②呼吸運動障害をもつ患者の看護 (2)検査を受ける患者の看護：①呼吸機能検査②動脈血液ガス分析 ③酸素療法 (3)治療を受ける患者の看護 【肺がん】 (1)症状とその看護：①酸素化障害 (2)検査を受ける患者の看護：①肺生検 ②気管支鏡 (3)治療を受ける患者の看護：①肺切除術 3. 呼吸機能を高める援助 4. その他：肺炎・対象理解演習				講義 演習	宮田
	1 2 3 4 5	3. 腎機能・排泄機能障害をもつ対象の看護/ (1)腎機能障害をもつ対象の特徴とその看護を理解する	1. 腎・泌尿器疾患患者の特徴と生活への影響 2. 疾患をもつ患者の看護 【慢性腎臓病・腎不全】 (1)症状とその看護：①内部環境調節機能 ②体液調整機能障害 (2)検査を受ける患者の看護：①腎生検 ②腎機能検査 (PSP試験・フィッシュバーグ濃縮試験・糸球体濾過量 (GFR)) (3)治療を受ける患者の看護：①急性期持続血液濾過透析 ②維持透析 ③腹膜透析 ④腎移植後の援助				講義	樽見
	1 2 3 4 5	(2)排泄機能障害のある患者への看護 ／対象の特徴とその看護を理解する 4. 性・生殖機能障害のある患者への看護 ／対象の特徴とその看護を理解する	1. 前立腺肥大の患者への看護 2. 前立腺癌の患者への看護 3. 膀胱癌の患者への看護 4. 尿路感染症の患者への看護 5. 尿路結石の患者への看護 6. 男性の性・生殖機能障害の患者への看護				講義	安藤
	30	試験					大藤・宮田・樽見・安藤	
計	30							
評価方法・配点	筆記試験（循環器35点・呼吸器35点・腎機能15点・排泄、生殖機能15点）							
テキスト	系統別看護学講座専門		専門分野	成人看護学【3】	循環器	医学書院	¥2,640	
	系統別看護学講座専門		専門分野	成人看護学【2】	呼吸器	医学書院	¥2,640	
	系統別看護学講座専門		専門分野	成人看護学【8】	腎・泌尿器	医学書院	¥2,530	
備考								

専門分野	授業科目	老年看護学概論	開講時期	1年	単位	1	時間数	30
担当講師	狩野 智子							
授業概要	高齢者の身体的、精神的、社会的特徴や健康問題について理解する。高齢者をとりまく文化・社会背景を学び、保健医療福祉の現状と課題について理解する。							
ねらい	1. 高齢者の加齢に伴う変化と健康について理解する。 2. 高齢者をとりまく環境と保健医療福祉の現状を理解する。 3. 老年看護の位置づけと役割を理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 老年期の理解/ 老いることや老いを生きるということについて理解できる	(1) 老年期の発達と変化			講義 GW・発表	狩野	
	2		・ライフサイクルからみた高齢者					
	3		・発達課題					
	4		(2) 高齢者の生活の質の保障					
	5		・ノーマライゼーション					
	6		・自立支援					
	7		(3) 加齢への適応					
	8		・喪失体験と獲得体験					
	9		・老年看護における理論・概念					
	10		(4) 高齢者のいる家族の変化					
	11		・家族構成とニーズの変化					
	12		・家族の機能の変化					
	13	2. 高齢者の生活/ ・高齢者がその人らしく生活するための、機能評価や保健医療福祉制度が理解できる。	(1) 高齢者の機能と評価			講義	狩野	
	14		(2) 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度					
	15	3. 高齢者の健康/ 高齢者の健康と加齢による身体・認知・心理・社会的変化が理解できる。	(1) 高齢者の健康と疾病			講義	狩野	
	16		(2) 加齢に伴う身体機能の変化					
	17		(3) 加齢に伴う認知機能の変化					
	18		(4) 加齢に伴う心理・社会的変化					
	19							
	20							
	21							
	22							
	23	4. 老年看護の基本/ 老年看護の変遷と特徴が理解できる。	(1) 老年看護の変遷			講義	狩野	
	24		(2) 老年看護の倫理					
	25							
	26							
	27		(3) 老年看護の特徴					
	28							
	29							
	30	試験						
計	30							
評価方法・配点	筆記試験100点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学					医学書院	¥2,970	
	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論					医学書院	¥2,530	
	公衆衛生がみえる2022-2023					メディックメディア	¥3,960	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野	授業科目	老年看護学援助論Ⅰ	開講時期	1年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	澁谷 順子 ・ 脇本 奈緒子 ・ 狩野 智子							
授業概要	高齢者の基本的活動、食生活、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション等の特徴を学び、QOLを高めるために必要な看護について理解する							
ねらい	1. 高齢者の加齢に伴う生活機能の変化が理解できる 2. 高齢者の生活機能を整える看護が理解できる							
	時間数							担当
	1	1. 高齢者の加齢に伴う生活機能を支える看護/ 生活機能の低下をアセスメントし、必要な援助が理解できる	(1) コミュニケーション ・高齢者とのコミュニケーションの方法	講義 講義 GW 講義 演習 GW 講義	狩野			
	2		(2) 歩行・移動・転倒 ・歩行・移動動作のアセスメントと援助・高齢者への安全な体位変換・移動・移乗の援助 ・車いす・杖歩行・歩行器使用時の援助方法 ・安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）					
	3		(3) 食生活・低栄養 ・高齢者の食べることの意義・食生活の状況と特徴を踏まえた援助（摂食・嚥下障害） （嚥下能力、嗜好性、環境）					
	4		(4) 排泄 ・高齢者の排泄行動自立の意義 ・排泄のアセスメント・排泄能力に応じた援助					
	5		・便秘、下痢、尿失禁					
	6		(5) 清潔・衣生活 ・高齢者が身嗜みを整える意義・清潔行為のアセスメント ・更衣動作のアセスメント ・入浴行動に伴う危険性、負担を踏まえた清潔・衣 ・入浴時の転倒リスクを踏まえた援助のGw					
	7		(6) 活動と睡眠 ・生活リズムの調整・電法の種類、電法が身体へ及ぼす影響 高齢者への温電法、冷電法の援助					
	8		(7) 性・社会参加 ・セクシャリティへの援助・生きがいもてる身近な場所への参加					
	9		(1) 健康の維持・増進の状況 (2) 受療状況 (3) 介護予防の促進と評価					
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20	3. 高齢者の褥創発生リスク因子のアセスメントと褥創予防のケア/ 褥創発生の危険をアセスメントできる 褥創予防のケアが計画・実施できる	(1) 褥創のある患者への看護技術	講義 演習	脇本			
	21		① 褥創管理の基礎知識					
	22		② 脳梗塞患者の事例による演習 ・褥創の観察・計画 ・処置					
	23							
	24							
	25							
	26		技術試験	演習 技術試験	狩野			
	27	(1) 体位変換・ポジショニング						
	28	(2) 移乗・移送・ベッド⇄車いす (3) 車いす移動						
	29							
	30	筆記試験						狩野・脇本・澁谷
計	30							
評価方法・配点	狩野：50点 脇本：20点 澁谷：30点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学						医学書院	¥2,970
	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論						医学書院	¥2,530
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護学技術Ⅱ						医学書院	¥3,190
備考								

専門分野	授業科目	老年看護学援助論Ⅱ	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	小野寺 和江・井上 幸美・青野 裕太・狩野 智子							
授業概要	高齢者に特徴的な症状と看護、特徴的な疾患と看護について理解する。							
ねらい	1. 高齢者の健康障害の特徴が理解できる 2. 高齢者の健康障害が高齢者や家族の日常生活やQOLに及ぼす影響を理解できる 3. 高齢者の健康障害の特徴をふまえた日常生活援助の方法が理解できる							
	時間数							担当
	1	1. 高齢者の特徴的な症状と看護/ 2 高齢者の特徴的な症状をもつ対象の生活 3 機能を支える看護が理解できる	(1) 廃用症候群 (2) 脱水症 (3) 掻痒症 (4) 視覚・聴覚障害 (5) 骨粗鬆症 (6) うつ・せん妄					狩野
	7	2. 高齢者の特徴的な疾患と看護/ 8 高齢者の特徴的な疾患と生活機能を支える 9 看護	(1) 認知症 ・認知症の病態と治療 ・認知症高齢者へのQOLをふまえた看護					
	11		(2) 感染症 (3) パーキンソン症候群					
	13		(4) 大腿骨頸部骨折 ・加齢による骨折の特徴と要因 ・治療と援助				井上	
	15		(5) 人工関節置換術を受ける患者の看護 ・関節可動域障害・筋力低下の原因と程度 ・症状とその看護					
	17		(6) 椎間板ヘルニア ・症状とその看護：腰痛				青野	
	19		・検査・治療を受ける患者の看護 脊髄造影・椎間板造影・ギプス固定・牽引法					
	21		(7) その他：疼痛（関節痛・筋肉痛・坐骨 神経痛、膝関節鏡検査・膝関節液検査・四 肢切断					
	23		(9) 皮膚疾患をもつ患者の看護 ・症状とその看護：皮膚粘膜障害（発赤・びらん・潰瘍）・アレルギー ・検査・治療を受ける患者の看護 生検・ステロイド療法				小野寺	
	25	3. 治療と看護/ 26 治療を受ける高齢者の特徴をふまえた 看護が理解できる	(1) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (2) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 (3) 受療形態に応じた高齢者の看護 (4) 右半身麻痺の1日体験レポート (5) 車いす移送における患者、看護師役割の体験 (6) 視覚障害者の歩行介助における患者、看護師役割の体験				狩野	
	30	試験					井上・青野・狩野・小野寺	
計	30							
評価方法・配点	小野寺：筆記5点、井上：筆記10点、青野：筆記15点、狩野：筆記60点、課題レポート10点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学					医学書院	¥2,970	
	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論					医学書院	¥2,530	
	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学【10】 運動器					医学書院	¥2640	
	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学【7】 脳・神経					医学書院	¥2640	
	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学【12】 皮膚					医学書院	¥2,090	
系統別看護学講座 専門分野 成人看護学【13】 眼科					医学書院	¥1,980		
備考								

専門分野	授業科目	老年看護学援助論Ⅲ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	15
担当講師	狩野 智子							
授業概要	事例を通して、高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開する能力を養う。							
ねらい	1. 健康障害のある高齢者を、生活機能の視点でアセスメントし看護過程を展開する方法を理解する。 2. 退院を視野に入れ、家族への介入の必要性も考えられる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 看護過程の展開/ 健康障害をもちながら、生活の再構築 が必要な高齢者の看護過程の方法が理 解できる	オリエンテーション 紙上事例の展開（事例配布） ・脳血管疾患（脳梗塞後遺症にて右上下 肢麻痺のある高齢者（回復期） （1）老年看護過程の考え方 ・病態と生活機能の関連について考える ・対象の持てる力に着眼する意義について （2）アセスメントの視点について ・病期（全体像シートを用いた疾患の経過） ・機能障害・残存機能評価 ・発症前のADLレベルと比較 ・再発、合併症、二次的障害のセルフケア ・家族サポートや社会資源活用の必要性 （3）病理的状態のアセスメント（個人） （患者の病理的状態の理解）			講義 ・ 演習	狩野	
	2							
	3		（4）基本的欲求のアセスメント （個人ワーク） ・根拠に基づく充足・未充足の判断 ・病理的状態、常在条件、複数の未充足 との関連性			演習	狩野	
	4							
	5		（5）看護問題の明確化（個人ワーク） ・優先される順に問題を2つ挙げる。 ・問題とした理由を明確にする。 ・優先度決定理由を、根拠に基づき考える。			演習	狩野	
	6							
	7		（6）看護計画立案（個人ワーク） ・長期目標と短期目標の設定 ・患者にあった具体的な援助を考える。			講義	狩野	
	8							
	9		（7）疾患、14項目の充足・未充足の共通 認識			講義	狩野	
	10							
	11		（8）看護問題の明確化（GW） （9）看護計画立案（GW） ・個人で考えた、アセスメント～看護計画 を持ちより、GWを行い様々な視点で看護問 題を考え、計画立案につなげる。			演習	狩野	
	12							
	13					演習 講義	狩野	
	14		（8）看護展開グループ発表					
	15		紙上事例展開の振り返り					
計	15							
評価方法・配点	課題レポート72点 演習態度28点							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学						医学書院	¥2,970
	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論						医学書院	¥2,530
	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版						ヌーヴェルヒロカワ	¥2,200
	ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト						ヌーヴェルヒロカワ	¥1,100
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野	授業科目	小児看護学概論	開講時期	2年前期	単位	1	時間数	30			
担当講師	松野 絢 ・ 田中 千鶴										
授業概要	新生児期から思春期までの身体的、精神的、社会的発達を段階的に学習し、小児期の成長・発達の特徴を理解する。また、小児が影響をうける環境を理解し、小児看護の課題や問題について学ぶ。										
ねらい	1. 小児看護の概念と対象である小児と家族について理解できる。 2. 小児とその家族を取り巻く環境を理解できる。										
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当				
	1	1. 小児看護の特徴と理念/ 小児看護の対象、目標・役割、小児看護の課題・問題について理解できる	(1) 小児看護のめざすところ (2) 小児と家族の諸統計 (3) 小児看護の変遷 (4) 小児看護における倫理 (5) 小児看護の課題			講義	松野				
	2										
	3	2. 子どもの成長・発達/ 小児の成長・発達について理解できる	(1) 成長・発達とは (2) 成長・発達の進み方 (3) 成長・発達に影響する因子 (4) 成長の評価 (5) 発達の評価								
	4										
	5	3. 小児各期の特徴/ 各期の特徴を理解し、各期に応じた看護が理解できる	(1) 新生児期の特徴と看護 (2) 乳児期の特徴と看護 (3) 幼児期の特徴と看護 (4) 学童期の特徴と看護 (5) 思春期の特徴と看護								
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15	4. 小児と家族を取り巻く社会/ 小児とその家族を取り巻く環境と社会について理解でき、保健医療福祉、教育関係者との連携の必要性を学ぶことができる	(1) 家族の特徴とアセスメント (2) 児童福祉・母子保健・医療費の支援・予防接種・学校保健・特別支援教育・臓器移植法						講義 GW演習	田中	
	6										
	7								(3) 子どもの虐待と看護	講義	
	30	試験							松野・田中		
計	30										
評価方法・配点	筆記試験（松野70点・田中30点）										
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】		小児看護学概論	小児臨床看護総論	医学書院				¥3,190		
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】		小児臨床看護各論						医学書院	¥3,630	
	公衆衛生がみえる 2022 - 2023					メディックメディア	¥3,960				
備考											

専門分野	授業科目	小児看護学援助論 I	開講時期	2年	単位	1	時間数	15
担当講師	伊藤 善也・加藤 晶・安藤 明子・菅沼 隆							
授業概要	小児特有の疾患の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。							
ねらい	1. 小児に特徴的な健康障害・疾患の特徴が理解できる。 2. 疾患が小児の成長・発達へ及ぼす影響についてわかる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 小児の疾病・障害/ 小児期に多い疾患・小児に特有な疾患の 病態生理とその診断・治療について理解 できる	(1) 成長・発達			講義	伊藤	
	2		(2) 染色体異常・胎内環境により発症する 先天異常、新生児の疾患の症状・診断・ 治療				安藤	
	3		(3) 呼吸器疾患の症状・診断・治療				菅沼	
	4		(4) 感染症の症状・診断・治療					
	5		(5) 循環器疾患の症状・診断・治療					
	6		(6) 消化器疾患の症状・診断・治療				伊藤	
	7		(7) 腎・泌尿器および生殖器疾患の症状・ 診断・治療					
	8		(8) 内分泌代謝系疾患の症状・診断・治療				伊藤	
	9		(9) 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患の 症状・診断・治療				加藤	
	10		(10) 血液造血器、悪性新生物疾患の症状・ 診断・治療					
	11		(11) 神経疾患の症状・診断・治療				加藤	
	12		(12) 運動器疾患の症状・診断・治療					
	13		(13) 精神疾患の症状・診断・治療				加藤	
	14	2. 対象の疾患理解の演習/ 事例を用い現時点で生じている対象の身体状況 を理解するためのベースの知識を学ぶ	(14) 疾患理解のまとめ演習					
	15	試験	伊藤・菅沼・加藤・安藤					
計	15							
評価方法・配点	筆記試験100点（伊藤30点・佐藤70点）							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】小児看護学概論 小児臨床看護総論		医学書院		¥3,190			
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】小児臨床看護各論		医学書院		¥3,630			
備考								

北見医師会看護専門学校								令和5年度	
専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅱ	開講時期	2年	単位	1	時間数	30	
担当講師	田中 千鶴・竹内 亜希子・小林 さつき・米野 隆晶								
授業概要	小児の健康が小児及び家族に及ぼす影響をとらえ、様々な状況にある小児と家族の看護を症状・疾患別に分けて学習する。								
ねらい	1. 小児に特徴的な健康障害・疾患の特徴に応じた看護が理解できる。 2. 疾患が小児と家族に及ぼす影響をとらえた小児と家族への看護が理解できる。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 症状・疾患をもつ小児の看護/ 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し、健康状態に応じた看護が理解できる	(1) 病気・障害を持つ小児と家族の看護			講義・演習	田中		
	2		(2) 入院中の小児と家族の看護						
	3		(3) 外来における小児と家族の看護						
	4		(4) 在宅療養中の小児と家族の看護						
	5		(5) 慢性期にある小児と家族の看護						
	6		(6) 急性期にある小児と家族の看護						
	7		(7) 周手術期の小児と看護						
	8		(8) 終末期の小児と家族の看護						
	9		(9) 活動制限・隔離が必要な小児と家族の看護						
	10		(10) 障害のある小児と家族の看護						
	11		(11) 災害時の小児と家族の看護						
	12		(12) 症状を示す小児の看護 各症状と看護のグループワーク・発表						
	13		(13) 演習						演習
	14		外来受診した発熱児の身体状況の推論、						
	15		必要な看護を討議						
	16	2. 疾患看護/ ・小児に特有な疾患に対する小児と家族への看護について理解できる ・臨床看護師の臨床判断や臨床で実際に行われている看護の話を聞き、考えを知ることができる	(1) 染色体異常・胎内環境により発症した先天異常			講義/演習	竹内		
	17		(2) 内分泌代謝系疾患看護				小林		
	18		(3) 腎・泌尿器および生殖器疾患看護				米野		
	19		(4) 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患看護						
	20		(5) 感染症の看護						
	21		(6) 呼吸器疾患看護				小林		
	22		(7) 神経疾患看護						
	23		(8) 循環器疾患看護						
	24		(9) 皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患看護				竹内		
	25		(10) 消化器疾患看護						
	26		(11) 血液造血器、悪性新生物疾患看護						
	27		(12) 運動器疾患看護				竹内		
	28		(13) 精神疾患看護						
	29		(14) 事故・外傷、救急救命処置が必要な小児と家族への看護						
	30	試験			田中・竹内・小林・米野				
計	30								
評価方法・配点	筆記試験100点（田中50点・竹内20点・小林15点・米野15点）								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】小児看護学概論 小児臨床看護総論						医学書院	¥3,190	
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】小児臨床看護各論						医学書院	¥3,630	
備考									

専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅲ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	30	
担当講師	秋山 聡美・松野 絢								
授業概要	小児看護において必要な基本的看護技術を習得する。また、事例を通して、小児の特徴をふまえ、看護過程を展開する能力を養う。								
ねらい	1. 小児看護における基本的技術がわかる。 2. 安全安楽・自律性をふまえ、対象を尊重した援助について理解できる。 3. 疾患をもつ小児のアセスメントをし、必要な看護がわかる。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 小児看護技術/ ◦小児看護に必要な基本的技術や検査・処置を受ける小児の看護が理解できる ◦演習を通し、安全・安楽、小児を尊重した援助について学ぶことができる	(1) ジグソー学習法によるGW ①コミュニケーションと遊び ②検査処置とプレパレーション ③バイタルサイン測定・身体計測 ④療養生活指導			講義・GW	秋山		
	2					GW			
	3					GW			
	4								
	5								
	6								
	7								
	8		(2) 看護技術の実践 ・バイタルサイン測定 ・身体測定 ・おむつ交換、抱っこ			演習			
	9								
	10								
	11		(3) 検査・処置を受ける子どもの看護			講義			
	12								
	13	2. 看護過程の展開/ ◦事例を通して健康障害をもつ小児を総合的に理解し、看護実践につなぐことができる ◦対象の発達段階、家族状況、症状・疾患に応じた療養法について考えることができる ◦対象の発達段階、症状・疾患をふまえた遊びを考えることができる	(1) 授業概要説明 ・小児看護過程の特徴と留意点 ・ジグソー学習法によるGWについて ・事例(川崎病、糸球体腎炎)の提示			講義	松野		
	14		(2) アセスメント ①病態 ②子どもの生活・セルフケア状況 ③児の心理 ④家族の状況			GW			
	15								
	16								
	17								
	18								
	19								
	20		(3) 看護問題の明確化						
	21								
	22		(4) 看護計画の立案						
	23								
	24								
	25								
	26		(5) 発表準備						
	27								
	28		(6) 発表						
	29								
	30		試験						秋山・松野
計	30								
評価方法・配点	筆記試験100点(秋山30点・松野70点)								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院							¥3,024	
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】小児臨床看護各論 医学書院							¥3,564	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目								

専門分野	授業科目	母性看護学概論	開講時期	2年前期	単位	1	時間数	30
担当講師	八重樫 明子・ 廣田 のぞみ ・ 田邑 泰子 ・ 安藤 恵美							
授業概要	母性看護学の対象は妊産褥婦を中心に胎児期から老年期までの幅広い年代の女性とその家族である。ここでは対象の理解と母性看護学の基盤になる概念を理解し、母性看護の課題や問題について学ぶ。また、女性生殖器の疾患をもつ患者の看護についても学習する。							
ねらい	1. 母性看護の概念および動向、対象の特徴について理解する。 2. 女性のライフスタイル各期の特徴と看護について理解する。 3. 女性生殖器の疾患をもつ患者の看護を理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 母性とは/ ・母性、父性、親性の概念や特性、役割を理解	I 母性、父性、親性の違い II 親役割の獲得			講義	八重樫	
	2	2. 母性看護とは/ ・母性看護のさまざまな理解を深め、看護の	I 母性看護の概念 II 母性看護学の構造と変遷			講義		
	3	視点学ぶ	III 母性看護の目的と重要な視点 IV 母性看護に関わる職種と役割 V 母性看護の場と特徴					
	4		VI 母性看護・周産期に関する医療体制					
	5	3. 母性看護における主要な理論と概念/ 母性看護に有用な理論や概念を学ぶ	VII 母性看護の歴史					
	6		I 母性看護における主要な理論、概念					
	7	4. 母子と家族の発達/概念と機能、発達課題について理解する	I 家族機能とは II 母子関係における家族の変化					
	8	5. 母子保健/母子保健の動向を理解する	III 家族の発達と課題					
		6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ リプロダクティブヘルスにおける主要概念と動向を理解する	I 母子保健統計 II 法律 III 母子保健施策				講義	廣田
	9	7. 女性看護学/ ・女性の各ライフステージにおける身体の特徴を理解する	I リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは					
	10		II 近年の動向 III 受胎調節と家族計画					
	11	・女性特有の健康問題について理解する	(1) 女性の生涯における健康と支援					
	12		(2) 女性の生涯における健康問題と看護					
	13		(3) 思春期における成長・発達と健康問題					
	14		身体・心理・社会的特徴、月経異常、性感染症、妊娠など					
	15		(4) 成熟期における成長・発達と健康問題					
	16		身体・心理・社会的特徴、家族計画、月経随伴症状、不妊など					
	17		(5) 更年期における成長・発達と健康問題					
	18		身体・心理・社会的特徴、更年期障害、骨粗鬆症など					
	19	8. リプロダクティブヘルス/ライツに関する看護	(1) 人工妊娠中絶と看護			講義	安藤	
	20	の実際	(2) ドメスティックバイオレンスと看護					
	21	・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する	(3) 性暴力被害者と看護					
	22	倫理的課題、医学的課題について学習する	(4) 児童虐待と看護					
	23	9. 女性生殖器系の看護/ ・正確な診療介助の必要性がわかる	(1) 外来・病棟における看護			講義	安藤	
	24		(2) 診療介助における看護					
	25	・女性生殖器疾患患者に必要な看護援助が理解	(3) 症状とその病態に対する看護					
	26	できる	(4) 臓器別疾患看護					
	27	10. 乳腺系の疾患看護	・子宮癌のある患者の看護、性感染症のある患者の看護			講義	田邑	
	28		(1) 乳腺系の疾患看護					
	29		・乳房腫瘍・乳房手術					
	30	試験	・化学療法・放射線療法・ホルモン療法			廣田・安藤・田邑・八重樫		
計	30							
評価方法・配点	筆記試験（八重樫30点・廣田40点・安藤15点・田邑15点）							
テキスト	母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護					メジカルフレンド社	¥3,300	
	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器					医学書院	¥2,530	
備考								

専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅰ	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	山本 清美 ・ 吉本 恵 ・ 鈴木 優美							
授業概要	母性看護学概論の学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする妊娠・分娩期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。また、近年増加している遺伝相談・不妊治療に関する看護を学ぶ。							
ねらい	1. 妊娠期・分娩期の対象の心身の変化と異常の徴候、セルフケアを促す看護について理解できる。 2. 遺伝・不妊に関連する看護に必要な知識を理解することができる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 妊娠期にある母子の生理・異常と看護/14h	(1) 正常な妊娠の経過			講義	山本	
	2	・ 妊娠期の身体心理社会的変化が理解できる。	(2) 胎児・胎盤の特徴と生理的变化					
	3	・ 胎児の成長・発達と胎児付属物について理解できる。	(3) 母体の身体的変化					
	4	・ 妊娠の診断方法、妊婦健康診査の目的、内容を理解する。	(4) 妊婦と家族の心理的变化と社会的特徴					
	5	・ 出産育児に向けての準備と支援について理解する。	(5) 妊娠の診断					
	6	・ 家族メンバー間の役割調整や関係性調整につ	(6) 妊婦の管理					
	7	いての支援を理解する。	(7) 妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント					
	8	・ ハイリスク妊娠の管理に必要な検査に	(8) 妊婦と家族への看護					
	9	ついて理解する。	(9) ハイリスク妊娠と看護					
	10	・ 妊婦、胎児、胎児付属物に見られる異常	(10) 妊娠の異常					
	11	について理解する。	(11) 合併症妊娠					
	12	・ 異常の早期発見や予防的ケアを学ぶ。	(12) 母子感染					
	13		(13) 妊娠期の健康問題への看護					
	14							
	15	2. 分娩期にある母子の生理・異常と看護/9h	(1) 分娩期とは (2) 正常な分娩の経過			講義	吉本	
	16	・ 分娩の経過に伴う身体心理的变化が理解できる。	(3) 産婦・胎児と家族の健康のアセスメント					
	17	・ 分娩期を妊娠期からの連続としてとらえ、分娩	(4) 産婦・胎児と家族の看護					
	18	期ケアに必要な情報を述べるができる。	(5) 分娩経過における異常					
	19	・ 産婦が満足した分娩となるよう、基本的な看護	(6) 胎児および胎児付属物の異常					
	20	を学ぶ。	(7) その他の分娩の異常 (8) 分娩時母体損傷					
	21	・ 分娩時の異常と看護が理解できる。	(9) 分娩時異常出血、産科ショック					
	22	・ 帝王切開を受けた産婦の看護を理解する。	(10) 産科処置、産科手術					
	23		(11) 分娩期の健康問題への看護					
	24	3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの	(1) 生殖補助医療と倫理的課題					
	25	倫理的問題	(2) 出生前診断と倫理的課題					
	26	・ 生殖補助医療、出生前診断と倫理的課題に	(3) 自己決定の尊重 (4) プライバシーの保護					
	27	ついて理解を深める	(5) 遺伝による課題					
	28	4. 妊娠成立のために	(1) ヒトの発生 (2) 性分化メカニズム					
	29		(3) 性周期 (4) 性行動 (5) 性反応 (6) 受精 (7) 着床					
	30	試験				山本・吉本・鈴木		
計	30							
評価方法・配点	筆記試験（山本50点 吉本35点 鈴木15点）							
テキスト	母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護					メジカルフレンド社	¥3,300	
	母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護					メジカルフレンド社	¥5,060	
	ナーシンググラフィカ母性看護学③ 母性看護学技術					メディカ出版	¥2,573	
備考								

専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅱ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	30
担当講師	佐藤 奈美 ・ 水嶋 美佐子 ・ 鹿又 亜由紀 ・ 西村 さつき							
授業概要	母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰの学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする産褥期・新生児期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。							
ねらい	1. 産褥期における対象の心身の変化と異常の徴候、母性の発達を促す看護について理解できる。 2. 新生児の生理的变化、異常の徴候、新生児の安全と成長発達を促す看護について理解できる。 3. 新生児に必要な看護援助技術が習得できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 産褥期にある母子の生理・異常と看護/14h ・産褥期の身体心理社会的変化が理解できる。 ・母親になることを支える看護について理解する。 ・産褥期に起こる母体の器質的疾患について理解する。 ・健康問題をもった褥婦の看護について理解する。	(1) 正常な産褥期の経過 (2) 褥婦の健康と生活のアセスメント ・基礎情報・身体・心理・社会的アセスメント ・日常生活のアセスメント (3) 褥婦と家族への看護 ①日常生活とセルフケア②産褥復古 ③産後のメンタル④親子の愛着形成 ⑤母乳育児⑥育児技術獲得⑦バースレビュー ⑧家族の再調整⑨職場復帰 (4) 産褥期における異常 ①子宮復古不全②産褥血栓症、肺血栓塞栓症 ③恥骨結合離開④産褥期感染症⑤乳房・乳頭トラブル ⑥産褥期精神障害・ボンディング障害 (5) 産褥の異常への看護 ①感染症②乳房・乳頭のトラブル③新生児の健康障害や死産・周産期死亡④精神障害			講義	佐藤	
	2				講義	水嶋		
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8						演習	鹿又 西村
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15	2. 新生児の特徴と生理的变化と異常の看護/15h ・新生児が子宮外環境に適応するまでの経過を理解する。 ・出生前における母親とその家族の健康状態のアセスメントについて理解する。 ・出生直後から生後24時間以内の看護について理解する。 ・移行期を過ぎてから行う看護について理解する。 ・新生児に見られる異常について学ぶ。 ・健康問題をもつ新生児の看護について理解する。	(1) 新生児の生理的特徴と子宮外環境への適応 (2) 新生児の健康と発育のアセスメント ・出生直後のアセスメント (3) 正期産新生児の健康状態のアセスメント ・新生児の観察ポイント・新生児の全身観察 ・生理的体重減少・日常生活のアセスメント (4) 早期新生児とその家族への看護 ・出生の看護・退院時の看護 (5) 胎児にみられる異常 ・胎児の形態異常・胎児の発育異常 ・胎児機能不全・そのほかの異常			講義	鹿又 西村	
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30	試験				佐藤・水嶋・鹿又・西村		
計	30							
評価方法・配点	筆記試験（佐藤25点、水嶋30点、鹿又45点）							
テキスト	母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護					メジカルフレンド社	¥3,300	
	母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護					メジカルフレンド社	¥5,060	
	ナーシンググラフィカ母性看護学③ 母性看護学技術					メディカ出版	¥2,573	
備考								

専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅲ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	15
担当講師	八重樫 明子							
授業概要	紙上事例により、1人の女性の妊娠期・分娩期・産褥期の情報を段階的に提供し、各時期の状態を分析解釈し、看護過程を学習する。また、その事例の新生児の情報から状態を分析・解釈し、必要な看護を考える。身体的側面だけでなく、新生児の誕生と母子相互作用、家族の発達について考える。							
ねらい	1. 紙上事例を通して周産期におこりやすい看護上の問題を理解し、必要な看護を展開できる基礎的能力を養う。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 妊娠期の看護/5h ・妊娠初期・中期・末期に生じやすい看護問題が理解できる。	(1) 妊婦についての情報 (2) 看護過程の展開 ①妊娠初期 アセスメント・看護援助			講義 演習	八重樫	
	2	・セルフケア能力を高める必要性について理解できる。	②妊娠中期 アセスメント・看護援助					
	3	・目標と具体策について考えることができる。	③妊娠末期 アセスメント・看護援助					
	4	・実施と評価の視点について理解することができる。						
	5							
	6	2. 分娩期の看護/3h ・分娩期に生じやすい看護問題が理解できる。	(1) 分娩についての情報 (2) 看護過程の展開			講義	八重樫	
	7	・分娩が円滑に進行するための援助がわかる。	アセスメント・看護援助					
	8	・夫婦の満足できる出産体験への援助を考える。						
	9	3. 産褥期の看護/5h ・産褥期に生じやすい看護問題が理解できる。	(1) 産褥期の情報 (2) 看護過程の展開			講義 演習	八重樫	
	10	・ヘンダーソンの項目の未充足状況を考えられる。	アセスメント・看護問題					
	11	・産褥期の心身の休息、乳汁分泌、育児技術習得に向けた看護、異常の早期発見と対処に関連した具体的看護援助を考えられる。	看護目標・看護計画					
	12							
	13	4. 新生児期の看護/3h ・新生児期に生じやすい看護問題が理解できる。	(1) 新生児についての情報 (2) 看護過程の展開					
	14	・黄疸や体重が生理的範囲内で経過するための具体策が理解できる。	アセスメント・看護問題			講義 演習	八重樫	
	15	・新生児の環境調整の必要性がわかる。	看護目標・看護計画					
計	15							
評価方法・配点	提出物100点							
テキスト	母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護					メジカルフレンド社	¥3,300	
	母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護					メジカルフレンド社	¥5,060	
	ナーシンググラフィカ母性看護学③ 母性看護学技術					メディカ出版	¥2,573	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野	授業科目	精神看護学概論	開講時期	2年前期	単位	1	時間数	30
担当講師	南 里江子 ・ 佐々木 諭							
授業概要	ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について学び、精神障害の基本的な考え方と理解を深め、精神看護や保健活動についての基礎的知識の基盤をつくる。							
ねらい	1. こころの発達と健康について基礎的知識を学び、自己のこころの発達・健康について考える機会とする。 2. 精神障害者の社会的立場を理解し看護者としてノーマライゼーションの視点をもつことができる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 精神の健康と障害/4h	(1)精神の健康 (2) 精神看護の役割			講義	南	
	2	心の健康を考え精神障害の概要を理解する。	課題レポート「心の健康」					
	3		(3)精神障害とは (4)精神の健康とは					
	4		(1)人間の心の諸活動					
	5	2. 人間の心のはたらき/6h	①意識と認知機能 ②知能 ③感情					
	6	人間の心の機能と危機について理解する。	④人格と気質					
	7		(2)心の仕組みと人格の発達					
	8		①フロイト精神分析・防衛機制					
	9		②エリクソンの漸成的発達理論					
	10		③対象関係論					
	11	3. 関係のなかの人間/7h	(3)心の危機とストレス					
	12	家族・社会集団と人間の関連を理解する。	①危機理論 ②ストレスコーピング					
	13		課題レポート「自己の防衛機制と対処の傾向」					
	14		(1)家族の役割関係と感情					
	15		(2)人間と集団					
	16		(3)社会の変化と心の不調					
	17		テーマを選択し、グループワーク学習					
	18		「いじめ」「引きこもり」などについて					
	19		原因・分類・発現しやすい年代・現状					
	20		・対策・感想を発表する					
	21	4. 精神看護学の対象/4h	(1)日本の精神科医療の現状と課題			講義	佐々木	
	22	精神障害者の苦痛と回復について理解する。	(2)ICFの考え方、精神障害の予防					
	23		(3)精神障害者の体験世界					
	24		(4)精神障害者の回復					
	25	5. 社会の中の精神障害/2h	(1)精神障害と治療の歴史					
	26	精神障害者の置かれた立場を理解する。	(2)日本の精神医療のながれ					
	27		(3)精神障害と文化 (4)スティグマ					
	28	6. 精神障害と法律・制度/6h	(1)法律と位置づけ 知的障害、精神障害					
	29	精神障害者を支援する環境と課題を理解する。	(2)国連決議・憲法・関連法					
	30		(3)制度・社会福祉施設					
			(4)エンパワメント 当事者インタビュー					
			(5)ノーマライゼーションと課題					
		筆記試験				南・佐々木		
計	30							
評価方法・配点	南70点（筆記試験40+課題レポート30点） 佐々木30点（筆記試験20点+課題レポート10点）							
テキスト	系統看護講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎			医学書院		¥2,420		
	系統看護講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開			医学書院		¥2,530		
備考								

専門分野	授業科目	精神看護学援助論 I	開講時期	2年	単位	1	時間数	15
担当講師	嶋田 進一郎・早坂 郁・大江 開・古俣 皓涼							
授業概要	精神障害の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。							
ねらい	1. 精神障害の症状、診断と分類、検査と治療について学習し、精神障害のある患者の対象理解を深める。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 精神疾患の理解と治療/3h	(1) 脳の仕組みと精神機能			講義	嶋田	
	2	脳の仕組みと精神機能を理解し、精神科における治療の基本的知識を理解する	① 脳の部位とニューロン・シナプス② 神経伝達物質					
	3	2. 精神疾患・精神症状の定義・症状・診断・治療/11h 主な精神疾患の症状・治療について理解する	(2) 臨床検査 ① 脳波② 画像診断③ 脳脊髄液				早坂	
	4		(3) 心理検査 ① 知能 ② 記銘力 ③ 人格					
	5		(4) 薬物療法 向精神薬の分類と効果・適応・副作用					
	6		(5) 電気けいれん療法					
	7		(6) 精神療法 (7) リハビリテーション療法				大江	
	8		(1) 精神疾患の基礎知識					
	9		① 精神疾患の概念					
	10		② ICD-10とDSM-V					
	11		(2) 主な疾患				古俣	
	12		② 精神作用物質使用による精神・行動の障害 アルコール依存症					
	13		① 器質性精神障害					
	14		認知症、てんかん					
	15	試験				嶋田・早坂・大江・吉本		
計	15							
評価方法・配点	筆記試験100点（嶋田25点、早坂30点、大江25点、古俣20点）							
テキスト	系統看護講座	専門分野	精神看護学①	精神看護の基礎			医学書院	¥2,420
	系統看護講座	専門分野	精神看護学②	精神看護の展開			医学書院	¥2,530
備考								

専門分野	授業科目	精神看護学援助論Ⅱ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	30					
担当講師	武田 美恵子・澤野 留美子・保科 幸広・金山 幾代・新村 はるか・吉田 小百合・武藤 健大												
授業概要	精神障害をもつ対象に主要症状、疾患、治療処置別の看護の方法および、地域における看護について学ぶ。												
ねらい	1. 精神障害をもつ対象を理解し、症状に応じた看護の方法を理解する。 2. 精神障害をもつ対象が地域で生活するための支援の方法を理解する。												
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当						
	1	1. 安全な治療環境への看護/7h 精神障害をもつ対象の特徴や必要な看護援助の概要について理解する	(1) 治療的関わり	(2) 入院の目的と意味	講義		新村						
	2		(3) 精神科病棟の特徴										
	3		(4) 入院時のアセスメント										
	4		(5) 患者の権利擁護										
	5		(6) リスクマネジメント 行動制限と処遇										
	6		①自殺 ②暴力 ③無断離院						武田				
	7	2. 普遍的セルフケア支援/4h 精神障害をもつ患者に共通するセルフケア支援について理解する	(1) 空気・水・食物	(2) 排泄とそのプロセス	講義		澤野						
	8		(3) 清潔と身嗜み、身の回りの整理整頓										
	9		(4) 活動と休息										
	10		(5) 孤独と社会との関りのバランス										
	11		(6) 安全を保つ能力、私物と金銭										
	12		3. 症状の看護/7h 精神症状、支援が必要な状態における看護の方法を理解する	(1) 興奮 (2) 抑うつ (3) 躁						講義		保科	
	13	(4) 幻覚・妄想											
	14	(5) せん妄 (6) 不安 (7) 暴力											
	15	(8) 強迫 (9) 無為・自閉 (10) 拒絶											
	16	(11) 水中毒											
	17	(12) 不眠 (13) 希死念慮・自殺企図 (14) アディクション アルコール依存			金山								
	18	4. 治療における看護ケアとリエゾン 薬物療法時の看護とリエゾンについて理解する	(1) 薬物療法における看護		講義		新村						
	19		(2) 心理社会的療法 (3) ECT時の看護										
	20		(4) 心身相関と健康、心身症、TIC、性の健康										
	21		(5) リエゾン精神看護										
	22		5. 精神障害者の回復と地域における ケア/8h 精神障害者の回復状態を理解し、地域で生活するために必要な看護支援を理解する	(1) 精神科におけるリハビリテーション リカバリー・ストレングス・エンパワメント						講義		武田	
	23			(2) 家族の看護 (3) 精神科外来看護									
	24	(3) 長期入院患者の地域移行支援											
	25	(4) 地域における精神障害者支援 アウトリーチ											
	26	(5) 精神科訪問看護											
	27	(6) 社会資源活用とケアマネジメント、行政との連携											
	28		(7) 精神科作業療法		講義		吉田						
	29		(8) 他職種との連携										
	30	試験						武田・澤野・保科・金山・新村・吉田・武藤					
計	30												
評価方法・配点	筆記試験100点（武田20点 新村20点 澤野15点 保科15点 金山15点 吉田10点 武藤5点）												
テキスト	系統看護講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎,						医学書院	¥2,420					
	系統看護講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開,						医学書院	¥2,530					
	看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術						メジカルフレンド社	¥3,740					
備考													

専門分野	授業科目	精神看護学援助論Ⅲ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	30		
担当講師	南 里江子									
授業概要	人間関係形成技術を基盤とし、精神的支援が必要な対象者に必要な看護援助技術を学ぶ。看護師のメンタルヘルスの維持について学ぶ。事例を通して看護過程を展開する能力を養う。									
ねらい	1. 患者 - 看護師関係構築・発展のための基礎的知識・技術を身につける。 2. 紙上事例展開により精神障害をもつ対象を理解し、対象に適した看護を考える。									
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当			
	1	1. 援助技術の構築/8h	(1) ケアの原則			講義・演習	南			
	2	患者・看護師関係構築のために基本的なコミュニケーション技法を身につける	① 尊厳の尊重 ② 接近と境界							
	3		③ 秘密と金品の授受							
	4		(2) ケアの方法							
	5	2. 患者 - 看護師関係/7h プロセスレコードで自己を振り返ることの意義を理解し、自己理解を深められる。 患者-看護師関係に関する看護理論を読み、自己の看護観を深められる。	① そばにいないこと ② 遊びとユーモア							
	6		③ 話を聞くこと ④ 受けとめること							
	7		⑤ 話をする ⑥ 自分を出す							
	8		⑦ 相手を知る質問 ⑧ 自己決定を支える							
	9		⑨ 気持ちに焦点をあてる ⑩ 率直さ ⑪ 承認							
	10		(1) 看護理論			講義				
	11	3. 看護師のメンタルヘルス/6h 看護の役割と自己の感情に関する問題を 知り、対処行動を考えることができる	① ペプロウ ② トラベルビー			講義				
	12		(2) プロセスレコード							
	13		① 目的（復習） ② 場面の再構成と考察 自己理解を深めるために						演習	
	14	4. 紙上事例展開/8h 症状や患者の生きにくさを理解し、対象に 適した看護援助を考えることができる	(1) 感情労働			演習				
	15		(2) 共感とは							
	16		(3) リアリティショック							
	17		(4) 共感疲労							
	18		(5) バーンアウト							
	19		(6) 感情労働を生きのびるために							
	20	試験	(1) 統合失調症の事例展開 被害妄想のある成人患者 回復期から退院に向けて			演習				
	21		① 個人ワーク							
	22		② グループワーク							
	23		③ 看護展開発表							
計	30									
評価方法・配点	筆記試験50点 + 提出課題20点 + 紙上事例展開30点									
テキスト	系統看護講座 専門分野 精神看護学①		精神看護の基礎			医学書院			¥2,420	
	系統看護講座 専門分野 精神看護学②		精神看護の展開			医学書院			¥2,530	
	看護実践のための根拠がわかる		精神看護技術			メジカルフレンド社			¥3,740	
	参考図書 ウィーデンバック；コミュニケーション, 日本看護協会出版会 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス, 大森武子他, 医歯薬出版株式会社									
備考	※実務経験のある教員等による授業科目									

専門分野	授業科目	看護研究	開講時期	2年	単位	1	時間数	30
担当講師	八重樫 明子							
授業概要	看護研究の基礎的知識と看護専門職者として研究的視点を学び、看護研究の意義を理解し、生涯にわたり学習する姿勢を身につける。2年次の臨地実習体験をケースレポートとしてまとめる。							
ねらい	1. 看護における研究の意義と基礎的知識を理解し、生涯にわたる看護研究実践の基盤をつくる。 2. 看護研究活動を体験し、研究的視点を持ち学びを深める。 3. ケースレポート発表を通し、自己の看護観を深める機会とする。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 看護研究の意義と基礎的知識/7h	(1) 看護研究とは			講義/演習	八重樫	
	2	看護研究の意義と基礎的知識を理解する。	(2) 看護研究の始め方					
	3		(3) 情報の検索と吟味					
	4		(4) 研究における倫理的配慮					
	5		(5) 研究デザイン					
	6		(6) データの収集と分析					
	7							
	8	2. ケースレポート演習/22h	(1) ケースレポートの進め方			講義/演習	八重樫	
	9	計画を作成し、自分の看護体験や考えを	(2) 課題の明確化					
	10	ケースレポートに適切に表現できる。	(3) ケースレポートの作成					
	11		(4) 研究計画書の作成					
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30	試験	(4) ケースレポート発表 (発表会は教科外活動時間)					
計	30							
評価方法・配点	筆記試験・文献レビュー演習(50点)/ケースレポート演習(50点)							
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 第1版					医学書院	¥2,640	
	看護学生のためのレポート・論文の書き方 第6版					金芳堂	¥2,200	
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

専門分野Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰ	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	45
担当教員	小山田 理恵						
実習の考え方	<p>基礎看護学実習Ⅰは、学生が初めて病院施設に行き、患者と出会う実習である。学生は看護学校に入学してから人間や看護についての学習を行い、3か月が経過している。この実習では、病院施設とそこで働く様々な職種、患者の療養の場である入院環境、看護師の業務に触れ、自己の看護師像を育む第一歩となる実習となる。看護への関心を高め今後の学習の動機付けとなるようにする。</p> <p>実習方法としては病院施設全体のオリエンテーションを通し病院施設を知り、療養の場である入院環境を知る。患者をひとり受持ち、生活者としての対象の環境を考える。さらに受持ち患者との関りを通し人間関係構築に必要なコミュニケーション技術について学ぶ。</p> <p>実習前に事前学習として実習目的を理解・整理し、実習に臨む。また、この実習では「看護学生として必要な態度」を考え、自己の傾向を理解する第一段階とする。実習最終日にグループ発表を行い、様々な疾患・年齢の患者を受け持った他学生の体験を聞くことで学びを共有する。</p>						
実習目的	病院の概要を知り看護の対象となる患者の療養環境やコミュニケーションの実際を学ぶ						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院施設とそこで働く職種や療養環境が理解できる 2. 人間関係構築に必要なコミュニケーション技術について学ぶことができる 3. 看護師の役割について考えることができる 4. 看護学生として必要な態度を考え、自己の傾向や課題に気づくことができる 						
時間数	実習内容						実習形態
	午前	午後					
1日目/9時間	<ul style="list-style-type: none"> ・GW「グループ目標を決める」「自分たちが学びたいこと ・全体発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟実習映像を観る(看護学生の初めての实習ガイド) ・行動計画発表について説明・記載 ・患者への同意説明について ・受け持ち同意シミュレーション ・報告・反省方法について 					学内実習
2日目/17時間	<ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーション ・受持ち患者へ同意説明 ・コミュニケーション ・看護ケア見学 ・カルテからの情報収集 ・食事見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・看護ケア見学 ・受持ち患者の療養環境情報収集 ・本日の反省・報告 学生カンファレンス「受持ち患者の環境整備」 					病棟実習
3日目/25時間	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画発表(援助計画の確認をしてもらう) ・看護ケア見学 ・環境整備の実施 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・受持ち患者の療養環境について情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア見学 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・本日の反省・報告 学生カンファレンス「環境整備を実際におこなって考えたこと、明日のために」 					病棟実習
4日目/33時間	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画発表(修正した援助計画の確認をしてもらう) ・看護ケア見学 ・環境整備の実施 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア見学 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・受持ち患者の療養環境について情報収集 ・病棟カンファレンス「実習での学びと反省」 ・本日の反省・報告 					病棟実習
5日目/41時間	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画発表(修正した援助計画の確認をもらう) ・看護ケア見学 ・環境整備の実施 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア見学 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・受持ち患者の療養環境について情報収集 ・病棟カンファレンス「実習での学びと反省」 ・本日の反省・報告 					病棟実習
6日目/45時間	<ul style="list-style-type: none"> ・GW「グループ目標の評価」「自分たちの学び」について発表準備 ・全体発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録整理 					学内実習
評価方法・配点	評価表参照(100点)						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	開講時期	1年後期	単位	2	時間数	90
担当教員	小山田 理恵						
実習方法	<p>基礎看護学実習Ⅱでは、観察技術を活用し、アセスメントに必要な情報を意図的に収集し、得られた情報の整理を行う。そこから対象に必要な日常生活援助について考え、援助計画を立案し、実施するという看護過程の要素を学ぶ。看護援助は患者の安全・安楽・羞恥心に留意しながら、バイタルサイン測定や日常生活援助を行う。また実施する看護援助の説明を受け持ち患者に行い、看護実践者としての自覚を育む機会とする。</p> <p>この実習ではペア実習を行うことによって、自分ひとりで考え悩むだけでなく、視点を変えることの大切さや違う意見を聞くことで、深く対象を理解することにつながる、協力して様々な問題を解決する過程等を学ぶ。ここでは1年生最後の実習ということで、改めて看護師に必要な知識・技術・態度を考え、自己の課題や課題を認識する。</p>						
実習目的	受け持ち患者に関する情報の意図的な収集、日常生活援助計画を立案し、実施する。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解に必要な意図的な観察と情報収集が行える 2. 得られた事実（情報）から必要な日常生活援助を考えることができる 3. 人間関係に必要なコミュニケーション技術を活用できる 4. 日常生活援助を安全安楽に実施することができる 5. 看護学生に必要な態度を改めて考え、自己の傾向や課題を認識できる 						
時間数	実習内容						実習形態
	午前			午後			
1日目/9時間	・事前学習確認			・行動計画について ・行動計画立案			学内実習
2日目/18時間	・援助計画・SOAPについて			・援助計画・SOAPシュミレーション ・情報収集シュミレーション			学内実習
3日目/26時間	・施設オリエンテーション ・受持ち患者へ説明・同意 ・昼食見学			・看護ケア見学・実施 ・情報収集(カルテや観察、コミュニケーションから)			病棟実習
4日目/34時間	・看護ケア ・情報収集(カルテや観察、コミュニケーションから)						病棟実習
5日目/42時間	・看護ケア ・情報収集(カルテや観察、コミュニケーションから)						病棟実習
6日目/50時間	・看護ケア ・情報収集(カルテや観察、コミュニケーションから)						病棟実習
7日目/58時間	問題の明確化、看護の方向性の確認、看護計画立案						学内実習
8日目/66時間	・問題の解決に向けて看護ケア						病棟実習
9日目/74時間	・問題の解決に向けて看護ケア						病棟実習
10日目/82時間	・問題の解決に向けて看護ケア						病棟実習
11日目/83時間	・問題の解決に向けて看護ケア						病棟実習
12日目/90時間	記録整理						学内実習
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野	基礎看護学実習Ⅲ	開講時期	2年後期	単位	2	時間数	90
担当教員	小山田 理恵						
実習の考え方・ 実習方法	基礎看護学実習Ⅱでは、受持ち患者の意図的な情報収集の必要性について理解した。 基礎看護学実習Ⅲでは、受持ち患者の病理的状态や常在条件を意識して意図的な情報収集を行い、健康障害により変化した生活を、根拠をもって理解し、生活上の問題を明確化し、看護計画の立案により、看護過程の一連を学ぶ。また、対象を中心とした看護を提供するため、人間関係形成のためのコミュニケーション能力や、看護師の責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護実践の基礎的能力を養う。						
実習目的	健康障害により変化した受持ち患者を理解するための情報収集ができ、根拠をもって生活上の問題を明確にし、看護援助を考えることができる。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状態を、根拠をもってアセスメントし、看護問題を明確にできる。 2. 対象の安全・安楽・自立に配慮し、望ましい生活をふまえた援助が実施できる。 3. 実施した援助を振り返り、患者の反応を客観的に捉えることができる。 4. 看護学生としての自覚と責任を持った行動について考えることができる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野	地域・在宅看護論実習Ⅰ	開講時期	1年前期	単位	1	時間数	45
担当教員	硯見 由江						
実習の考え方	地域・在宅看護論実習Ⅰは、1年次の地域・在宅看護論Ⅰが終了した後に位置付けた。地域・在宅看護論Ⅰでは地域で暮らす人々とその環境を理解し、暮らしが健康に与える影響、フィールドワークを通し人々の生活の基盤となる身近な環境について学んでいる。地域・在宅看護論Ⅰで学んだ知識をもとに小児期・青年期・成人期・老年期の各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、コミュニケーションや活動への参加を通し、地域の暮らしの実際を理解する。家族のつながりや健康と生活との関連（誰がどうやって健康を管理しているか、セルフケアの状態等含む）、働く意味や生きがい、余暇活動の意味を学び、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ機会とする。						
実習目的	地域の暮らしを理解し、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解する。 2. 環境と生活と健康の関連を理解することができる。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。 						
時間数	実習内容						実習形態
1日目/9時間	地域・在宅看護論実習Ⅰ方法について再確認 ・事前学習（各施設の概要について調べまとめる）						学内実習
2日目/18時間	午前各施設実習 各施設に出向き活動に参加・コミュニケーションを図る			午後学内実習 ・個人ワーク（各施設実習での学びをまとめる）			地域実習
3日目/27時間	学内実習 ・個人ワーク（各施設実習での学びをまとめる）						学内実習
4日目/36時間	午前各施設実習 各施設に出向き活動に参加・コミュニケーションを図る			学内実習 ・午後：グループカンファレンス（学んだことをまとめる・発表資料作成）			地域実習
5日目/45時間	学内実習 ・午前：全体会（グループごとに発表・意見交換）			午後：個人ワーク（まとめのレポート作成）			学内実習
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野	地域・在宅看護論実習Ⅱ	開講時期	2年後期	単位	1	時間数	45
担当教員	硯見 由江						
実習の考え方・ 実習方法	<p>地域・在宅看護論実習Ⅰでは、各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、地域の暮らしの実際、家族のつながりや健康と生活との関連、人々が支え合って生きることの重要性を学んだ。地域・在宅看護論Ⅱでは、現在、在院日数の短縮化により、家庭での治療・処置を継続するケースも多く、対象者のみならず家族を支援していくこと、外来・病棟、多職種との連携が重要となっていることを受け、外来の機能と役割、外来看護の役割を学ぶ。そして、地域で暮らしながら病気を発症し、必要な治療を受け、病気とともに暮らす人々や病気に罹患することなく地域で暮らす人々への看護の実際を学ぶ機会とする。</p>						
実習目的	外来の機能と役割、外来看護を学び、地域で暮らす人々の健康レベルに応じた支援の実際を学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来の機能と役割、外来看護を理解する。 2. 地域で暮らす人々の健康レベルに応じた看護を理解する。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野	成人・老年看護学実習Ⅰ	開講時期	2年後期	単位	2	時間数	90
担当教員	狩野 智子						
実習の考え方・ 実習方法	成人・老年看護学実習Ⅰは、基礎看護学実習Ⅲ終了後の実習となる。基礎看護学実習Ⅲでは対象の情報収集から看護計画立案までの看護過程の一連の流れについて学習してきた。そのため、対象の身体的・心理的・社会的特徴について捉え、病気をもつ対象を統合的に理解して、その人らしい生活が送れるような病期にあった看護を考え根拠に基づく援助が行えるようにする。また、家族内で中心的役割を果たす成人期や、人生の最終段階にある老年期の対象の発達課題と役割を理解し、入院によってどのように役割が変化しているのかということも考えられるようにする。さらに、看護師になる上での自己の課題を具体的に考える機会とする。						
実習目的	対象を統合的にとらえ、病期にあった看護を考え根拠に基づく看護援助が行える。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期・老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 病期を踏まえ、根拠をもった看護援助が行うことができる。 3. 看護学生としての自己課題とその対策がわかる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野	小児看護学実習 I	開講時期	2年前期	単位	1	時間数	45
担当教員	松野 絢						
実習の考え方・ 実習方法	小児看護学実習 I は、2年次の小児看護学概論が終了した後に位置付けた。小児看護学概論では成長発達の基本的知識や小児各期の成長発達、健康、家族、看護、小児と家族を取り巻く環境について学んでいる。幼稚園実習では小児看護学概論で学んだ知識をもとに幼稚園で健康な小児との交流を通し、小児の成長発達や基本的生活習慣の獲得を促す関わりと学生の背景として出生率の低下や核家族化により小児と接する機会が少なくなっているため、小児との接し方を学ぶ。						
実習目的	幼児期にある対象を理解し、成長発達や基本的生活習慣の獲得を促す関わりを学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な幼児の成長発達を理解することができる。 2. 健康な幼児の成長発達にあった支援の方法を理解することができる。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

基礎分野	授業科目	保健体育Ⅱ	開講時期	3年	単位	1	時間数	15
担当講師	石田 和輝							
授業概要	スポーツやレクリエーションが、健康・体力の維持増進につながっていることを身を持って理解し、無理なく実践を行う。							
ねらい	1. 自己の心身活動と休息のバランスを図るための様々な運動について認識できる。 2. 人間にとって運動習慣を身につけることの重要性が理解でき、自己の健康管理につなげることができる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. レクリエーション/ レクリエーションが心身に及ぼす効果について理解でき、身を持って体験できる	(1)心身の健康と身体活動 (2)科学的根拠に基づいた運動処方 (3)リラクゼーション法 (4)レクリエーション実践			講義 実技	フィジック(株)	
	2							
	3	2. ストレッチ/ ストレッチ運動が心身に及ぼす効果を理解できる	(1)ストレッチの効果について (2)ストレッチの実践			講義 実技		
	4							
	5		演習レポート作成			演習		
	6		・事例をもとにレクリエーションを計画する					
	7							
	8							
	9	3. スポーツの社会的役割/ スポーツの社会的役割について理解できる スポーツの意義・効果について学習する	(1)心身にわたる健康の保持増進 (2)スポーツを通じた人との交流 (3)経済的発展への寄与			講義		
	10	4. ライフスタイルとスポーツ/ 生活の中にスポーツを取り入れる必要性が理解できる	・現代社会における人々の健康とスポーツ (1)運動不足・ストレスの解消 (2)生活習慣病の予防 (3)主体的なスポーツの取り組み					
	11		(4)演習レポート作成			演習		
	12		・スポーツの社会的役割・ライフスタイルにおける意義について					
	13		レポート作成					
	14							
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	試験100点							
テキスト	資料随時配布							
備考								

専門基礎分野	授業科目	病態治療学Ⅵ	開講時期	3年	単位	1	時間数	30
担当講師	長島 正直・伊藤 卓也・松岡 慶太・好井 透							
授業概要	<p>放射線医学：医療は日々発展をとげており、治療内容についても変化し続けている。ここでは、放射線療法について系統的に学び、患者の状態を正しく把握する基礎的知識を養う。</p> <p>東洋医学：東洋医学の基本的概念と知識を学び、患者を診る視点を広げ、日常生活援助の中で活用できる基本的知識を養う。</p> <p>医療機器：医療機器を安全に使用するための環境や管理、原理や実際を知る。</p>							
ねらい	<p>1. 放射線医学：放射線医療に関する基礎的概念と必要な知識が理解できる。</p> <p>2. 東洋医学：東洋医学の基本的概念と必要な知識が理解できる。</p> <p>3. 医療機器：医療機器の管理や原則について理解できる。</p>							
時間数	単元名/単元目標	学習内容	授業形態	担当				
1 2 3 4	1. 画像診断/ 各検査の特徴となりたち、診断について概要が理解できる	(1)画像診断 (2)X線診断 (3)CT (4)MRI (5)超音波検査 (6)核医学検査 (7)IVR・血管造影	講義	長島				
5 6 7 8	2. 放射線治療/ 放射線治療の目的、特徴、留意点等が理解できる	(1)放射線治療総論 ①治療の原理 ②治療の基礎 ③正常組織の有害反応と耐容線量 ④治療可能比 ⑤放射線治療の特徴と目的 ⑥照射法の種類 (2)放射線治療と看護 ①看護師の役割 ②治療中に見られる急性有害反応 (3)放射線治療各論 ①脳腫瘍 ②頭頸部癌 ③肺癌 ④食道癌 ⑤乳癌⑥直腸癌⑦子宮頸癌⑧前立腺癌 (4)放射線防護 ①放射線障害 ②放射線防護		伊藤				
12 13 14 15 16 17 18 19 20 21	1. 東洋医学の基礎知識/ 基本となる東洋医学の概念が理解できる 2. 患者のとらえ方/ 四診の重要性が理解できる 3. 看護ケアに活用できる東洋医学/ ケアに関する知識が理解できる	(1)東洋医学・漢方医学 (2)概念の理解 ①気・血・水 ②陰陽 ③虚実 ④表裏 ⑤五臓 ⑥五行 (1)四診 (2)望診 (3)問診 (4)聞診 (5)切診 (1)指圧・マッサージ ①東洋医学における治療の目的 ②ツボ刺激 (2)生薬 ①生薬と漢方薬 ②漢方薬と剤型 ③漢方薬と近代医薬品の違い ④漢方薬・生薬と有害事象 ⑤服用の際の注意点 ⑥服用後の経過観察 (3)養生に関する知識と技術 ①歴史的背景 ②養生訓 ③現代における養生法	講義	松岡				
22 23 24 25 26 27 28 29	1. 医療機器の原理、安全管理と基本/ 医療機器を安全に使用するための管理が理解できる 医療機器の原理と実際について理解できる	(1)医療機器を安全に使うために ①医療機器を使用する環境 医療機器運用に必要なこと 医療機器使用時の電气的安全性、医療ガス・医療ガス設備 (2)測定用医療機器の原理と実際 ①心電図モニター ②パルスオキシメータ (3)治療用医療機器の原理と実際 ①人工呼吸器 ②吸引装置 ③吸入療法機器 ④輸液ポンプ ⑤除細動器	講義	好井				
30	試験			長島・伊藤・松岡・好井				
計	30							
評価方法・配点	筆記試験（放射線医学35点、東洋医学35点、医療機器の原理と実際30点）							
テキスト	系統看護学講座 臨床放射線医学	医学書院	¥2,420					
	JJNブックス 絵でみる和漢診療学	医学書院	¥2,640					
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[4]臨床看護総論	医学書院	¥2,750					
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ	医学書院	¥3,190					
備考								

専門基礎分野	授業科目	地域保健論	開講時期	3年後期	単位	1	時間数	15
担当講師	北見市ミント宅急便派遣講師							
授業概要	地域の生活環境について考察する。北見市の現状と課題、災害対策やボランティア、地域の保健の現状等を理解する。							
ねらい	北見市の行政事業を理解する。地域で健康に暮らしていくための課題と問題解決を考える力を養う。							
	時間	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 北見市の現状を知る/	・北見市のまちづくり			講義	企画政策課	
	2	北見市の政策、税金と財政状況等の現状が理解できる	・わかりやすい都市計画			講義	都市計画課	
	3		・常呂川の水環境			講義	環境課	
	4		・選挙のあれこれ			講義	選挙管理委員会	
	5		・暮らしと市税			講義	市民税課	
	6	2. 快適な市民生活を送るために/	・北見市の公園と緑地、緑の持つ大切さについて			講義	公園緑地課	
	7	北見市の環境を知り、個人が努力すべきことや、北見市の課題が理解できる	・北見市の上水道			講義	浄水場	
	8		・みんなを守る地球を守る下水道			講義	下水道課	
	9		・北見市の公共交通について			講義	地域振興課	
	10		・ごみの分別と排出方法			講義	廃棄物対策課	
	11	高齢者の心身の健康を保持するための生涯学習の必要性について理解できる	・生涯学習の必要性			講義	生涯学習課	
	12	3. 安心できる市民生活を送るために/	・災害から身を守るために			講義	防災機器管理課	
	13	防災意識を高める必要性が理解できる	・自主防災意識を高めるために			演習		
	14					演習		
	15					演習		
計	15							
評価方法・配点	課題レポート100点							
テキスト	随時資料配布							
備考								

専門基礎分野	授業科目	看護関係法令	開講時期	3年	単位	1	時間数	15
担当講師	保川 香奈							
授業概要	法の基礎知識と保健医療福祉に関する諸制度の概要と規定する諸法令を理解する。ここでは、保健師助産師看護師法を基礎として、医療者として業務責任についても自覚する機会とする。							
ねらい	1. 看護職に必要な法令を学び、その解釈と活用に関する知識を得るとともに、保健医療制度の中での看護職の役割と責務を理解する。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 法の概念/	(1) 法の概念			講義/演習	保川	
	2	法の一般的、基本的事項について、看護関係法令の基本となる法律について理解できる	(2) 法の分類 (3) 衛生法 (4) 厚生行政のしくみ					
	3	2. 医事法/	(1) 看護法					
	4	保健師助産師看護師法の概要について	① 保健師助産師看護師法					
	5	理解できる	② 人材確保の促進に関する法律					
	6	医療関係者に関する法、医療法の概要について理解できる	(2) 医師法・医療法 ① 医師法 ② 歯科医師法 ③ 医療法					
	7	3. 保健衛生法/	(3) 医療関係資格法 (4) 保健医療福祉資格法 (5) 医療を支える法 (6) 人の死に関する法 (7) 緊急時・災害時の医療に関する法					
	8	国民の健康の保持・増進を目的とした保健衛生法の種類と内容について理解できる	(1) 共通保健法 (2) 分野別保健法 (3) 感染症に関する法 (4) 食品に関する法					
	9	4. 薬務法/	(1) 薬務法（医療品・毒物等）					
	10	国民の生活上必要な物品の製造等の規制について理解できる	(1) 営業 (2) 環境整備					
	11	5. 環境衛生法/	(1) 費用保障					
	12	国民の生活環境の維持・改善の法律について理解できる	(2) 年金と手当					
	13	6. 社会保険法/	(1) 共通福祉 (2) 分野別福祉					
	14	社会保障を構成する『費用』に関する法について理解できる	(1) 労働法 (2) 社会基盤整備					
	15	7. 福祉法/	(1) 環境法 (2) 大気汚染防止法					
		公的扶助・社会福祉の法律について理解できる						
		8. 労働法と社会基盤整備						
		労働条件・職場の安全衛生についての法律について理解できる						
		9. 環境法/						
		環境の保全、公害防止に関する法律について理解できる						
		試験						
計	15							
評価方法・配点	筆記試験100点							
テキスト	系統看護学講座専門基礎 健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令						医学書院	¥2,640
備考								

専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅲ	開講時期	3年	単位	2	時間数	90
担当教員	加藤 あずさ						
実習の考え方・ 実習方法	<p>成人看護学実習Ⅲでは、急性期にある患者の特徴を理解して、危機的状況に応じた看護を学ぶ。成人看護学実習Ⅱまでに行った、慢性期、回復期、終末期で学んだ看護をふまえ、急性期にある対象に起きている変化・反応をもとに、根拠をもって安全・安楽に配慮した看護援助ができる実習とする。また対象が受けている援助の必要性や、自分自身の行った看護援助の妥当性についても考えられるようにする。</p> <p>さらに急性期における対象者の特徴、看護の特徴を理解し、看護師の役割を学びチームの連携の大切さを学ぶ。</p>						
実習目的	急性期にある対象の危機的状況に応じた看護を理解することができる。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象の特徴を理解することができる。 2. 急性期にある対象に対する看護援助の必要性を理解することができる。 3. 急性期看護の特徴が理解できる。 4. 看護師になるうえでの自己課題を表現することができる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野Ⅱ	老年看護学実習Ⅱ	開講時期	3年	単位	2	時間数	90
担当教員	狩野 智子						
実習の考え方	<p>老年看護学実習Ⅰ-1では、地域で生活する高齢者の理解、尊重する姿勢やコミュニケーションの方法について学んだ。また老年看護学実習Ⅰ-2では、健康障害を持つ高齢者の理解や日常生活の援助について学んだ。</p> <p>老年看護学実習Ⅱでは、看護の対象を高齢者自身だけではなく、家族も含め総合的に捉え老年看護に必要な基礎的実践能力を養う。そして、看護を通して老年看護の考えを深められるようにする。</p>						
実習方法	<p>老年期にある患者1人を受持ち看護過程の展開をする。実習2週目3日目には、優先順位をもとに解決すべき看護上の問題点を1つ以上あげ看護計画を立案する。実習2週目3日目、4日目に看護計画をもとに援助を行う。3週目に、看護計画の評価修正を行う。</p>						
実習目的	健康障害のある高齢者を総合的に理解し、生活上の問題を解決するために必要な看護を実践する。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある高齢者を、身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。 2. 健康障害のある高齢者に、個別性をふまえた援助が実施できる。 3. 受持ち対象に必要な、保健医療福祉制度や他職種との連携の必要性がわかる。 4. 看護学生としての自覚と責任を持った行動を身につけることができる。 5. 老年看護に必要なことが考えられる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野Ⅱ	小児看護学実習	開講時期	3年	単位	2	時間数	90
担当教員	松野 絢						
実習の考え方	小児看護は、健康不健康を問わず、すべての小児、そしてその家族を対象とする。小児期は、大人への成長発達の過程であり、人間形成の基礎となる時期である。小児は自らのもてる力と環境との相互作用の中で家族を含め、大人の養護を受けながら各時期の発達課題を達成し、成熟に向けてつねに変化する存在である。小児看護学実習ではこれらの小児の特性をとらえ、小児らしい生活や成長発達ができるように、小児と家族を支援する看護の実際を学ぶ。						
小児看護学実習Ⅰ	幼稚園	実習方法	学生の背景として出生率の低下や核家族化により小児と接する機会が少なくなっている。そのため、幼稚園で健康な小児との交流を通し、小児の成長発達や基本的な生活習慣の獲得を促す関わりを学ぶ。				
		実習目的	幼児期にある対象がわかり、成長発達を促す関わり方を学ぶ。				
		実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な幼児の成長発達がわかる。 2. 健康な幼児の成長発達にあった支援の方法がわかる。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。 				
小児看護学実習Ⅱ	外来実習・病棟実習	実習方法	<p>小児看護学実習Ⅰで学んだことをもとに、外来・病棟で小児とその家族の状態を理解し、その小児らしい生活や成長発達ができるように病気による苦痛の緩和、健康の回復・維持・増進を図るための看護の実際を学ぶ。</p> <p>核家族化により、小児への接し方、健康問題が生じた際の対処の仕方などに不安を持つ家族が増えている。その一方で在院日数の短縮化により、家庭での治療・処置を継続するケースも多く、家族を支援していくこと、外来・病棟、多職種との連携が重要となっている。</p> <p>外来実習では、健診の見学や受診した小児・家族の映像事例を通し外来受診の流れを知り、看護師の関わりを具体的に見て、小児・家族に必要な支援を学ぶ。</p> <p>病棟実習では、病気や入院が小児・家族に及ぼす影響について考え、苦痛の緩和、健康回復・維持に向けて小児とその家族に必要な支援を学ぶ。</p>				
		実習目的	小児とその家族を理解し苦痛の緩和、健康の回復・維持・増進を図るための看護の実際を学ぶ。				
	外来	実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科外来看護の特徴を理解することができる。 2. 看護学生として適切な行動がとれる。 				
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気・入院が受持ち患児や家族へ及ぼす影響を理解することができる。 2. 受持ち患児・家族へ必要な支援について理解し、実施または見学することができる。 3. 小児看護について学んだことを述べるができる。 4. 看護学生として適切な行動がとれる。 				
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野Ⅱ	母性看護学実習	開講時期	3年	単位	2	時間数	90
担当教員	八重樫 明子						
実習の考え方	<p>母性看護学では、女性の一生を通じた健康の維持増進と疾病予防、妊産褥婦および新生児への看護活動、次世代の健全育成について学習を深めてきた。近年の学生は少子・核家族化の社会に生まれ育ち、周産期にある看護の対象に接する機会が少ない。そのような中で臨地実習において、妊娠期にある女性とその家族、分娩を経て産褥期にある女性と新生児およびその家族との関わりを通し、統合体としての母性や、親となる家族を理解する機会としたい。また、対象の生命と安全を守る観察の視点と看護技術およびセルフケアを促す看護支援の実際を体験するものとして、実習を通して、次世代が健康に生まれ育つことが人類の普遍的な願いであることを実感し、母性看護の対象への看護支援の重要性を理解するとともに、学生自身の母性・父性を育む機会を期待する。産褥・早期新生児期は対象の変化が著しいため、学生は対象の変化を捉え、指導者とともに安全・安楽な看護実践を体験できる実習としたい。</p> <p>妊娠期の看護である母性看護学実習Ⅰを経てから、産褥・新生児期の看護である母性看護学実習Ⅱへ進めるような実習配置とする。</p>						
母性看護学実習Ⅰ	妊娠期	実習目的	妊娠期にある対象に必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。				
		実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠各期の妊婦の生理的・心理社会的変化を理解し、必要な看護支援を理解する。 2. 妊婦健診時の看護技術の一部を安全・安楽に実施できる。 3. 看護学生として主体的に取り組み、ふさわしい態度と行動ができる。 				
		実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内で1人の妊婦の紙上事例を用いて、妊娠各期の情報収集を行う。 2. 対象の状態をアセスメントし、必要な看護支援を考える。 3. 妊婦健診時に必要な観察・測定・検査を理解する。 4. 妊婦健診に必要な知識・技術を習得する。 				
母性看護学実習Ⅱ	分娩・産褥・新生児期	実習目的	産褥婦および新生児の看護援助の実際を通し、看護実践のための基礎的能力を養う。				
		実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩・産褥期の正常な身体的・心理社会的変化を理解し、必要な看護援助がわかる。 2. 新生児期の正常な経過を理解し、必要な看護援助を実践できる。 3. 褥婦および新生児への必要な看護援助を計画し、対象を尊重して安全・安楽に実践できる。 4. 看護学生として主体的に取り組み、ふさわしい態度と行動ができる。 5. 人間の営みと生命の尊さを実感し、母性観・父性観を意識することができる。 				
		実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学生は産婦または褥婦と新生児を受持ち、母性看護の看護過程を展開する。 2. 各学生は援助の必要性を理解し、指導者とともに看護援助を実施する。 3. 男子学生は必ず女子学生とペアになり実習を行う。 				
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（母性看護学実習Ⅰ+母性看護学実習Ⅱ）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

専門分野Ⅱ	精神看護学実習	開講時期	3年	単位	2	時間数	90
担当教員	南 里江子						
実習の考え方	<p>現代社会では社会の変化に伴うさまざまな要因により心身に変調をきたしやすく、誰しものが心の病となり得る。精神障害は5大疾病のなかでも患者数が最も多く、現代社会において精神看護のニーズは高まっている。精神看護の対象者は精神障害により生きにくさを抱えた当事者だけでなく、その家族、コミュニティーをも含む。臨地で当事者との関わりを通して対象を理解し、精神障害による生きにくさ、対人関係への影響、精神障害をもちながらもその人らしく生きるためにどのような看護が必要かを考える。看護の対象および実習に係る人々とのコミュニケーションを通して、人間関係形成能力を高め、相手も自分も尊重する態度を培いたい。さらに自己の傾向を省察し自分の強みと課題の理解を深める実習としたい。</p> <p>精神看護学実習Ⅰでは、知的障害のある対象も広義の精神障害ととらえ、地域で福祉施設を利用しながら生活する精神障害のある人と関わり、人間関係を形成する能力を高め、対象理解を深める実習とする。また、ノーマライゼーションや社会に対する働きかけを考える機会としたい。</p> <p>精神看護学実習Ⅱでは、入院している精神障害のある患者を受持ち、対象の苦しみに関心を寄せ、その人の生きにくさを理解し、その人らしく生きていけるために必要な看護支援とはどのようなことかを考える。短い実習期間のなかで学生が実践できることは多くはない。その中で、そばにいることの意味、患者や家族の尊厳を守ること、自分自身を理解し自分を大切にすることの重要性、精神科だからこそ必要な身体的ケアに気づける実習としたい。学生個々が実習をとおして学びえた「精神看護で大切なこと」を表現し、カンファレンスでグループメンバーと学びを共有したい。</p>						
精神看護学実習Ⅰ	実習目的	地域社会で生活している精神に障害のある人の特徴と支援を理解する。					
	実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害のある人の社会保障制度を理解できる。 2. 地域で生活している精神に障害のある人の特徴を理解できる。 3. 精神に障害のある人への生活支援の実際をとおして必要な支援と課題を理解できる。 4. 精神に障害のある人と対象を尊重した態度で接することができる。 					
	実習方法	施設の活動に沿って臨地実習指導者とともに生活支援や作業支援を行うなかで利用者と接する。					
精神看護学実習Ⅱ	実習目的	治療を必要とする精神に障害のある対象を理解し、看護を実践する基礎的能力を養う。					
	実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の思いや考えをありのままに受けとめ、意図的な関わりを行うことができる。 2. 人と人との相互関係を理解し、自己の傾向に気付くことができる。 3. 対象の症状と生活史の関連を考え、精神症状による対象の生きにくさを理解し、その人らしく生きるために必要な看護援助を理解できる。 4. 精神科デイケアにおける看護の役割を理解できる。 5. 看護学生としての役割と自己成長を自覚し、精神看護における看護観を養うことができる。 					
	実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害により入院している患者を受持ち、病棟の看護計画に則り看護師と共に日常生活援助を行う。 2. プロセスレコードにより場面の再構成を毎日行い、人と人の相互関係を考察する。 3. 精神科デイケアのオリエンテーションを受け、三次予防についてレポートにより理解を深める。 					
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（精神看護学実習Ⅰ+精神看護学実習Ⅱ）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

統合分野	授業科目	在宅看護論援助論Ⅱ	開講時期	3年	単位	1	時間数	30
担当講師	奥泉 輝朗							
授業概要	在宅看護過程の考え方・対象の捉え方・すすめ方を学び、事例を通して在宅看護の特徴をふまえた看護過程を進める。訪問前の準備・マナーを学び、訪問中止事例についてグループワークを行い原因と対策を考える。初回訪問時のロールプレイを行い訪問看護時の状況をイメージし、自己の課題を考える。							
ねらい	1. 在宅看護過程を活用し、療養者・家族の思いや望みを達成するための看護を理解する。 2. 訪問中止事例や訪問時の模擬体験を通して、自己の課題に気づく。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	(1) 在宅看護過程の考え方	①基本構造			講義	奥泉	
	2	/在宅看護過程の考え方がわかる	②生活を重視した目標達成志向					
		(2) 在宅看護における対象の捉え方	①在宅看護における対象の理解					
		/在宅看護における対象の捉え方がわかる	②在宅看護における健康・療養のとらえ方 ③在宅看護の目ざすところ					
	3	(3) 在宅看護過程の進め方	①対象に関連する情報収集					
	4	/在宅看護過程の進め方がわかる	②アセスメントの枠組み ③望みを中心においた情報の整理 ④アセスメント⑤健康問題の明確化 ⑥看護計画の作成⑦訪問看護援助の実施と評価					
	5	(4) 在宅看護過程の事例展開	パーキンソン療養者の在宅看護過程			演習		
	6	/在宅看護の特性を踏まえ、事例を通して看護過程を進めることができる	特徴 ①パーキンソン病の症状の特徴 ②在宅での治療の特徴 ③症状と経過に合わせた援助 ④生活機能分類に応じた看護の視点 ⑤介護負担のアセスメントと社会資源導入 健康問題と看護のポイント ①転倒・転落による打撲・骨折②薬物治療と副作用の出現③便秘④嚥下困難⑤コミュニケーション障害⑥意欲低下、抑うつ⑦合併症の予防					
	7		病理的状態の理解					
	8		基本的欲求の充足状況のアセスメント					
	9							
	10							
	11	(5) 訪問時の心構え	①訪問前の準備				講義 演習 (GW)	
	12	/訪問前の準備・訪問時のマナーがわかる /訪問中止となった原因や対策がわかる	②訪問時のマナー ③訪問中止事例の考察					
	13		基本的欲求の充足状況のアセスメント				演習	
	14		家族・介護状況のアセスメント					
	15		全体像の整理					
	16		看護課題の明確化・看護計画立案					
	17							
	18							
	19							
	20							
	21	(6) 訪問場面のロールプレイング	①看護学生役②看護師役③療養者役④介護者役のいずれかをを演じ、模擬体験からの学びを共有する			演習 (GW)		
	22	/訪問看護時の状況がイメージでき、自己の課題に気づくことができる	健康上の問題点の明確化					
	23		看護計画立案					
	24							
	25							
	26							
	27	(7) グループ学習発表・振り返り	学習の発表・振り返り・まとめを通して、学びを深める			講義		
	28							
	29	(8) まとめ						
	30							
評価方法・配点	提出物 100点							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア						メディカ出版	¥3,740
	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術						メディカ出版	¥3,080
備考	※実務経験のある教員等による授業科目							

統合分野	授業科目	医 療 安 全	開講時期	3年	単位	1	時間数	30		
担当講師	吉田 千亜紀									
授業概要	安全で質の高い看護を実践するため、医療事故防止・回避に必要な知識・技術・態度を習得する。									
ねらい	1. 医療事故予防に必要な知識・技術・態度を習得し、実践できる基礎的な能力を習得する。 2. 医療安全を学び、専門職としての責任について認識できる。									
時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当			
1	1. 医療安全を学ぶ意義/ 2 人間の特性、事故が起こる背景を知り、 医療安全を学ぶ必要性が理解できる	(1) 人間の特性、事故発生のメカニズム について (2) 医療安全を学ぶ意義				講義	吉田			
3	2. 医療安全と看護の責務/ 4 看護職の法的規定、医療事故に伴う 5 看護師の法的責任について理解できる	(3) 医療職と安全努力の責務 (1) 看護師および看護業務の法的な規定 医療事故に伴う看護師の法的責任				講義 GW・発表				
6	3. 医療安全施策と医療の質の評価/ 8 医療安全に関する国の取り組み、法的 位置づけが理解できる	(2) 医療事故に伴う法的責任の動向 (1) 医療安全に関する国の取り組み (2) 医療事故等の定義・分類 (3) 医療事故等の報告制度 (4) 医療の質の評価				講義				
9	4. 医療機関、看護における安全対策/ 10 個人、組織としての取り組み、安全対策 11 の視点、事故原因の分析方法、対策につ 12 いて事例を通し、分析・対策を学ぶこと 13 ができる	(1) 組織としての取り組み (2) 看護業務と事故発生要因 (3) 医療事故の種類と安全対策 (4) 看護業務上の危険と防止策 (5) 患者・家族との協働による取り組み (6) 安全文化の醸成 ・KYT (7) 事故の原因分析、対策の検討 脳梗塞後遺症右上下肢の麻痺がある事例を 用いて演習 ・インシデント事例の分析、対策検討 チューブ類の予定外抜去防止策の実施				講義 講義 演習 演習				
14						講義				
15						演習				
16						講義				
17						演習				
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28	5. 医療事故後の対応/ 29 医療事故発生の初期対応の考え方、方法 紛争化の防止対策について理解できる	(1) 医療事故発生時の初期対応の考え方 方法 (2) 紛争化の防止対策 (3) 患者の安全確保と医療者の安心確保 のために				講義				
30	試験									
計	30									
評価方法・配点	筆記試験 100点									
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全								メディカ出版	¥3,300
備考										

統合分野	授業科目	看護マネジメント	開講時期	3年	単位	1	時間数	15
担当講師	古田 英子							
授業概要	看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療および他職種との連携・協働を円滑に行えるよう、看護管理の目的と機能について学ぶ。組織の一員としてリーダーシップ・メンバーシップを発揮できる基礎的能力を養う。ここでは組織運営の視点を含めたマネジメント方法及び管理的思考についても学習する。							
ねらい	1. 看護業務の概要が理解できる。 2. 看護マネジメントの概要が理解でき、看護の機能の全体像がとらえられる。 3. 看護マネジメントに必要な組織についての考え方が理解できる。							
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当	
	1	1. 看護とマネジメント/ 看護管理学に含まれる要素についての概略が理解できる	(1) 看護管理学とは (2) マネジメントとは (3) 看護におけるマネジメント			講義 GW	古田	
	2	2. 看護ケアのマネジメント/ 看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて理解できる	(1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 (2) 患者の権利の尊重 (3) 安全管理 (4) チーム医療 (5) 看護業務の実践					
	3	患者の権利や安全管理など看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解できる						
	4							
	5	3. 看護職のキャリアマネジメント/ 看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて理解できる	(1) キャリアとキャリア形成 (2) 看護職のキャリア形成 (3) 看護専門職としての成長 (4) タイムマネジメント (5) ストレスマネジメント					
	6							
	7	4. 看護サービスのマネジメント/ 組織としての看護サービスのマネジメントが理解できる	(1) 看護サービスのマネジメント (2) 組織目的達成のマネジメント (3) 看護サービス提供のしくみづくり (4) 人材のマネジメント (5) 施設・設備環境のマネジメント (6) 物品のマネジメント (7) 情報のマネジメント (8) 組織におけるリスクマネジメント (9) サービスの評価					
	8	組織としての目的を達成することについて理解できる						
	9	看護サービス提供のしくみづくりについて理解できる						
	10	人材のマネジメントについて理解できる						
	11	施設・設備環境・物品のマネジメントが理解できる						
	12	組織におけるリスクマネジメントについて理解できる						
	13	対象者のサービスの評価について理解できる						
	14	5. マネジメントに必要な知識と技術/ 組織の構造とその原則、マネジメントとの関連について理解する	(1) 組織とマネジメント (2) リーダーシップとマネジメント (3) 組織の調整 (4) 組織と個人					
	15	6. 看護を取り巻く諸制度/ 看護や看護職の定義・法制度について理解できる 看護業務と職業倫理について理解できる	(1) 看護の定義 (2) 看護職 (3) 看護実践の領域と場 (4) 医療制度					
	15	試験						
計	15							
評価方法・配点	筆記試験100点							
テキスト	系統別看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理						医学書院 ¥2,750	
備考								

統合分野	授業科目	統合演習	開講時期	3年	単位	1	時間数	30	
担当講師	加藤 あずさ								
授業概要	看護実践能力を高めるために、これまで学んできた知識や技術を統合し、対象の状態に応じた安全・安楽な看護を提供する能力を養う。								
ねらい	1. 複数患者の安全・安楽に考慮した、援助の優先度決定の方法が理解できる。 2. 多重課題状況下で、複数患者の優先度を変更し行動化できる。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容				授業形態	担当	
	1 2	1. 複数受持ち時の看護/ 多重課題に対して、対象の安全・安楽に考慮して、援助の優先順位を根拠をもって考えることができる	(1) オリエンテーション ・ 科目の概要、ねらい、学習スケジュールについて、事例提示 ①糖尿病（教育入院目的の50歳代女性 インスリン量調整 朝からインスリン増量 生活指導） ②誤嚥性肺炎（急性期治療目的の80歳代女性 酸素療法、点滴治療中、認知症あり） ③パーキンソン病（薬物調整、リハビリテーション目的の60歳代女性 転倒リスクあり介助歩行が必要） (2) 複数患者への看護 ・ 対象理解（優先順位のポイントを考える。） ①について・治療に関連して起こり得ること ②について・病期から考えられること ・ 認知症のある対象が酸素・点滴治療を受けている事 ③について・ADL状況から起こり得ること ・ 複数患者の優先順位を考えた行動計画立案 (3事例の優先すべき状況を判断し、行動計画を立案する。)				講義	加藤	
	3 4 5 6 7 8						演習 個人ワーク		
	9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24		・ 複数患者の優先順位を考えた行動計画立案 (個人で立案した行動計画を持ち寄り、それぞれの優先順位や時間配分を、どのように判断したかを、行動計画立案の根拠について話し合う。) ・ 追加情報に対する行動計画変更 (追加情報を聞き、計画の調整・修正を行う。)				GW		
	25 26 27 28 29	2. 技術演習 多重課題に対して、対象の安全・安楽を考慮した技術が実践できる	(1) 複数患者への優先度を考えた援助 (学生それぞれが、看護師、患者役をし援助を行う。) (2) 割り込み状況に対する対応 (患者役の学生に割り込み状況を提示後、患者役は割り込み状況を実施し、看護師役が対応する。) (3) リフレクション ・ 統合実習に向けての自己の課題の明確化				演習		
	30	試験	筆記試験						
評価方法・配点	筆記試験30点 演習70点								
テキスト									
備考	※実務経験のある教員等による授業科目								

統合分野	授業科目	災害・国際看護	開講時期	3年前期	単位	1	時間数	15	
担当講師	尾山 とし子								
授業概要	現在、災害が日本だけでなく世界各国で頻発しており、災害看護の需要が高まっている。災害に対する備えや発災後の対応、心のケアなどの基礎的知識を学ぶ。 また、人種や国籍をこえた普遍性のもつ看護の役割について国際看護の視点を学ぶ。								
ねらい	1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解できる。 2. 国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えられる。								
	時間数	単元名/単元目標	学習内容			授業形態	担当		
	1	1. 災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって 災害看護と国際看護を学ぶ意義が理解できる	(1) 看護とグローバル化した社会 (2) 求められる災害看護学と国際看護学				尾山		
	2	2. 災害看護学/ 災害活動を円滑に行うための法的根拠や災害	(1) 災害看護の歩み (2) 災害医療の基礎知識						
	3	医療の基礎知識が理解できる	災害の定義、災害の種類と健康障害、災害 医療の特徴、災害と情報、職種間連携、 法律、国内の救援活動の現状・課題						
	4	4. 災害サイクル別の看護活動、被害者特性に応	(3) 災害看護の基礎知識 (4) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護						
	5	じた看護の展開が理解できる	急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期 (5) 被災者特性に応じた災害看護の展開						
	6		子供、妊産婦、高齢者、障害者、精神 障害者、慢性疾患 (6) 災害とこころのケア						
	7	3. 地震災害看護の展開/ 災害看護活動の紙上事例の展開を行い、	(1) 発災直後から出動までの看護 (2) 急性期の看護						
	8	具体的な活動が理解できる	(3) 亜急性期の看護 (4) 慢性期・復興期の看護						
	9	4. 国際看護学/ 国際看護の基礎知識が理解できる	(1) 国際看護学とは (2) グローバルヘルス						
	10	諸外国との協力をはじめとした国際看護活動	(3) 国際協力のしくみ (4) 文化を考慮した看護						
	11	を具体的に考察できる	(5) 国際看護活動の展開過程 (6) 開発協力と看護						
	12		(7) 国際救援と看護						
	13	5. 災害看護学・国際看護学における倫理・ 教育・研究/今後の災害看護学・国際看護学	(1) 災害看護学における倫理・教育・研究 (2) 国際看護学における倫理・教育・研究						
	14	を支え、発展させていくために必要な倫理・ 教育・研究についての概要が理解できる							
	15	試験							
計	15								
評価方法・配点	筆記試験100点								
テキスト	系統看護学講座 災害看護・国際看護学						医学書院	¥2,640	
備考									

統合分野	在宅看護論実習	開講時期	3年	単位	2	時間数	90
担当教員	奥泉 輝朗						
実習の考え方	在宅看護は、年齢、健康レベル、疾病を問わず、地域で暮らす生活者を対象としており、各看護学の知識や技術をより実践に近い形で統合することを目指している。そのため、在宅看護論実習では、「療養者とその家族の思いや望みを達成する」ことを在宅看護の目標としてとらえた上で、地域で療養しながら生活する、あらゆるライフサイクルにある人々の健康段階や家族単位の日常生活状況を踏まえた看護実践活動について学ぶ機会とする。また、対象とその家族の望む生活を支援するのが、医療機関のみならず保健福祉の連携・協働から成り立っていることを理解し、地域包括ケアシステムにおける看護の機能と看護職の役割を学ぶ機会とする。						
実習目的	地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能、在宅における看護実践活動を学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の健康上の課題を知り、健康回復・維持・増進・予防のための制度と活動がわかる。 2. 在宅看護の対象である在宅療養者と家族の特徴と必要な支援を考えることができる。 3. 在宅看護に必要な看護支援の特徴と方法がわかる。 4. 在宅療養者の生活を支援するための社会資源活用の必要性と多くの職種との連携・協働の重要性がわかる。 5. 地域で暮らす人の場に他人が訪問することの意味を考え、対象に配慮した行動がとれる。 						
実習方法	<p>【1週目】 保健所・保健センター・外来・退院支援室・社会福祉協議会・地域包括支援センター・居宅介護事業所の指導者から学内で講義形式で実際に学ぶ。1週目木曜日に実習における学びの共有をグループでおこない気づきを深める。</p> <p>【2・3週目】 訪問看護ステーションの訪問看護師に同行し、地域・自宅で病気や障害をもちながら生活している対象者とその家族宅を訪問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1事例を受け持ち利用者とし、対象の理解、経過の予測、支援の必要性を考える。 ・受持ち利用者は学生間で調整して、受け持ちを決定する。 2. 受持ち利用者訪問時以外の時間 ・受持ち利用者以外の同行訪問 ・ほかの職種との連携・協働を見ることが出来る場面（ケアマネジャーとの連絡調整場面見学・サービス利用者会議見学・外来受診同行・理学療法士との訪問同行等の見学など）をできるだけ体験し、多くの関係機関・職種の理解、連携・協働の重要性とその方法の理解につなげる。 ・学生全員が同じ実習施設で実習できないため、3週目の金曜日の学内実習日に実習における学びの共有をおこなう。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						

統合分野	統 合 実 習	開講時期	3年後期	単 位	2	時間数	90
担当教員	加藤 あずさ						
実習の考え方・実習方法	<p>統合実習は、1年次の基礎看護学実習、2年次の成人看護学実習、そして、3年次の老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論実習と様々な特徴を踏まえた実習終了後に行う実習である。3年間の集大成の実習でもあり、学内の講義やそれぞれの実習で習得した知識・技術・態度を統合し、実務に即した実習を行うことで看護実践能力を向上する機会としたい。実習を通して看護における管理の実際を知り、複数受持ち対象の看護の優先度の考え方を理解する。また、受持ち対象だけではなく病棟全体の1日の流れ、チームの一員としての看護職の役割についても考えさせたい。さらに、教育目標にある①人間尊重、看護職として自覚と責任に基づく行動②科学的根拠に基づく看護実践③他職種と連携・協働する能力④生涯にわたり主体的に自己研鑽していく姿について到達度を明らかにし、課題達成に向けての方法を考えられるようにする。</p>						
実習目的	実習を通して看護の優先度を判断し、対象に応じた看護実践能力と基礎的なマネジメント能力を養う。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際が理解できる。 2. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割がわかる。 3. チームの一員として、複数患者の看護の優先度を判断し、安全・安楽・自立・個別性に配慮した看護が実践できる。 4. 看護職として自己の役割と責任を意識した行動がとることができる。 5. 実習を通して看護観を養い、将来、看護師としての自己の課題を明確にできる。 						
授業形態	実習						
評価方法・配点	評価表参照（100点）						
テキスト	適宜紹介						
備考	※実務経験のある教員等による授業科目						